

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホジツン リッキョウカクイン 学校法人 立教学院									
フリガナ大学の名称	リッキョウダガク タクイン 立教大学大学院 (Rikkyo University Graduate School)									
大学の位置	東京都豊島区西池袋3丁目34番1号									
大学の目的	キリスト教に基づく人格の陶冶を旨とし、学校教育法（昭和22年法律第26号）により学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めること。									
新設学部等の目的	科学研究に人工知能・データサイエンス技術を応用し、科学研究の深奥を究め、かつ、キリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与すること。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	人工知能科学研究科 [Graduate School of Artificial Intelligence and Science] 人工知能科学専攻 (M) [Graduate Program in Artificial Intelligence and Science] 計	2年	63人	-年次人	126人	修士 (人工知能科学)	令和2年4月第1年次	東京都豊島区西池袋3丁目34番1号		
大学院設置基準第14条による教育方法の特例を実施										
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	人工知能科学研究科人工知能科学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位				
		20科目	11科目	4科目	35科目					
教	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計			
	新設	人工知能科学研究科 人工知能科学専攻		8人 (8)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	9人 (9)	0人 (0)	12人 (12)
		計		8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	- (-)
	既	文学研究科 英米文学専攻(博士課程前期課程)		7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	4 (4)
		文学研究科 英米文学専攻(博士課程後期課程)		7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		文学研究科 史学専攻(博士課程前期課程)		9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	10 (10)
		文学研究科 史学専攻(博士課程後期課程)		9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	9 (9)
		文学研究科 教育学専攻(博士課程前期課程)		11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	9 (9)
		文学研究科 教育学専攻(博士課程後期課程)		11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
	文学研究科 日本文学専攻(博士課程前期課程)		6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	7 (7)	

員

組

織

設

文学研究科 日本文学専攻(博士課程後期課程)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
文学研究科 フランス文学専攻(博士課程前期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	3 (3)
文学研究科 フランス文学専攻(博士課程後期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
文学研究科 ドイツ文学専攻(博士課程前期課程)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	2 (2)
文学研究科 ドイツ文学専攻(博士課程後期課程)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
文学研究科 比較文明学専攻(博士課程前期課程)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	4 (4)
文学研究科 比較文明学専攻(博士課程後期課程)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
文学研究科 超域文化学専攻(博士課程前期課程)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	3 (3)
文学研究科 超域文化学専攻(博士課程後期課程)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
経済学研究科 経済学専攻(博士課程前期課程)	29 (29)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	11 (11)
経済学研究科 経済学専攻(博士課程後期課程)	25 (25)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	0 (0)
理学研究科 物理学専攻(博士課程前期課程)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	21 (21)
理学研究科 物理学専攻(博士課程後期課程)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
理学研究科 化学専攻(博士課程前期課程)	12 (12)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	18 (18)
理学研究科 化学専攻(博士課程後期課程)	12 (12)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)
理学研究科 数学専攻(博士課程前期課程)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	4 (4)
理学研究科 数学専攻(博士課程後期課程)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
理学研究科 生命理学専攻(博士課程前期課程)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	12 (12)
理学研究科 生命理学専攻(博士課程後期課程)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
社会学研究科 社会学専攻(博士課程前期課程)	21 (21)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	21 (21)
社会学研究科 社会学専攻(博士課程後期課程)	21 (21)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	0 (0)
法学研究科 法学政治学専攻(博士課程前期課程)	24 (24)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	33 (33)	0 (0)	9 (9)
法学研究科 法学政治学専攻(博士課程後期課程)	34 (34)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	43 (43)	0 (0)	0 (0)

の

概

分

要

観光学研究科 観光学専攻 (博士課程前期課程)	15 (15)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	1 (1)
観光学研究科 観光学専攻 (博士課程後期課程)	15 (15)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	0 (0)
コミュニティ福祉学研究科 コミュニティ福祉学専攻 (博士課程前期課程)	26 (26)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	13 (13)
コミュニティ福祉学研究科 コミュニティ福祉学専攻 (博士課程後期課程)	26 (26)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	0 (0)
ビジネスデザイン研究科 ビジネスデザイン専攻 (博士課程前期課程)	18 (18)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	28 (28)
ビジネスデザイン研究科 ビジネスデザイン専攻 (博士課程後期課程)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
21世紀社会デザイン研究科 比較組織ネットワーク学専攻 (博士課程前期課程)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	35 (35)
21世紀社会デザイン研究科 比較組織ネットワーク学専攻 (博士課程後期課程)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
異文化コミュニケーション研究科 異文化コミュニケーション専攻 (博士課程前期課程)	16 (16)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	18 (18)
異文化コミュニケーション研究科 異文化コミュニケーション専攻 (博士課程後期課程)	16 (16)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	0 (0)
経営学研究科 経営学専攻 (博士課程前期課程)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	12 (12)
経営学研究科 経営学専攻 (博士課程後期課程)	12 (12)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	0 (0)
経営学研究科 国際経営学専攻 (博士課程前期課程)	6 (6)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	16 (16)	0 (0)	28 (28)
現代心理学研究科 心理学専攻 (博士課程前期課程)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	5 (5)
現代心理学研究科 心理学専攻 (博士課程後期課程)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
現代心理学研究科 臨床心理学専攻 (博士課程前期課程)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	8 (8)
現代心理学研究科 臨床心理学専攻 (博士課程後期課程)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
現代心理学研究科 映像身体学専攻 (博士課程前期課程)	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	4 (4)
現代心理学研究科 映像身体学専攻 (博士課程後期課程)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
キリスト教学研究科 神学専攻 (博士課程前期課程)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	9 (9)
キリスト教学研究科 神学専攻 (博士課程後期課程)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
博士課程前期課程 計	298 (298)	90 (90)	0 (0)	8 (8)	396 (396)	0 (0)	— (—)
博士課程後期課程 計	292 (292)	72 (72)	0 (0)	3 (3)	367 (367)	0 (0)	— (—)
博士課程前期課程 合計	306 (306)	91 (91)	0 (0)	8 (8)	405 (405)	0 (0)	— (—)

博士課程後期課程 合計		292 (292)	72 (72)	0 (0)	3 (3)	367 (367)	0 (0)	- (-)				
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計					
	事 務 職 員		250 (250)		229 (229)		479 (479)					
	技 術 職 員		22 (22)		2 (2)		24 (24)					
	図 書 館 専 門 職 員		24 (24)		1 (1)		25 (25)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)					
	計		296 (296)		232 (232)		528 (528)					
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地		116,505 m ²		0 m ²		0 m ²		116,505 m ²			
	運 動 場 用 地		125,853 m ²		0 m ²		0 m ²		125,853 m ²			
	小 計		242,358 m ²		0 m ²		0 m ²		242,358 m ²			
	そ の 他		16,234 m ²		0 m ²		0 m ²		16,234 m ²			
	合 計		258,592 m ²		0 m ²		0 m ²		258,592 m ²			
校 舎		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計				
		178,694 m ² (178,694 m ²)		0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		178,694 m ² (178,694 m ²)				
教室等	講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設			
	136 室		158 室		58 室		21 室 (補助職員一人)		12 室 (補助職員一人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称				室 数						
		人工知能科学研究科 人工知能科学専攻				33 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能のため、 大学全体の 数
	人工知能科学研究科 人工知能科学専攻		1,975,553 [770,400] (1,949,025 [762,434])		20,925 [6,945] (20,925 [6,945])		42,796 [42,716] (42,796 [42,716])		63,433 (62,649)	968 (968)	0 (0)	
	計		1,975,553 [770,400] (1,949,025 [762,434])		20,925 [6,945] (20,925 [6,945])		42,796 [42,716] (42,796 [42,716])		63,433 (62,649)	968 (968)	0 (0)	
図 書 館		面積		閲覧座席数				収 納 可 能 冊 数				
		24,599 m ²		2,029席				2,928,382				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要								
		11,318.64 m ²		ジム、馬場、射撃場、テニスコート、プール、弓道場等								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	教員1人当り研究費等			1,552千円	1,552千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
	共同研究費等			12,462千円	12,462千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
	図 書 購 入 費		590,619千円	590,619千円	590,619千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
	設 備 購 入 費		186,250千円	186,250千円	186,250千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
	学生1人当り納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
				1,500千円	1,500千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
			1,725千円	1,500千円	-千円	-千円	-千円	-千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、資産運用収入、寄付金収入、補助金収入等									
大 学 の 名 称		立教大学										
学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地			
文学部		年	人	年次人	人		倍		東京都豊島区西池袋三丁目34番1号			

キリスト教学科	4	49	—	196	学士 (文学)	1.01	昭和24年度	
史学科	4	214	—	856	学士 (文学)	1.00	昭和24年度	
教育学科	4	100	—	400	学士 (文学)	1.15	昭和37年度	
文学科	4	537	—	2148	学士 (文学) 学士 (学術)	1.00	平成18年度	
経済学部						1.01		同上
経済学科	4	330	—	1320	学士 (経済学)	1.02	昭和24年度	
会計ファイナンス学科	4	175	—	700	学士 (経済学)	1.02	平成14年度	
経済政策学科	4	175	—	700	学士 (経済学)	1.00	平成18年度	
理学部						0.96		同上
数学科	4	66	—	264	学士 (理学)	0.99	昭和24年度	
物理学科	4	77	—	308	学士 (理学)	0.97	昭和24年度	
化学科	4	77	—	308	学士 (理学)	0.92	昭和24年度	
生命理学科	4	72	—	288	学士 (理学)	0.95	平成14年度	
社会学部						1.01		同上
社会学科	4	170	—	680	学士 (社会学)	1.02	昭和33年度	
現代文化学科	4	170	—	680	学士 (社会学)	1.01	平成14年度	
メディア社会学科	4	170	—	680	学士 (社会学)	1.00	平成18年度	
法学部						1.02		同上
法学科	4	360	—	1440	学士 (法学)	1.00	昭和34年度	
政治学科	4	110	—	440	学士 (政治学)	1.04	平成8年度	
国際ビジネス法学科	4	115	—	460	学士 (法学)	1.06	昭和63年度	
観光学部						1.02		埼玉県新座市北野一丁目2番26号
観光学科	4	195	—	780	学士 (観光学)	1.01	平成10年度	
交流文化学科	4	175	—	700	学士 (観光学)	1.03	平成18年度	
コミュニティ福祉学部						1.01		同上
福祉学科	4	154	—	616	学士 (コミュニティ福祉学)	1.00	平成18年度	
コミュニティ政策学科	4	154	—	616	学士 (コミュニティ福祉学)	1.01	平成18年度	
スポーツウエルネス学科	4	110	—	440	学士 (スポーツウエルネス学)	1.03	平成20年度	
経営学部						1.03		東京都豊島区西池袋三丁目34番1号
経営学科	4	230	—	920	学士 (経営学)	1.05	平成18年度	
国際経営学科	4	155	—	620	学士 (経営学)	1.00	平成18年度	
現代心理学部						0.99		埼玉県新座市北野一丁目2番26号
心理学科	4	143	—	572	学士 (心理学)	0.99	平成18年度	
映像身体学科	4	176	—	704	学士 (映像身体学)	0.98	平成18年度	

既設大学等の状況	異文化コミュニケーション学部					1.03		東京都豊島区西池袋三丁目34番1号
	異文化コミュニケーション学科	4	145	—	580	学士 (異文化コミュニケーション学)	1.03	平成20年度
	文学研究科							同上
	英米文学専攻 (M)	2	18	—	36	修士 (文学)	0.16	昭和26年度
	英米文学専攻 (D)	3	3	—	9	博士 (文学)	0.55	昭和28年度
	史学専攻 (M)	2	15	—	30	修士 (文学)	0.46	昭和33年度
	史学専攻 (D)	3	6	—	18	博士 (文学)	0.22	昭和51年度
	教育学専攻 (M)	2	10	—	20	修士 (教育学)	0.85	昭和44年度
	教育学専攻 (D)	3	3	—	9	博士 (教育学)	0.22	昭和47年度
	日本文学専攻 (M)	2	20	—	40	修士 (文学)	0.60	昭和35年度
	日本文学専攻 (D)	3	8	—	24	博士 (文学)	0.37	昭和37年度
	フランス文学専攻 (M)	2	8	—	16	修士 (文学)	0.25	昭和40年度
	フランス文学専攻 (D)	3	3	—	9	博士 (文学)	0.00	昭和42年度
	ドイツ文学専攻 (M)	2	8	—	16	修士 (文学)	0.18	昭和42年度
	ドイツ文学専攻 (D)	3	3	—	9	博士 (文学)	0.33	昭和44年度
	比較文明学専攻 (M)	2	10	—	20	修士 (比較文明学)	0.22	平成10年度
	比較文明学専攻 (D)	3	5	—	15	博士 (比較文明学)	0.06	平成12年度
	超域文化学専攻 (M)	2	5	—	10	修士 (文学)	0.60	昭和42年度
	超域文化学専攻 (D)	3	3	—	9	博士 (文学)	0.00	昭和44年度
	経済学研究科							同上
	経済学専攻 (M)	2	40	—	80	修士 (経済学) 修士 (会計学)	0.70	昭和26年度
	経済学専攻 (D)	3	10	—	30	博士 (経済学) 博士 (会計学)	0.20	昭和38年度
	理学研究科							同上
	物理学専攻 (M)	2	20	—	40	修士 (理学)	0.72	昭和28年度
	物理学専攻 (D)	3	4	—	12	博士 (理学)	1.08	昭和30年度
	化学専攻 (M)	2	20	—	40	修士 (理学)	1.22	昭和29年度
	化学専攻 (D)	3	4	—	12	博士 (理学)	0.33	昭和37年度
	数学専攻 (M)	2	5	—	10	修士 (理学)	0.70	昭和30年度
数学専攻 (D)	3	3	—	9	博士 (理学)	0.11	昭和37年度	
生命理学専攻 (M)	2	15	—	30	修士 (理学)	1.06	平成8年度	
生命理学専攻 (D)	3	4	—	12	博士 (理学)	0.08	平成10年度	
社会学研究科							同上	
社会学専攻 (M)	2	20	—	40	修士 (社会学)	0.80	平成2年度	

社会学専攻(D)	3	10	—	30	博士(社会学)	0.20	平成9年度	同上
法学研究科								
法学政治学専攻(M)	2	20	—	40	修士(法学) 修士(政治学)	0.57	平成18年度	同上
法学政治学専攻(D)	3	10	—	30	博士(法学) 博士(政治学)	0.10	平成18年度	
観光学研究科								埼玉県新座市北野一丁目2番26号
観光学専攻(M)	2	20	—	40	修士(観光学)	0.42	平成10年度	同上
観光学専攻(D)	3	8	—	24	博士(観光学)	0.16	平成10年度	
コミュニティ福祉学研究科								同上
コミュニティ福祉学専攻(M)	2	25	—	50	修士(コミュニティ福祉学) 修士(スポーツマネジメント学)	0.36	平成18年度	同上
コミュニティ福祉学専攻(D)	3	5	—	15	博士(コミュニティ福祉学) 博士(スポーツマネジメント学)	0.86	平成16年度	
ビジネスデザイン研究科								東京都豊島区西池袋三丁目34番1号
ビジネスデザイン専攻(M)	2	90	—	180	修士(経営管理学)	1.17	平成14年度	同上
ビジネスデザイン専攻(D)	3	5	—	15	博士(経営管理学)	0.40	平成19年度	
21世紀社会デザイン研究科								同上
比較組織ネットワーク学専攻(M)	2	50	—	100	修士(社会デザイン学)	0.81	平成14年度	同上
比較組織ネットワーク学専攻(D)	3	5	—	15	博士(社会デザイン学)	0.33	平成19年度	
異文化コミュニケーション研究科								同上
異文化コミュニケーション専攻(M)	2	20	—	40	修士(異文化コミュニケーション学)	0.35	平成14年度	同上
異文化コミュニケーション専攻(D)	3	5	—	15	博士(異文化コミュニケーション学)	0.40	平成16年度	
経営学研究科								同上
経営学専攻(M)	2	10	—	20	修士(経営学)	0.70	平成18年度	同上
経営学専攻(D)	3	5	—	15	博士(経営学)	0.20	平成18年度	
国際経営学専攻(M)	2	30	—	60	修士(国際経営学) 修士(公共経営学)	0.50	平成23年度	
現代心理学研究科								埼玉県新座市北野一丁目2番26号
心理学専攻(M)	2	10	—	20	修士(心理学)	0.20	平成18年度	同上
心理学専攻(D)	3	3	—	9	博士(心理学)	0.33	平成18年度	
臨床心理学専攻(M)	2	15	—	30	修士(臨床心理学)	0.83	平成18年度	
臨床心理学専攻(D)	3	4	—	12	博士(臨床心理学)	0.08	平成18年度	
映像身体学専攻(M)	2	15	—	30	修士(映像身体学)	0.29	平成20年度	
映像身体学専攻(D)	3	4	—	12	博士(映像身体学)	0.00	平成22年度	

キリスト教学研究科									東京都豊島区西池袋三丁目34番1号	
キリスト教学専攻(M)	2	10	—	20	修士(神学) 修士(文学) 修士(実践神学)	0.55	平成21年度			
キリスト教学専攻(D)	3	5	—	15	博士(神学) 博士(文学)	0.33	平成21年度			
法務研究科(P)	—	—	—	—	法務博士(専門職)	—	平成16年度	同上		平成30年度より学生募集停止
附属施設の概要	該当なし									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要

(人工知能科学研究科人工知能科学専攻 (M))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基幹科目	データサイエンス概論	1前		2		○			1								
	機械学習	1前	2			○				1							
	人工知能概論	1前		2		○			1								
	深層学習	1後	2			○				1							
	先端科学技術の倫理	1後	2			○			1								
	統計モデリング I	1後		2		○			1								
	複雑ネットワーク科学	2前		2		○			1								
小計 (7科目)	—	—	6	8	0	—	—	—	5	1	0	0	0			—	
基礎科目	情報科学概論	1前		2		○			1								
	数理科学概論	1後		2		○										兼1	
	社会情報科学概論	1後		2		○			1								
	意思決定の科学	1後		2		○			1								
	計算機科学概論	2前		2		○										兼1	
	人工知能の哲学	2前		2		○			1								
小計 (6科目)	—	—	0	12	0	—	—	—	3	0	0	0	0		兼2	—	
応用科目	AIビジネス特論	1後		2		○			1								
	自然言語処理特論	1後		2		○			1								
	人工知能社会実装	2前		2		○			1							兼3 オムニバス	
	認識技術特論	2前		2		○			1								
	脳神経科学特論	2前		2		○										兼3 オムニバス	
	統計モデリング II	2前		2		○			1								
	量子情報特論	2後		2		○										兼1 集中	
小計 (7科目)	—	—	0	14	0	—	—	—	4	0	0	0	0		兼7	—	
演習・実習科目	Pythonプログラミング	1前		2				○								兼1	
	機械学習演習 I	1前	2				○	○	2								
	機械学習演習 II	1後		2			○	○								兼1	
	深層学習演習 I	1後		2			○	○	1							兼1	
	深層学習演習 II	2後		2			○	○		1							
	社会モデリング演習	1前		2			○	○	1								
	輪講 I	1前		2			○	○	2	1							
	輪講 II	1後		2			○	○	3								
	データサイエンス実習	2前		2				○	1							兼2	
小計 (9科目)	—	—	2	16	0	—	—	—	6	1	0	0	0		兼3	—	
研究指導科目	プロジェクトチーム実習 I	2前		2				○	3							共同 (一部)	
	プロジェクトチーム実習 II	2後		2				○	3							共同 (一部)	
	特別研究 I	1前		3			○	○	5	1							
	特別研究 II	1後		3			○	○	5	1							
	特別研究 III	2前		3			○	○	8	1							
	修士論文指導演習	2後		3			○	○	8	1							
小計 (6科目)	—	—	0	16	0	—	—	—	8	1	0	0	0			—	
合計 (35科目)		—	—	8	66	0	—	—	—	8	1	0	0	0		兼12	—
学位又は称号	修士 (人工知能科学)		学位又は学科の分野				理学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
必修科目8単位、選択科目22単位 (選択必修科目「プロジェクトチーム実習I」、「プロジェクトチーム実習II」、「特別研究III」及び「修士論文指導演習」を含む。)以上を修得し、合計30単位以上を修得するとともに、研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究成果に係る審査及び最終試験に合格すること。						1学年の学期区分			2学期								
						1学期の授業期間			14週								
						1時限の授業時間			100分								

授 業 科 目 の 概 要			
（人工知能科学研究科人工知能科学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹 科目	選択 データサイエンス概論	データサイエンス分野の全貌を俯瞰的にとらえる視点を養う。蓄積されるソーシャルデジタルデータや科学データが指数的に増大する現在、様々な分野で高度なデータサイエンスの手法の習得が重要になってきている。本授業では、専門的な学習への橋渡しとすることを目的として、データサイエンス技術が、自然科学・社会科学やビジネスにおいてどのように活用されているのか実例を挙げて紹介し、そこで用いられている数理・統計・計算技術について簡潔に説明する。講義形式だけでなく、データサイエンスの実践も経験するために、配布コードを実際に使用するハンズオン形式を交えて授業を進める。	
基幹 科目	必修 機械学習	機械学習は統計学・数理的にデザインされたアルゴリズムに基づくデータ分析手法である。適切なデータ分析のためには正しい理論的理解を欠かすことはできない。本授業で代表的なモデルを軸に、各アルゴリズムを実装に直結する形で詳細かつ簡潔に解説する。回帰モデルの勾配降下法から始めて、正則化と汎化、検証とテスト、分類アルゴリズムといった機械学習の基礎を学ぶ。その後、ニューラルネットワークによる表現学習、クラスタリング、多様体学習、確率モデル、アンサンブル学習を学び、機械学習アルゴリズムを一通り理解する。	
基幹 科目	選択 人工知能概論	20世紀中頃にスタートした人工知能の研究は、近年、飛躍的な発展を遂げている。本授業ではこれまでの歴史的な流れを概観し、現在の人工知能研究が置かれた歴史的な位置付けを理解する。過去に研究者たちが考えてきたAI研究の動機やAIにまつわる問題意識を理解することで、現在のAI技術を俯瞰的に捉える。その上で、AlphaGoのような現時点でのAI技術の到達点を解説する。本授業の後半では、AIの社会実装に注目し、日常生活にも普及しはじめているAI技術について紹介する。例えば Amazon Goのような小売業の革新、スマートスピーカーによる対話型AIサービス、iPhoneの顔認証技術といった最近の話題を、AI技術の観点から紹介する。	
基幹 科目	必修 深層学習	深層学習は単にニューラルネットワークを多層化するだけではなく、過去20年間に蓄積された研究結果を駆使して初めて実現される。まずニューラルネットワークの基礎を概観し、その上で深層学習特有の技術や理論、モデルデザイン手法を解説する。実装に直結するように、各モデルをデータテンソルへの数学的操作としての構造が明示的にわかる形での理解を重視する。また、多層化が重要である理論的な理由など、数学的な背景も議論する。ニューラルネットワークと逆伝播を解説したのち、深層学習特有の技術（初期化、正則化など）、そして畳み込みニューラルネットとモデルデザインについて解説する。発展的課題として、敵対的生成ネットワークや再帰的ニューラルネットなども取り扱う。	

基幹科目	必修	先端科学技術の倫理	<p>本授業では、AIを切り口に、先端技術が社会にもたらす道徳的問題の光と影を追う。AIの倫理的問題には先端技術に共通する課題とAI特有の問題とが存在する。特に前者については、他の技術に関して既に発生している問題がAIに関しても次々に現実のものとなっている。本授業では、既存の先端技術における問題の発生要因をケーススタディで学んでいくことで、AIに関して今後発生する可能性がある問題を議論する。ケーススタディとして、例えば、遺伝子レベルで疾病リスクを見積もるシステムを保険システムに組み込む例をとりあげる。健康意識が高いがゆえに受けた遺伝子検査で疾病罹患リスクが高いことがわかって保険料が高額となってしまうと、遺伝子検査を受けるメリットはなくなる。AIによる診断技術はこの既存の問題をさらに先鋭化するものとなる。今後、AIを社会に普及させるにあたって、道徳的問題の発生が予想されるが、本授業を通してその解決策が一筋縄ではいかないことを理解する。</p>	
基幹科目	選択	統計モデリング I	<p>自然現象や社会現象をモデル化する上で、不確実性を定量的に理解することが不可欠である。本授業では、不確実性を伴う現象を表現するために、確率・統計の考え方を身につけることを目標とする。従来の頻度主義の考え方とベイズ主義の考え方を対比させながら、ベイズの定理や最尤法などの重要な考え方を身につける。モデルフィッティングに広く用いられる最小二乗法やカイ二乗法を学ぶ。基礎理論に加えて、マルコフ連鎖モンテカルロ法などの実用的なアルゴリズムも学習し、先端的研究における実装への橋渡しとする。</p>	
基幹科目	選択	複雑ネットワーク科学	<p>人間関係のネットワーク、鉄道のネットワーク、電力送電網のネットワーク、企業間の取引ネットワーク、国家間の貿易ネットワーク、銘柄間の株価の相関ネットワーク、タンパク質間の相互作用ネットワークなど、現実世界には様々なネットワークが存在し、これらには共通した数理構造が観測される。一般に、要素と要素の間の関係性はネットワークとして抽象化して表現できる。本授業では、現実世界のネットワークを分析する上で必要となる複雑ネットワーク科学の概念を修得することを目標とする。複雑なネットワーク構造を定量化するために、隣接行列や隣接リストによって数学的に表現し、平均経路長、クラスター係数、次数分布、次数相関といったネットワーク特徴量を導入する。ランダムネットワーク、スモールワールドネットワーク、スケールフリーネットワークにおけるネットワーク特徴量の性質を議論する。授業の後半では、有向ネットワーク、重み付きネットワーク、多重ネットワークなど、より複雑なネットワークの特徴量も紹介する。ネットワーク上のランダムウォークを考えることで頂点の重要度を固有ベクトルとして測るページランクアルゴリズムなどを説明する。最後に、ネットワーク上のパーコレーションを導入することで、ランダム攻撃や選択的攻撃に対するネットワークの頑強・脆弱性を相転移の観点から議論する。</p>	
基礎科目	選択	情報科学概論	<p>人工知能やデータサイエンスは情報科学を基礎とする分野である。本授業では情報科学の分野を概観し、背景となる考え方を身につける。授業の前半では、知識や情報を表現し、情報の不確かさや効率性を定量化するための数学的な手法を理論的な観点から学ぶ。情報の理論として、確率と情報量、情報のエントロピー、カルバック・ライブラー情報量、相互情報量、符号理論などを学習する。授業の後半では、実装に直接的に関係する話題を扱う。情報処理を実現するための計算機の仕組みや、計算機上で表現されたデータ・アルゴリズムなどの性能などを定量化するための技術を学習する。</p>	

基礎科目	選択	数理科学概論	<p>機械学習において用いられているさまざまな数理的手法について学ぶ。具体的な例に関する計算機実験をデモンストレーションし、実践的な理解につなげる。機械学習の数理的側面を深く理解することを目的として、次のようなトピックについて講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微分法とその計算機実装 ・行列代数とその微分法 ・線形最適化と双対問題 ・最小化問題と微分法・変分法 ・制約問題とラグランジュ未定乗数法 ・非線形最適化問題 ・数値計算の基礎 ・確率論と乱数 	
基礎科目	選択	社会情報科学概論	<p>統計、数理、機械学習を用いて社会・経済ビッグデータを実証科学の視点から分析する手法について、基本的な概念から実践的な応用までを学ぶ。時系列解析や有意性検定の統計手法、社会・経済物理学の概念や解析手法、機械学習やテキスト解析の社会・経済ビッグデータへの適用法を修得する。具体的事例を通じて直感的に理解しながら、実データに対してどのような手法で分析し、分析結果をどのように利用・解釈すれば良いのかを考えるための基礎を身につける。</p> <p>最初に統計手法の基礎として、データ分析に用いる統計的有意性の検定、統計的誤差、ランダム化テスト、そして順位相関や連検定などのノンパラメトリック検定を学習する。ガウス分布を仮定する統計手法が通用しない現象として、多くの社会・経済現象で普遍的に観測されるベキ分布について説明し、最尤法によるベキ指数の推定手法、コルモゴロフ・スミルノフ検定による分布の検定手法を紹介する。ベキ分布は特徴的なスケールが存在しない分布であり、自己相似性を有しており、フラクタルな構造を表現していることを理解する。ベキ分布を生成する数理モデルとして、自発的に不安定な臨界状態に至る自己組織化臨界現象を紹介し、確率過程としてサンクト・ペテルブルグのパラドックスとランダム乗算過程を説明する。次に時系列解析について学ぶ。基礎的事項として、自己相関、パワースペクトル、ランダムウォーク、自己回帰モデル、定常性、ハースト指数などを学習した後、発展的トピックとして、金融市場の価格変動時系列にみられる異常拡散や長期記憶などを解説する。さらに、非線形な相関をもつ時系列を決定論の観点から分析する非線形時系列解析について紹介する。最後に、k-近傍法、ランダムフォレスト、非負値行列因子分解、変化点検知などの機械学習の手法や共起、類似度、トピックモデル、潜在的ディリクレ配分法などのテキスト解析の手法を社会・経済ビッグデータに適用した事例を紹介する。</p>	
基礎科目	選択	意思決定の科学	<p>コンピュータを中心とする先端的な技術がさまざまな場面でビジネスに関与するようになってきた時代背景をもとに、ビジネスとモデルや技術の関係を理解し、意思決定に役立てるための方法論を学ぶ。ビジネスの対象が、生産した「モノ」から、人間の関与が深いサービスという「コト」に変化しつつある現状を取り扱う。その中で、サービス提供者や生産者としての意思決定、消費者や生活者としての意思決定、経営者としての意思決定というそれぞれ異なる立場での決定を俯瞰し、ビジネスモデル・社会モデルとの関係を解説する。</p>	

基礎科目	選択	計算機科学概論	人工知能技術の応用やデータサイエンスでは、計算機の性質を正しく理解することで、効率的な実装やデータ処理を行うことができる。本授業では、CPU・GPU やメモリといったコンピュータハードウェアの仕組み、その上で動作するソフトウェアの性質、別のハードウェアとの通信手段であるネットワークなどの基礎を学び、実用の観点から計算機科学の分野を概観する。授業の後半では、GPU を用いた並列計算やネットワーク上での分散コンピューティングの基礎について学習する。そして最近の話題として、スーパーコンピュータ・量子コンピュータ・クラウドコンピューティングなどの話題にも触れ、必要としているコンピューティング・タスクに対して、どのような最新技術が最適かを判断できる力を養う。	
基礎科目	選択	人工知能の哲学	人工知能とはそもそも何か。それを考える上で、知性とはなにか、明らかにしなければならない。特に、人間が考えるということは一体何を意味しているのか。考えているのは人間だけなのか？人間であれば誰もがいつでも考えているのか？機械は考えられるのか？あるいは機械が考えるとはどういう条件を満たしたときに主張することができるのか？本授業では、知識・理解、また判断・責任といった哲学的基本概念について、AIを切り口に根本から検討を進める。	
応用科目	選択	AIビジネス特論	あらたなサービス・あらたな道具がAIを用いて次々と開発されている。その中で、成功するサービスもあれば失敗するサービスもある。どのような場面でサービスを考え、それとテクノロジーを結びつけるのか、また逆にテクノロジーが関与する場合にどのようなサービスなら顧客層を獲得できるのかを、具体事例を列挙しながら、受講者ととともに調査し、考察する。本授業は、講義形式ではなく、討論や調査をその場で受講者と共同で実施する形式を取る。	
応用科目	選択	自然言語処理特論	本授業では、テキストデータに対する機械学習を中心に据えて自然言語処理を学習する。はじめに形態素解析や句構造文法に基づく構文解析、言語モデルなどの自然言語処理理論を紹介し、その技術を応用したテキストマイニングを学ぶ。その上で、深層学習に基づく現代的な自然言語処理へ話題を移す。取り扱う内容はword2vecなどの分散表現、再帰的ニューラルネット、符号・復号化器モデルとアテンション機構など、機械翻訳・対話機械の最先端である。時系列データ固有の問題を処理するための、実装上のさまざまな工夫についても紹介する。実践的な学習とするため、講義形式に加えて、具体的な実例を用いた演習を授業に組み込む。	
応用科目	選択	人工知能社会実装	<p>(概要) 本授業では人工知能技術の社会実装の実例をオムニバス形式で学ぶ。人工知能技術はすでに社会実装が急速に進みつつあり、産業・ビジネスのあり方だけでなく我々の生活空間にも影響を与え始めている。このオムニバス形式の授業では、様々な実例を通じてAI技術の社会応用をマネジメントする能力を身につけるため、次のようなトピックを学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(1 内山 泰伸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リテールへのAI導入の実践例 ・農業分野でのデータ駆動マーケティング ・工業分野でのAI導入による品質管理 <p>(兼任教員 (担当者未定))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィンテックでの活用 ・観光産業でのデータ駆動マーケティング ・スポーツ科学への導入 ・リテールのAI化 ・ゲームAIの研究を通じたAIの実世界適応へ向けた研究 	オムニバス方式

応用科目	選択	認識技術特論	<p>本授業では、深層学習による先端的な画像処理技術の習得を目標として、画像処理ライブラリを用いた画像データの取り扱いや、特微量工学に基づくコンピュータビジョンを学ぶ。画像処理ライブラリOpenCV、PILを用いた画像データの取り扱いを紹介したのち、局所記述子やBoVWを使ったコンピュータビジョンの基礎を学ぶ。その後、深層学習による先端的な画像処理技術を学習する。はじめに畳み込みニューラルネットと、色々なSoTA級モデルのネットワークデザインを学ぶ。その応用として超解像、物体検出、セグメンテーション、GANによる画像生成・画像翻訳を扱う。その理解をもとにニューラル画風変換のような深層学習による画像処理技術を紹介する。日進月歩の分野であるため、紹介する最先端の画像処理技術は毎年最新のものへの更新を予定している。</p>	
応用科目	選択	脳神経科学特論	<p>(概要) 本授業では、人工ニューラルネット研究の基礎をなす教養として、そして新しい機械学習アルゴリズムのアイデアの源泉として、オムニバス形式で神経科学のさまざまな話題について学ぶ。脳・神経科学の広範な話題について、最新の知見も交えながらの専門家による解説で次のようなトピックを学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(兼任教員 (担当者未定))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習とシナプス可塑性 ・視覚野とCNN ・海馬と記憶 ・ドーパミン系と強化学習 ・神経心理学 ・ブレイン・マシン・インターフェース ・脳情報デコーディング ・スパイクニューラルネットとニューロモーフィックチップ 	オムニバス方式
応用科目	選択	統計モデリングⅡ	<p>本授業では、統計モデリングⅠで学習したベイズ統計の考え方を基礎として、実社会の理想的でないデータを適切に扱う力を養うことを目標とする。ガウス分布以外のデータの表現方法や、データを表現するためのモデルの選択手法を理解する。そして識別関数・識別モデル・生成モデルといった統計的手法により得られた結果に基づく意志決定の理論やベイズ決定理論について学ぶ。これに加え、不完全データに対するEMアルゴリズムと、その変分ベイズ版などの近似法などを学習する。統計的モデル化の幅広い実践的な手法を身につけるため、講義形式に加えて、自然科学・社会科学の幅広い分野での具体的な実例を用いた演習を授業に組み込む。</p>	
応用科目	選択	量子情報特論	<p>量子情報理論とは、イオントラップや光学系など量子力学的な振る舞いをする物理系を用いて情報処理を行うための理論であり、近年盛んに研究されている。本授業では、量子力学の知識を仮定せずに、量子情報理論を概観する。最初に粒子と波動の二重性や不確定性、エンタングルメントなどの量子論の基礎的な概念を学習したあと、量子ビット、量子ゲートなどの量子計算の構成要素とその原理について学ぶ。授業の後半では、量子テレポーテーションやショアの素因数分解のアルゴリズムなど、量子計算機に特有な各種アルゴリズムを、古典計算機におけるアルゴリズムと対比しながら学ぶ。最後に量子通信、量子誤り訂正、量子暗号の理論などのトピックにも触れ、量子情報に関する幅広い知識を身につけることを目指す。</p>	

演習・実習科目	選択	Pythonプログラミング	<p>データサイエンス分野で現在、広く利用されているオブジェクト指向スクリプト言語 Python を習得し、データサイエンスの基本素養としてのプログラミング力を身につけることを目標とする。自然科学分野および社会科学分野におけるデータサイエンス・ビッグデータ解析、そして人工知能関連技術での Python の活用を念頭においた授業として、科学技術ライブラリを利用できるような知識を身につける。講義形式の授業に、授業中にプログラミングを実際に行うハンズオン形式を組み合わせる。1年次春学期科目として同時並行で進む授業科目「機械学習」と連携し、実践的な内容を重視したものにする。</p>	
演習・実習科目	必修	機械学習演習 I	<p>講義科目「機械学習」に対応する必修の演習科目であり、ライブラリを使いこなすことで効率よく機械学習を行う技能を身につける。使用するライブラリは scikit-learn を採用する。幅広い分野における機械学習を用いたデータサイエンスの実践を経験し、次のような自然科学・社会科学・社会実装の具体的な事例における機械学習活用感覚を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 回帰とパターン認識 ・ 過学習と汎化：データ分析が失敗する例 ・ さまざまなデータの前処理 ・ 分類モデル：腫瘍データの診断問題などへの応用 ・ ニューラルネットワークによるファッション画像の分類 ・ 開発データの重要性とモデル評価 ・ POSデータのクラスタリングによる顧客分析 ・ 顔画像データの主成分分析 ・ ナイーブベイズ：スパムフィルタとTweet感情分析 	
演習・実習科目	選択	機械学習演習 II	<p>講義「機械学習」で学んだアルゴリズムを、Python を用いてスクラッチから実装する。「機械学習演習 I」で機械学習ライブラリ scikit-learn を用いて、効率良く機械学習を利用する方法を習得済みであり、本演習では機械学習アルゴリズムの詳細な仕組みや動作を深く理解すると同時に、機械学習・データサイエンスにおけるコーディング技術を磨くことを目標とする。自然科学・社会科学・社会実装のさまざまな場面での応用を考え、発展的な話題も含めた次のようなテーマを取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単回帰と重回帰 ・ 多項式回帰、過学習と汎化 ・ さまざまな前処理 ・ ロジスティック回帰とソフトマックス回帰、ランダムフォレスト・ニューラルネットワーク ・ モデル評価、検証とテスト ・ クラスタリング ・ さまざまな多様体学習 ・ 確率モデルとナイーブベイズ 	
演習・実習科目	選択	深層学習演習 I	<p>講義科目「深層学習」に対応する演習科目であり、実装されたモデルを用いて深層学習理論で学んだ内容を具体的な事例に対して実践する。深層学習が実際にはどのように動作し、いかなる具体的な場面で活用できるのかについての感覚を身につけることを目標とする。使用するライブラリはTensorFlow+Kerasを採用する。自然科学・社会科学・社会実装のさまざまな場面での適用を考え、次のようなテーマを取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 深層学習によるモデル探索とテスト ・ 畳み込みニューラルネットワークによる食品画像の分類 ・ 学習済みモデルの利用 (InceptionResNet) ・ 転移学習による医療画像診断 ・ LSTMブロックを使ったチャットボット 	

演習・実習科目	選択	深層学習演習Ⅱ	<p>講義科目「深層学習」に対応する演習科目であり、深層学習理論で学んだ内容を実装して使いこなし、アルゴリズム開発の基礎を身につけることを目標とする。「深層学習演習Ⅰ」で学んだ内容をベースとして、より発展的な話題について実践的に学ぶ。様々な深層学習ライブラリを紹介しつつ、実装に使用するライブラリはTensorFlow+Kerasを採用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな勾配降下法と正則化の性能比較 ・過学習と汎化、検証とテスト ・様々な畳み込みニューラルネットワーク ・学習済みモデルの利用と転移学習 ・敵対的生成ネットワーク ・LSTMブロックと再帰的ニューラルネットワークの利用 ・深層学習の実際（並列化、GPUと消費メモリ、クラウドの利用など） ・モデルの軽量化(蒸留、量子化) 	
演習・実習科目	選択	社会モデリング演習	<p>自然現象とは異なり、社会事象には一義的な法則は成り立たないため、捉えどころがないと考えがちである。しかし、ある前提を置くことにより、対象システム中の要素の相関関係や因果関係、数量関係などの関係性を理解することができるようになる。事例を示しつつ、社会事象をモデルとして考察し、新しいシステムをデザインする方法を学ぶ。また、前提を変えることにより問題自体も変化し、その社会事象が異なる複数のモデルで説明されることを理解する。本授業では、授業前半を講義にあて、後半では事例を具体的にモデル化し、Excelや統計ソフト、AIツールなどを使いながらシミュレーションを行う演習を行う。シミュレーションの前提や得られた結果をどのように解釈するか、あるいは解釈してはいけないのかを実例に即して演習する。</p>	
演習・実習科目	選択	輪講Ⅰ	<p>(概要) 先端的な研究の遂行に必要なスキルとして、専門書や英語原著論文を読む力を身につけることを目標とする。専門書や論文の内容を解説するプレゼンテーションを各受講者に課し、質疑応答を通じて、発表者としてのスキルも習得する。各指導教員の専門分野の先端的知識を身につけ、先端的研究に必要な問題発見能力を涵養することを目指す。</p> <p>(3 村上 祐子) 人工知能の倫理、哲学を研究する上で重要となる科学哲学・数学の哲学・言語哲学・論理学の基礎文献を用いた輪講を行う。</p> <p>(4 新田 徹、9 瀧 雅人) “The Element of Statistical Learning” (T. Hastie et al.) から数章を選び、統計的機械学習理論の基礎を学ぶ。その上で、“Deep Learning” (I. Goodfellow et al.) の数章を用いて、深層学習の理論的側面についての輪講を行う。</p>	
演習・実習科目	選択	輪講Ⅱ	<p>(概要) 先端的な研究の遂行に必要なスキルとして、専門書や英語原著論文を読む力を身につけることを目標とする。専門書や論文の内容を解説するプレゼンテーションを各受講者に課し、質疑応答を通じて、発表者としてのスキルも習得する。各指導教員の専門分野の先端的知識を身につけ、先端的研究に必要な問題発見能力を涵養することを目指す。</p> <p>(1 内山 泰伸) 宇宙物理学、天文学における機械学習の応用研究に関する原著論文を用いた輪講を行う。</p> <p>(2 大西 立顕) 統計、機械学習、社会・経済物理学、複雑系科学、複雑ネットワーク科学の手法を用いた社会・経済のデータサイエンスに関する原著論文を用いた輪講を行う。</p> <p>(5 正田 備也) 深層学習に基づく自然言語処理およびトピックモデルの研究に関する原著論文を用いた輪講を行う。</p>	

演習・実習科目	選択	データサイエンス実習	<p>社会科学概論とネットワーク科学で学んだ手法を用いて、実際に社会・経済ビッグデータを分析するプロセスを実践的な実習形式で修得する。受講生が自らがプログラミングを行うことで、計算機上でデータをどのように処理し、分析手法をどのように実装するかを学ぶ。実データに基づいて実証的に分析することの重要性を認識し、領域知識を踏まえた上で結果を解釈する必要性を理解する。社会科学に限らず広く社会実装のさまざまな場面での適用を考え、次のようなテーマを取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータの基本的な取り扱い法（データ確認、置換、抽出、検索、結合、分割、自動化） ・ビッグデータの前処理（分布と統計量、非正常性、サンプルバイアス、欠損、エラーデータ） ・ビッグデータ解析の計算誤差と計算時間（丸め誤差、計算量、情報量、アルゴリズム、並列化） ・金融市場データの時系列解析1（ベキ分布、ベキ指数、定常性、自己相関、パワースペクトル） ・金融市場データの時系列解析2（自己回帰モデル、スケール依存性、異常拡散、ハースト指数） ・金融市場データの時系列解析3（相関行列、最小全域木、偏相関、相関構造） ・Wikipediaのテキスト解析1（TF-IDF、共起、類似度、単語・文書行列） ・Wikipediaのテキスト解析2（トピックモデル、潜在的ディリクレ配分法） ・国際貿易データのネットワーク解析1（隣接行列、次数分布、最短経路長、クラスター係数） ・国際貿易データのネットワーク解析2（次数相関、強連結成分、ページランク） ・国際貿易データのネットワーク解析3（コミュニティ抽出、非負値行列因子分解） 	
研究指導科目	選択	プロジェクトチーム実習Ⅰ	<p>（6 三宅 陽一郎・7 松下 伸行） 人工知能は基礎理論を学ぶだけでなく、その社会実装によるシステム化を通して実用化していくことが重要である。社会実装プロジェクトを遂行するためにはプロジェクトのすべての段階を経験・理解しておく必要がある。これまでに学んだAIの理論と技術を集結し、それを実践へと昇華させる技術が求められる。本実習では、社会に見られる様々な問題をAIで解決するシステムを開発する。5人程度でグループを作り、半年で1つのAI社会実装プロジェクトを推進する。「プロジェクトチーム実習Ⅱ」も合わせて受講する場合、通年で1つのプロジェクトを推進することも選択できる。AIで解決すべき課題設定、システム的设计、AIライブラリによる実装、その特性評価など、AI実装プロジェクトのプロセスを一通り経験することができる。</p> <p>（3 村上 裕子・6 三宅 陽一郎・7 松下 伸行／4回）（共同） 各チームは AI の倫理問題の専門家（3 村上祐子）と倫理面の懸念事項について議論し、AI の倫理問題への理解を深める。</p>	共同（一部）
研究指導科目	選択	プロジェクトチーム実習Ⅱ	<p>（6 三宅 陽一郎・7 松下 伸行） 「プロジェクトチーム実習Ⅰ」と合わせて受講することにより、通年でAIプロジェクト推進を経験し、その報告書をまとめる。この報告書は修士論文に代わるものとして扱われ、複数の教員による評価によって合格と認定されることが単位取得の要件となる。「プロジェクトチーム実習Ⅰ」とあわせ、AIで解決すべき課題設定、システム的设计、AIライブラリによる実装、その特性評価など、AI実装プロジェクトの全プロセスを経験することができる。人工知能を応用するプロジェクト推進に要求される専門知識を習得することを目標とする。AI社会実装および運用のための専門的な事項について学習し、理論を実践する技術を身につけるだけでなく、適切な課題設定能力の涵養も目標とする。</p> <p>（3 村上 裕子・6 三宅 陽一郎・7 松下 伸行／4回）（共同） 各チームは AI の倫理問題の専門家（3 村上祐子）と倫理面の懸念事項について議論し、AI の倫理問題への理解を深める。</p>	共同（一部）

研究指導科目	選択	特別研究 I	<p>(概要) 1年次の学生に対して各指導教員が研究指導を行う科目であり、先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。修士課程修了後に自ら研究を進めていくための基礎と手法を学ぶことを目標とする。各指導教員の研究テーマは次の通りである。</p> <p>(1 内山 泰伸) 高エネルギー宇宙物理学、高エネルギー天文学における複雑な観測データに対して統計学および機械学習・深層学習を応用するデータ駆動科学研究、超新星残骸の観測による爆発的要素合成や宇宙線加速の研究、ガンマ線観測による暗黒物質の探索などを研究テーマの候補とする。データ解析をする上で必要となる観測技術や、解析結果を解釈するための宇宙物理学の理論的理解も深める。さらに機械学習によるデータ処理をオンボードで行える先端的な AI カメラ開発も研究テーマとする。</p> <p>(2 大西 立顕) 統計、機械学習、社会・経済物理学、複雑系科学、複雑ネットワーク科学の手法を用いて、社会・経済に関する高頻度かつ高精度なビッグデータを実証科学の視点から研究する。金融市場・人間行動などの時系列データ、市場間相関・国際貿易などのネットワークデータ、店舗・不動産などの地理空間データ、ニュース・Twitter・ウェブサイトなどのテキストデータ、マウスの脳活動などのバイオビッグデータ、データ駆動型物質・材料探索(マテリアルズ・インフォマティクス)などのテーマを分析する。</p> <p>(3 村上 祐子) 情報の哲学・倫理、とりわけ人工知能の哲学・倫理を主要な研究テーマとする。個別の関心に応じて力点を設定し、科学哲学・数学の哲学・言語哲学の分野、また手法として必須となる論理学の基本文献を学習した上で、応用倫理学、科学技術社会論の視点からケーススタディを行う。</p> <p>(4 新田 徹) 複素ニューラルネットワークや四元数ニューラルネットワークといった高次元ニューラルネットワークの研究を行う。数理的な手法あるいはコンピュータ・シミュレーションによって、高次元ニューラルネットワークの基本的性質、あるいはこれまでに知られていない特有の性質を探索的に調べる。新しい高次元ニューラルネットワークモデルを考案することも目指す。</p> <p>(5 正田 備也) テキストデータを中心とした大規模データを、様々な機械学習の手法を使って分析する。特に、教師なし学習を使うことで、データ集合に潜む多様性をできるだけ損なわないよう網羅的に抽出し、この抽出結果をデータに応じた個別のアプリケーションに役立てる。具体的には、トピックモデルのようなベイズ的確率モデルにおける潜在表現をデータ集合に潜む多様性のモデル化に用いる。推定計算についてはミニバッチ学習をGPU上で実行することによって大規模データにも対応できるようにする。</p> <p>(9 瀧 雅人) 理論的研究とアルゴリズム開発のいずれかの研究課題を選択する。理論研究では、深層ニューラルネットの汎化性能や表現能力、モデルの挙動を理解するための数理的な理論・解析を調べる。アルゴリズム開発においては、CNNなどの性能を上げる、あるいは計算コストを下げるためのアーキテクチャデザインを研究する。あるいは敵対的事例(adversarial example)に対する防御アルゴリズム、深層学習の推論過程を理解可能(ホワイトボックス)にするための解釈可能な深層学習の研究開発などを行う。</p>	
--------	----	--------	---	--

研究指導科目	選択	特別研究Ⅱ	<p>「特別研究Ⅰ」からの継続で、1年次の学生に対して各指導教員が研究指導を行う科目である。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。修士課程修了後に自ら研究を進めていくための基礎と手法を学ぶことを目標とする。各指導教員の研究テーマは「特別研究Ⅰ」に示されている通りである。</p>	
--------	----	-------	--	--

研究指導科目	選択	特別研究Ⅲ	<p>(概要) 2年次の学生に対して各指導教員が研究指導を行う科目であり、先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。修士課程修了後に自ら研究を進めていくための土台を築くこと、あるいは修士課程修了後に社会で人工知能・データサイエンスのプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。各指導教員の研究テーマは次の通りである。</p> <p>(1 内山 泰伸) 高エネルギー宇宙物理学、高エネルギー天文学における複雑な観測データに対して統計学および機械学習・深層学習を応用するデータ駆動科学研究、超新星残骸の観測による爆発的要素合成や宇宙線加速の研究、ガンマ線観測による暗黒物質の探索などを研究テーマの候補とする。データ解析をする上で必要となる観測技術や、解析結果を解釈するための宇宙物理学の理論的理解も深める。さらに機械学習によるデータ処理をオンボードで行える先端的な AI カメラ開発も研究テーマとする。</p> <p>(2 大西 立顕) 統計、機械学習、社会・経済物理学、複雑系科学、複雑ネットワーク科学の手法を用いて、社会・経済に関する高頻度かつ高精度なビッグデータを実証科学の視点から研究する。金融市場・人間行動などの時系列データ、市場間相関・国際貿易などのネットワークデータ、店舗・不動産などの地理空間データ、ニュース・Twitter・ウェブサイトなどのテキストデータ、マウスの脳活動などのバイオビッグデータ、データ駆動型物質・材料探索 (マテリアルズ・インフォマティクス) などのテーマを分析する。</p> <p>(3 村上 祐子) 情報の哲学・倫理、とりわけ人工知能の哲学・倫理を主要な研究テーマとする。個別の関心に応じて力点を設定し、科学哲学・数学の哲学・言語哲学の分野、また手法として必須となる論理学の基本文献を学習した上で、応用倫理学、科学技術社会論の視点からケーススタディを行う。</p> <p>(4 新田 徹) 複素ニューラルネットワークや四元数ニューラルネットワークといった高次元ニューラルネットワークの研究を行う。数理的手法あるいはコンピュータ・シミュレーションによって、高次元ニューラルネットワークの基本的性質、あるいはこれまでに知られていない特有の性質を探索的に調べる。新しい高次元ニューラルネットワークモデルを考案することも目指す。</p> <p>(5 正田 備也) テキストデータを中心とした大規模データを、様々な機械学習の手法を使って分析する。特に、教師なし学習を使うことで、データ集合に潜む多様性をできるだけ損なわないよう網羅的に抽出し、この抽出結果をデータに応じた個別のアプリケーションに役立てる。具体的には、トピックモデルのようなベイジック確率モデルにおける潜在表現をデータ集合に潜む多様性のモデル化に用いる。推定計算についてはミニバッチ学習をGPU上で実行することによって大規模データにも対応できるようにする。また社会実装系のテーマとして、レビューをもとにした飲食店の推薦システムの開発 (ユーザが好みそうなメニューを提供する店の推薦をおこなうだけでなく、推薦される飲食店リストに多様性が見て取れるようにする) などを研究テーマとすることができる。</p> <p>(次頁に続く)</p>
--------	----	-------	--

			<p>(6 三宅 陽一郎) デジタルゲームの複雑な環境に適応するためにゲームキャラクターの人工知能は自律的なものへと変化している。ゲームキャラクターの意識モデルとして、「C4認識アーキテクチャ」と呼ばれるアーキテクチャが多数のゲームタイトルにおけるキャラクターの人工知能に適用され、サブサンクション・アーキテクチャ、新しい意思決定アルゴリズム、学習システムなどを内包しながら発展している。ファイナルファンタジーXVでの実例に基づきながら、ゲームキャラクターの人工知能について研究する。</p> <p>(7 松下 伸行) Amazon Go の自動精算のように AI カメラを活用した新しい流通・小売（リテール）のシステムの開発が現在、注目を受けている。数百台の AI カメラを店舗に導入して進めた先駆的な実験に基づきながら、画像認識エンジンの開発や検証を研究テーマとする。</p> <p>(8 吉川 厚) 人工知能(機械学習、テキストマイニング)を用いて様々なデータに隠れている規則性や法則を発見し、これらの結果を社会シミュレーションへ適用する研究を行う。また、過去の事実であるケースをビジネスゲームの仮想環境上で擬似的に再現し、学習者がリアリティ感を持ちつつプレーすることによって、学習主題のより深い理解を得ることを目的とした意思決定学習法の研究を行う。</p> <p>(9 瀧 雅人) 理論的研究とアルゴリズム開発のいずれかの研究課題を選択する。理論研究では、深層ニューラルネットの汎化性能や表現能力、モデルの挙動を理解するための数理的な理論・解析を調べる。アルゴリズム開発においては、CNNなどの性能を上げる、あるいは計算コストを下げるためのアーキテクチャデザインを研究する。あるいは敵対的事例(adversarial example)に対する防御アルゴリズム、深層学習の推論過程を理解可能(ホワイトボックス)にするための解釈可能な深層学習の研究開発などを行う。</p>	
研究指導科目	選択	修士論文指導演習	<p>2年次の学生に対して各指導教員が研究指導を行う科目であり、先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。特に修士論文を執筆することで、論理的な論文の構成力、文章作成技術の指導を行う。修士課程修了後に自ら研究を進めていくための土台を築くこと、あるいは修士課程修了後に社会で人工知能・データサイエンスのプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。各指導教員の研究テーマは「特別研究Ⅲ」に示した通りである。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

平成31年度
立教大学大学院

令和2年度
立教大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
文学研究科	英米文学専攻(M)	18	—	36
	英米文学専攻(D)	3	—	9
	史学専攻(M)	15	—	30
	史学専攻(D)	6	—	18
	教育学専攻(M)	10	—	20
	教育学専攻(D)	3	—	9
	日本文学専攻(M)	20	—	40
	日本文学専攻(D)	8	—	24
	フランス文学専攻(M)	8	—	16
	フランス文学専攻(D)	3	—	9
	ドイツ文学専攻(M)	8	—	16
	ドイツ文学専攻(D)	3	—	9
	比較文明学専攻(M)	10	—	20
	比較文明学専攻(D)	5	—	15
経済学研究科	経済学専攻(M)	40	—	80
	経済学専攻(D)	10	—	30
理学研究科	物理学専攻(M)	20	—	40
	物理学専攻(D)	4	—	12
	化学専攻(M)	20	—	40
	化学専攻(D)	4	—	12
	数学専攻(M)	5	—	10
	数学専攻(D)	3	—	9
	生命理学専攻(M)	15	—	30
	生命理学専攻(D)	4	—	12
社会学研究科	社会学専攻(M)	20	—	40
	社会学専攻(D)	10	—	30
法学研究科	法学政治学専攻(M)	20	—	40
	法学政治学専攻(D)	10	—	30
観光学研究科	観光学専攻(M)	20	—	40
	観光学専攻(D)	8	—	24
コミュニティ福祉学研究科	コミュニティ福祉学専攻(M)	25	—	50
	コミュニティ福祉学専攻(D)	5	—	15
ビジネスデザイン研究科	ビジネスデザイン専攻(M)	90	—	180
	ビジネスデザイン専攻(D)	5	—	15

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
文学研究科	英米文学専攻(M)	18	—	36	
	英米文学専攻(D)	3	—	9	
	史学専攻(M)	15	—	30	
	史学専攻(D)	6	—	18	
	教育学専攻(M)	10	—	20	
	教育学専攻(D)	3	—	9	
	日本文学専攻(M)	20	—	40	
	日本文学専攻(D)	8	—	24	
	フランス文学専攻(M)	8	—	16	
	フランス文学専攻(D)	3	—	9	
	ドイツ文学専攻(M)	8	—	16	
	ドイツ文学専攻(D)	3	—	9	
	比較文明学専攻(M)	10	—	20	
	比較文明学専攻(D)	5	—	15	
経済学研究科	経済学専攻(M)	40	—	80	
	経済学専攻(D)	10	—	30	
理学研究科	物理学専攻(M)	20	—	40	
	物理学専攻(D)	4	—	12	
	化学専攻(M)	20	—	40	
	化学専攻(D)	4	—	12	
	数学専攻(M)	5	—	10	
	数学専攻(D)	3	—	9	
	生命理学専攻(M)	15	—	30	
	生命理学専攻(D)	4	—	12	
社会学研究科	社会学専攻(M)	20	—	40	
	社会学専攻(D)	10	—	30	
法学研究科	法学政治学専攻(M)	20	—	40	
	法学政治学専攻(D)	10	—	30	
観光学研究科	観光学専攻(M)	20	—	40	
	観光学専攻(D)	8	—	24	
コミュニティ福祉学研究科	コミュニティ福祉学専攻(M)	25	—	50	
	コミュニティ福祉学専攻(D)	5	—	15	
ビジネスデザイン研究科	ビジネスデザイン専攻(M)	90	—	180	
	ビジネスデザイン専攻(D)	5	—	15	

平成31年度
立教大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
21世紀社会デザイン研究科	比較組織ネットワーク学専攻(M)	50	—	100
	比較組織ネットワーク学専攻(D)	5	—	15
異文化コミュニケーション研究科	異文化コミュニケーション専攻(M)	20	—	40
	異文化コミュニケーション専攻(D)	5	—	15
経営学研究科	経営学専攻(M)	10	—	20
	経営学専攻(D)	5	—	15
	国際経営学専攻(M)	30	—	60
現代心理学研究科	心理学専攻(M)	10	—	20
	心理学専攻(D)	3	—	9
	臨床心理学専攻(M)	15	—	30
	臨床心理学専攻(D)	4	—	12
	映像身体学専攻(M)	15	—	30
	映像身体学専攻(D)	4	—	12
キリスト教学研究科	キリスト教学専攻(M)	10	—	20
	キリスト教学専攻(D)	5	—	15
法務研究科	募集停止			
計		657	—	1,442

令和2年度
立教大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
21世紀社会デザイン研究科	比較組織ネットワーク学専攻(M)	50	—	100	
	比較組織ネットワーク学専攻(D)	5	—	15	
異文化コミュニケーション研究科	異文化コミュニケーション専攻(M)	20	—	40	
	異文化コミュニケーション専攻(D)	5	—	15	
経営学研究科	経営学専攻(M)	10	—	20	
	経営学専攻(D)	5	—	15	
	国際経営学専攻(M)	30	—	60	
現代心理学研究科	心理学専攻(M)	10	—	20	
	心理学専攻(D)	3	—	9	
	臨床心理学専攻(M)	15	—	30	
	臨床心理学専攻(D)	4	—	12	
	映像身体学専攻(M)	15	—	30	
	映像身体学専攻(D)	4	—	12	
キリスト教学研究科	キリスト教学専攻(M)	10	—	20	
	キリスト教学専攻(D)	5	—	15	
人工知能科学研究科	人工知能科学専攻(M)	63	—	126	研究科の設置(届出)
法務研究科	募集停止				
計		720	—	1,568	

設置の趣旨等を記載した書類（目次）

①設置の趣旨及び必要性.....	- 1 -
②博士課程の設置について.....	- 3 -
③研究科、専攻等の名称及び学位の名称.....	- 3 -
④教育課程の編成の考え方及び特色（教育研究の柱となる領域（分野）の説明も含む。）.....	- 3 -
⑤教員組織の編成の考え方及び特色.....	- 8 -
⑥教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件.....	- 9 -
⑦特定の課題についての研究成果の審査を行う場合.....	- 11 -
⑧施設・設備等の整備計画.....	- 11 -
⑨入学者選抜の概要.....	- 13 -
⑩「大学院設置基準」第2条の2又は第14条による教育方法の実施.....	- 14 -
⑪管理運営.....	- 15 -
⑫自己点検・評価.....	- 16 -
⑬情報の公表.....	- 17 -
⑭教育内容等の改善のための組織的な研修等.....	- 18 -

設置の趣旨等を記載した書類

①設置の趣旨及び必要性

○研究科を設置する理由・必要性

人工知能 (Artificial Intelligence: AI) は第4次産業革命の中核をなす技術革新のひとつであり、自動運転技術の実現などを通して、急速に人工知能技術の応用が社会全体に展開される時代を迎えつつある。ビッグデータ時代の到来、そしてニューラルネットによる深層学習 (ディープラーニング) の飛躍的な発展が同時に作用して、人工知能の進化が一気に臨界点を越えたといえる。今後、人工知能による経済活動への影響は急速に拡大するだろう。米国・中国のテック企業による集中的な研究投資により研究の進展は加速度的に早まり、人類の社会基盤すら変革していくことが予想される。

日本は少子高齢化に対応する社会システムの大幅な変化が必要な時代を迎えている。「年齢、性別、地域、言語などによる格差がなくなり、だれもが快適で、活力に満ちた、質の高い生活を送ることができる人間中心の社会」の実現のためには、「IoT (Internet of Things)、ロボット、人工知能 (AI)、ビッグデータ等の新たな技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れてイノベーションを創出し、一人一人のニーズに合わせる形で社会的課題を解決する新たな社会」(CSTI (総合科学技術・イノベーション会議) パンフレット 2017 (P7~8)) (資料1) となることが必要であろう。ビッグデータ解析を可能にするデータサイエンスそして人工知能は、日本の未来を左右する科学技術である。本学は、日本の学術と社会の未来に新地平をひらくため、データサイエンス・人工知能に関する研究・教育・社会実装の三位一体を目指す人工知能科学研究科 (修士課程) を2020年4月に池袋キャンパス (豊島区) に設置する。

人工知能科学研究科は、自然科学・人文社会科学分野で、人工知能及び先端的なデータ解析技術を駆使することで新しい知を創出することを目指すものである。そして、人工知能そのものの深い理解及びそれによるヒトの知能に対する透察を得ることも本研究科が探求すべき課題とする。建学の精神である PRO DEO ET PATRIA、すなわち「普遍的なる真理を探究し、私たちの世界、社会、隣人のために」という教育理念に基づき、人工知能及び先端的なデータ解析技術により、これまでの技術ではなし得なかった新しい方法で、誰もが快適で活力に満ちた社会の実現に積極的に貢献することが、本研究科を設置する理由である。

○学位授与の方針 (教育上の目的及び学生が修得しておくべき能力)

人工知能科学研究科は、学士課程教育における一般的並びに専門的教養の上に、人工知能を研究し、その深奥を究め、かつ、キリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与することを目的とし、以下に示す人材を養成することを目指す。

本研究科は、基礎科学研究と人工知能研究の協奏により AI 駆動型科学 (AI 技術によって革新される科学研究) を推進し、自然科学の研究に新展開をもたらすことができる人材を輩出する。例えば、本学理学部の学士課程を修めた学生が、数学・物理学といった数理の専門性を持ちつつ、本研究科において人工知能によるデータ解析等の技術を併せ持つことで、AI 駆動型科学を牽引する人材となることが出来る。学士課程での専門分野を「1階」とし、その上に本研究科で AI・データサイエンスの「2階」を加えることによる2階建ての専門性を有する人材である。さらに、将来的な博士課程の設置を視野に入れ、高度化、複雑化する科学データを駆使し、領域横断的なデータ解析を展開できる研究者の養成を行う。

また、本研究科は、自然科学にとどまらず、人文社会科学の分野においても、人工知能技術の応用により研究に新展開をもたらすことができる人材を輩出することを目指す。例えば社会学や経済学の学士

課程を修めた学生が、本研究科に進学して人工知能によるデータ解析等の技術を修得することで、ビッグデータ時代において社会学や経済学などの分野で新時代を切り拓く稀有な人材になることができる。

人材養成のもう一つの目標は、データサイエンス・人工知能分野の「知の体系」を修得した上で、社会に対する広い視野を持ち、AI 技術と社会をつなぐ役割を果たして、様々な社会問題の解決のために貢献できる人材を養成することである。特に AI 技術の社会実装を指導的な立場で推進することができる高度専門職業人や AI 技術をビジネスに結びつけ、AI やビッグデータを活用した価値創造ができる人材を養成する。

上記を踏まえた本研究科の学位授与の方針は以下のとおりである。

人工知能科学研究科を修了する者が身に付けるべき知識、能力等を下記のとおり定める。

本課程に2年（4学期）以上在学して所定の単位を修得し、かつ、研究指導を受けた上、修士論文又は特定課題研究に係る研究開発プロジェクト報告書を提出して、その審査及び最終試験に合格した者は、これらの知識、能力等を身に付けていると認め、修士の学位（修士（人工知能科学））を授与する。

1. 人工知能を学修する上で必要な基礎的知識及び機械学習や統計学といった人工知能分野に共通する基礎知識
2. 研究活動やプロジェクト実習に取り組む上で必要となる基礎知識
3. 人工知能やデータサイエンスの技術を社会の様々な課題に応用し、人工知能の社会実装を推進する上で必要な知識や技術
4. 修了後に人工知能やデータサイエンスの分野で長期間活躍できるような基礎知識と技術
5. 人工知能やデータサイエンスを駆使した課題解決の総合的能力

なお、本研究科は、「データサイエンス・人工知能」を中心的な学問分野とする。特に、機械学習の基礎研究、人工知能駆動型の自然科学・人文社会科学研究、社会実装への応用研究や実装に付随する諸問題（倫理や社会受容性など）の研究を主要な研究領域として設定する。

○養成する人材像と経済社会の人材需要の見通し等

本研究科は、先進的な人工知能の開発・実用化と基礎研究の進展の好循環（エコシステム）の形成を目指す構想となっている。変化の激しい時代をリードし、日本及び世界に貢献する有為な高度専門職業人の養成を目指す研究科である（資料2）。なお、将来的に設置を構想している博士課程では、修士課程の修了者のうち1割程度が進学するものと想定し、既存の枠組みを超えて分野横断的に活躍できる研究者を養成する。本研究科は、人工知能関連技術を自然科学及び人文社会科学研究にも展開する、日本では稀有の教育研究組織となる。以上のことから、本研究科の人材養成の目的・教育研究の理念は学校教育法第99条に規定する目的（「大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。」）に整合している。

本研究科を修了した学生は、産業界で即戦力として活躍できるだけでなく、新時代を切り拓く先端 IT 人材となることが期待される。さらに、将来的には博士課程に進学して人工知能・データサイエンス分野のフロンティアを開拓できる人材を目指す道もある。本研究科では、実習等によって課題解決の手法も身につけられるため、それぞれのバックグラウンドや興味関心に応じた専門家として活躍する人材となることが可能である。本研究科が輩出する人材は多様な分野において、データサイエンティストやプロジェクトマネージャー等として日本及び世界で活躍できるだろう。総合科学技術・イノベーション会議では、「2020年に約5万人の先端 IT 人材不足解消を前提とすると、現状の育成規模に追加して1年に

約2～3万人の育成が急務」(2018年4月5日(第38回)資料1-4 P2から引用)(資料3)としており、本研究科は、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであるといえる。経済学でいう「イノベーションのジレンマ」の観点から、特にAI分野では既存の大企業よりも、新規に起業されたスタートアップにおけるイノベーションが重要であると考えられるが、米国と比較して日本では有力なAIスタートアップの数が少ないのが現状である。本研究科は、本学のビジネスデザイン研究科と共同で起業家教育にも取り組む予定であり、修了後に起業する学生も支援したい。

②博士課程の設置について

本研究科は博士課程の設置を目指した構想であるため、開設後の状況を踏まえつつ、本専攻の課程変更に係る諸手続きを行う予定である。

③研究科、専攻等の名称及び学位の名称

○「人工知能科学研究科人工知能科学専攻」とする理由

自然科学・人文社会科学分野で、情報科学・計算機科学の素養を基盤として、人工知能及びデータサイエンス技術によって新しい知を創出することが本研究科の主要な目的である。すなわち「人工知能技術」と「科学」の共有結合であり、その意味で「人工知能科学研究科」の名称が適切と考える。また、人工知能そのものの深い理解によってヒトの知能の本質に迫る営みは、「人工知能」を「科学」するものであり、その観点でも「人工知能科学研究科」の名称と整合している。

また、本研究科は「人工知能科学専攻」という単一の専攻で構成され、専攻の名称の持つ意味は、前項での説明のとおりである。したがって、学位に付記する専攻分野の名称も「人工知能科学」とするのが適切である。

なお、国際的な通用性を踏まえ、人工知能科学研究科及び専攻の英訳名称は、Graduate School of Artificial Intelligence and Science 及び Graduate Program in Artificial Intelligence and Science とし、授与する学位の英訳名称は、Master of Science in Artificial Intelligence とする。

④教育課程の編成の考え方及び特色(教育研究の柱となる領域(分野)の説明も含む。)

○教育課程の編成方針(カリキュラムポリシー)

本研究科は、情報科学・計算機科学の素養を基盤として、人工知能及びデータサイエンス技術によって自然科学・人文社会科学分野に新しい知を創出し、さらに基礎研究と人工知能の実用化が好循環するシステムを構築するための教育研究プログラムを実現する。AI革命が進行する人類の歴史における転換点において、日本及び世界に貢献する有為な高度専門職業人の養成を目指す。また、社会人を積極的に受け入れる制度設計であり、リカレント教育の場としても機能する。これらを踏まえ、人工知能に関する基幹的で応用の利く知識を身につける科目を系統的に配置するとともに、最新の研究動向や高度に専門的な知識・知見も獲得できる科目群を配置する。また同時に、人文社会科学的な素養を身につけられるよう、人文科学や社会科学に関連する科目を配置する。以上のように、人工知能に関する高い専門性と、社会実装のための幅広い視野を養うため、基幹科目のほか、先端的あるいは実践的な選択科目を履修できるカリキュラムを編成する。

プログラミング等の基礎的な技術の習得の面では、学生の多様な背景に合わせて、各分野の教員が協議しながらチーム・ティーチングを行い、効果的な学修を積極的に促進する。また、企業等から兼任講師を招聘し、その分野や産業における最新の動向を学修・分析する機会を設ける。

多様な学問分野に貢献できる人工知能科学の特性を最大限に活かすことができるよう、基幹科目については、各学生が学士課程で修めた学問分野を問わず、必要な知識や技能を身につけることを可能にする履修体系を設計する。ただし、実習科目を2クラスに分けるなどの措置により、基幹科目への接続に不安を有する学生に配慮する。

また、成績評価の基準・方法は次のとおりとする。講義や演習の各科目の成績は絶対評価で100点満点による評価を行い、60点以上で単位認定し、60点未満及び欠席を不合格とする。成績は、試験、平常点などの成績評価の割合を科目ごとに定め、シラバスを通して周知する。学期末試験終了後に成績評価の講評を公表し、成績評価の公正性を示すとともに、学生自らが学修の達成度を確認できるように配慮する。

上記及び学位授与の方針に基づいた教育課程の編成方針は以下のとおりである。

本研究科では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり教育課程を編成している。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、授業時に実施する小テスト、随時に課されるレポート、そして学期末試験等によって評価する。

○教育課程の構成

本課程の修了要件は30単位であり、授業科目を以下の区分に分けている。

1. 基幹科目
2. 基礎科目
3. 応用科目
4. 演習・実習科目
5. 研究指導科目

1. では、学問的背景の異なる学生が、人工知能を学修する上で必要な基礎的知識を習得するための科目や、機械学習や数理統計学といった人工知能分野に共通する基礎を習得するため、「データサイエンス概論」、「機械学習」、「人工知能概論」等の授業科目を開講する。

2. では、研究室での研究活動やプロジェクト実習に取り組む上で必要となる基礎知識を獲得するため、基幹科目を補完する科目として「情報科学概論」、「数理科学概論」、「社会情報科学概論」、「計算機科学概論」等の授業科目を開講する。

3. では、人工知能やデータサイエンスの技術を社会の様々な課題に応用し、人工知能の社会実装を推進する上で必要な知識や技術を獲得するため、「AI ビジネス特論」、「自然言語処理特論」、「人工知能社会実装」等の授業科目を開講する。また、既存の技術を超える革新的な人工知能の研究を推進する上で糧となる知識を獲得するため、「脳神経科学特論」、「量子情報特論」等の授業科目を開講する。

4. では、人工知能やデータサイエンスの分野で卒業後に長期間活躍できるような基礎知識と技術を徹底的に身に付けるため、「Python プログラミング」、「機械学習演習」、「深層学習演習」等の実践的な授業科目を開講する。

5. では、教員の指導のもとで先端的な研究あるいは先進的なプロジェクトに取り組み、人工知能やデータサイエンスを駆使した課題解決の総合的能力を訓練するため、「プロジェクトチーム実習」、「特別研究」、「修士論文指導演習」等の授業科目を開講する。

○学位授与の方針に記載した学修成果と授業科目等の関係

1. の科目を受講することにより、人工知能を学修する上で必要な基礎的知識及び機械学習や統計学といった人工知能分野に共通する基礎的知識を身に付ける。

2. の科目を受講することにより、研究活動やプロジェクト実習に取り組む上で必要となる基礎知識を身に付ける。

3. の科目を受講することにより、人工知能やデータサイエンスの技術を社会の様々な課題に応用し、人工知能の社会実装を推進する上で必要な知識や技術を身に付ける。

4. の科目を受講することにより、修了後に人工知能やデータサイエンスの分野で長期間活躍できるような基礎知識と技術を身に付ける。

5. の科目を受講することにより、人工知能やデータサイエンスを駆使した課題解決の総合的能力を身に付ける。

○科目区分の設定及びその理由、各科目区分の科目構成とその理由、上記の設置の趣旨等を実現するための科目の対応関係、必修科目・選択科目・自由科目の構成とその理由、履修順序（配当年次）の考え方等

本研究科では、学生が目指す人材像に応じた科目履修を検討する際に、科目選択のガイドとなるように、科目を基幹科目、基礎科目、応用科目、演習・実習科目及び研究指導科目の5つに区分している。また、それぞれの科目構成は表のとおりである（下線は必修科目）。なお、科目区分ごとの目的及び学位授与の方針に掲げた学修成果との関係については教育課程の編成方針に記載したとおりである。

基幹科目	基礎科目	応用科目	演習・実習科目	研究指導科目
データサイエンス概論	情報科学概論	AI ビジネス特論	Python プログラミング	プロジェクトチーム実習 I
<u>機械学習</u>	数理科学概論	自然言語処理特論	<u>機械学習演習 I</u>	プロジェクトチーム実習 II
人工知能概論	社会情報科学概論	人工知能社会実装	機械学習演習 II	特別研究 I
<u>深層学習</u>	意思決定の科学	認識技術特論	深層学習演習 I	特別研究 II
<u>先端科学技術の倫理</u>	計算機科学概論	脳神経科学特論	深層学習演習 II	特別研究 III
統計モデリング I	人工知能の哲学	統計モデリング II	社会モデリング演習	修士論文指導演習
複雑ネットワーク科学		量子情報特論	輪講 I	
			輪講 II	
			データサイエンス実習	

基幹科目では、本研究科に織り込まれている研究分野に共通する最も基幹的な知識を獲得するため「機械学習」及び「深層学習」を必修科目としている。また、社会実装を進める上で、先端技術の持つ潜在的なリスクを正しく理解するための科目として「先端科学技術の倫理」を必修科目としている。さらに、演習・実習科目では、人工知能・データサイエンスに係る知識を実践する能力を身に付けるため「機械学習演習 I」を必修科目としている。必修科目は4科目計8単位であり、その他は全て選択科目としているが、これは人工知能・データサイエンスを共通言語としつつも分野横断的な教育研究を可能とするためである。

配当年次の考え方については以下のとおりである。

1年次前期には、人工知能・データサイエンスの基礎を修得するための科目として、「データサイエンス概論」、「機械学習」、「人工知能概論」、「情報科学概論」及び「Python プログラミング」の5科目を配当している。また、実践的な能力を磨くため、「機械学習演習 I」と「社会モデリング演習」の2科目を配当している。先端的な研究の遂行に必要となるスキルとして専門書や英語原著論文を読む力を身につけるため「輪講 I」を配当している。そして、各指導教員が研究指導を行う科目として、「特別研究 I」を配当している。この科目では、先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につけることを目的としている。

1年次後期には、現在の人工知能技術の中心に位置づけられる深層学習（ディープラーニング）の修得のため、「深層学習」及び「深層学習演習Ⅰ」を配当している。人工知能・データサイエンスの基礎となる知識を深めることを目的とした科目として、「統計モデリングⅠ」、「数理科学概論」、「社会情報科学概論」及び「自然言語処理特論」の4科目を配当している。また、人工知能・データサイエンス技術の社会への実装力を養成する科目として、「先端科学技術の倫理」、「意思決定の科学」及び「AI ビジネス特論」の3科目を配当している。1年次前期の「輪講Ⅰ」及び「特別研究Ⅰ」の継続科目として「輪講Ⅱ」及び「特別研究Ⅱ」を配当している。さらに、機械学習アルゴリズムの詳細な仕組み等を理解するための「機械学習演習Ⅱ」を配当している。

2年次前期には、人工知能・データサイエンスで重要となる知識のなかでもより高度な知識を獲得することを目的とする科目として、「複雑ネットワーク科学」、「脳神経科学特論」及び「統計モデリングⅡ」を配当している。また、データサイエンティストとしての技能を高める科目として、「データサイエンス実習」を配当している。人工知能・データサイエンス技術を産業界で応用する上で持つべき知識を得る科目として、「人工知能社会実装」、「計算機科学概論」及び「認識技術特論」の3科目を配当している。

1年次に学んだ人工知能・データサイエンスの理論と技術を集結し、それを実践へと昇華させる能力を涵養する科目として、「プロジェクトチーム実習Ⅰ」を配当している。さらに、各指導教員が修士論文作成に向けた研究指導を行う科目として「特別研究Ⅲ」を配当しているほか、人工知能の理解を深めた上で、「知性とは何か」という根源的問題に改めてアプローチする科目として「人工知能の哲学」を配当している。

2年次後期には、人工知能・データサイエンスにおける高度な知識を獲得し、先端研究につながる科目として、「量子情報特論」及び「深層学習演習Ⅱ」の3科目を配当している。2年次前期の「プロジェクトチーム実習Ⅰ」及び「特別研究Ⅲ」の継続科目として「プロジェクトチーム実習Ⅱ」及び「修士論文指導演習」を配当している。

1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
データサイエンス概論	深層学習	複雑ネットワーク科学	量子情報特論
機械学習	先端科学技術の倫理	計算機科学概論	深層学習演習Ⅱ
人工知能概論	統計モデリングⅠ	人工知能の哲学	プロジェクトチーム実習Ⅱ
情報科学概論	数理科学概論	人工知能社会実装	修士論文指導演習
Python プログラミング	社会情報科学概論	認識技術特論	
機械学習演習Ⅰ	意思決定の科学	脳神経科学特論	
社会モデリング演習	AI ビジネス特論	統計モデリングⅡ	
輪講Ⅰ	自然言語処理特論	データサイエンス実習	
特別研究Ⅰ	深層学習演習Ⅰ	プロジェクトチーム実習Ⅰ	
	機械学習演習Ⅱ	特別研究Ⅲ	
	輪講Ⅱ		
	特別研究Ⅱ		

○課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と研究指導

本研究科は、「新時代の大学院教育—国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて—」（2005年）、「グローバル化社会の大学院教育～世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために～」（2011年）及び「未来を牽引する大学院教育改革～社会と協働した「知のプロフェッショナル」の育成～」（2015年）を踏まえ、上記のように体系的な教育課程を編成し、「学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修

するコースワーク」を実施することとしている。

また、学問的背景の異なった学生が第2の専門として人工知能・データサイエンスを学修することを可能とするため、各研究室に分かれての研究活動に重点が置かれがちな標準的な日本の大学院教育とは異なり、コースワークを重視した緻密な科目設計を行っている。さらに、各研究室の閉ざされた環境での学修にならないように、特に1年次においては分野の垣根を超えた集団指導を実施し、学生・教員間の協働が誘起される環境を構築する。

○教育課程の編成の考え方及び特色

本研究科は、機械学習の基礎研究、人工知能駆動型の自然科学・人文社会科学研究、社会実装への応用研究や実装に付随する諸問題（社会受容性など）の研究を主要な研究領域として設定する。また、本学の既存学部・研究科の教員と協働し、これらの分野を人文社会科学に結びつける文理融合型の研究も積極的に推進する体制を構築する。学生は、講義や実習、研究指導、あるいは、学生間の交流を通して、多様な考え方やものの見方に触れながら、人工知能の社会実装を図ることができ、現代社会における様々な課題解決のための考え方や技術を修得する。さらに、現役学生と企業等で活躍する社会人とのディスカッションや情報交換、共同研究の機会を設ける。学生は、本研究科に在籍しながら、多様な社会人とのコミュニケーションを通じて、社会で求められ活躍できる人材になるためには何が必要なのかを認識できる。

また、ニューラルネットワーク研究における関連分野の素養を身につける科目としての「脳神経科学特論」や「量子情報特論」、あるいは人工知能駆動型の自然科学研究を推進する上での基礎的素養を涵養するための科目としての「認識技術特論」や「自然言語処理特論」を配当し、それぞれの研究活動に密接に関連する周辺分野の基礎が学べるような科目を設置している。

本研究科の特色として、AI ELSI (Ethical, Legal, and Social Implications)を全学生が持つべき素養として定義し、「先端科学技術の倫理」及び「人工知能の哲学」の2科目を配当し、人工知能の倫理問題やそれがわれわれに突きつける「知性とは何か」という根源的な問いについて全学生が深く考える機会を持つことを必須としている。また「人工知能社会実装」の科目において、知的財産についての現実的な諸問題について学び、人工知能の社会受容度について学生が主体的に検討する機会を持てるようにする。

このように、本研究科は、理論と実習の相乗効果を企図した学修体系を通じて、研究、教育、社会実装の強い相乗効果を生み出す。特に、「修士論文指導演習」や「プロジェクトチーム実習」を通じて、自ら設定した課題に対して様々なアプローチを試み、必要とされる資料を収集し、調査を行い、課題を設定し直し、他者に助言を求め、粘り強く課題に取り組む力が養成される。「プロジェクトチーム実習」では、社会の要請に応える実践的で先端的なプロジェクト遂行能力を獲得することができる。さらに、本学の既存学部と実質のある連携を取り、幅広い学術分野に AI 技術応用及びデータサイエンスを展開することは、日本の研究機関としては独特の取り組みになるだろう。

なお、未来投資戦略 2018 及び統合イノベーション戦略（両者とも 2018 年 6 月 15 日閣議決定）で「大学等における AI 人材供給の拡大」及び「特に取組を強化すべき主要分野」として「AI 技術」を有した人材の育成の必要性が言及されている。加えて、一般社団法人日本経済団体連合会が公表した「今後のわが国の大学改革のあり方に関する提言」（2018 年 6 月 19 日）P3 では、AI、ビッグデータ、ゲノム等の新しい科学技術を、人文社会科学系の知識・専門性（法律、経営、倫理哲学等）を活用して社会実装することが Society5.0 に繋がるとしている。上記のとおり、本研究科の教育研究はこれらの社会のニーズを捉えたものである。

⑤教員組織の編成の考え方及び特色

○教員配置の考え方

本研究科の理念を実現するためには、重点分野に設定した研究領域を第一線で活躍する研究者によって網羅する必要がある。専任教員は、これまで大学等の機関や研究所に所属している者を中心に、国内外で博士の学位を取得した者及び大学、産業界等での十分な研究業績を有する者のみで構成するため、担当分野に関し高度の教育研究上の指導能力、業績等がある。また、企業での経験を有する者や社会実装の観点で必要な人材を登用するとともに、設置後、速やかに若手研究者を助教として登用する。

本研究科は、機械学習（特に深層学習）モデルの研究、AI 駆動型・データ駆動型の科学研究、AI 技術を人文社会科学に結びつける文理融合型の研究、AI ELSI 及び AI 技術を社会実装するための応用研究を推進するため、それぞれの分野における高度の教育研究上の指導能力、業績等を備えた 9 名の専任教員を配置し、上記に記載した人材養成に向けた適切な役割分担及び連携体制の確保に留意しつつ、FD を踏まえた学生の学修状況の確認、課題の共有など、組織的な教育を行う。なお、AI 技術の社会実装を指導的な立場で推進することができる高度専門職業人を養成することを目的としているため、産業界の急速な変化に対応するべく、実務家教員を配置する。

現在の技術レベルでの製品開発やマネタイズは既存の API (Application Programming Interface) を組み立てた製品が主であり、「プロジェクトチーム実習」(研究指導科目の一つ) の題材としても適切である。さらに、研究科の研究領域を重点分野以外にも拡大することを可能にするため、今後は 2 名程度の若手研究者を助教として配置することを予定している。

○研究科の研究対象学問分野、中核的な科目や必修の理論科目等に係る適切な教員配置（当該分野における博士号等の学位や十分な研究業績を有する教員の配置など）

本研究科の中核的な科目は「人工知能概論」及び「データサイエンス概論」であり、担当教員として理学や工学等の博士号を有する専任教員を配置する。また、必修科目として、基幹科目では「機械学習」、「深層学習」及び「先端科学技術の倫理」を、演習・実習科目では「機械学習演習」を配置しており、担当教員として、理学、工学又は情報理工学の博士号を有する専任教員を配置するほか、理学の修士号及び米国での Ph.D を有する専任教員を配置する。

○実務経験の豊富な教員の活用

本研究科では、上記のとおり、「データサイエンス・人工知能」を中心的な学問分野とし、特に、機械学習の基礎研究、人工知能駆動型の自然科学・人文社会科学研究に加えて、社会実装への応用研究や実装に付随する諸問題（社会受容性など）の研究を主要な研究領域として設定している。また、データサイエンス・人工知能分野の「知の体系」を修得した上で、社会に対する広い視野を持ち、AI 技術と社会をつなぐ役割を果たすとともに、様々な社会問題の解決のために貢献できる人材として、

- ・ AI 技術の社会実装を指導的な立場で推進することができる高度専門職業人
- ・ AI 技術をビジネスに結びつけ、AI やビッグデータを活用した価値創造ができる人材

を養成することを目的としている。

そのため、研究指導科目として「プロジェクトチーム実習」を開講し、社会の要請に応える実践的で先端的なプロジェクト遂行能力を獲得させる。同科目は、企業での経験を有する者や社会実装の観点から、企業におけるプロジェクトリーダーの経験を有する者など、「価値創造」の実績がある実務家教員を配置することとしており、「メタ知識」や「問題解決能力」の醸成に効果的である。

○研究科の中心となる研究分野及び研究体制

「人工知能」の定義は様々あるが、東京大学工学系研究科松尾教授は「人工的につくられた人間のよ
うな知能、ないしはそれをつくる技術。人間のように知的であるとは、「気づくことのできる」コンピ
ュータ、つまり、データの中から特徴量を生成し現象をモデル化することのできるコンピュータという意
味である」（平成 28 年版情報通信白書第 1 部 P233）（資料 4）としている。本研究科では、データから
特徴量を生成し現象をモデル化する技術である機械学習、特に深層学習をその中心として捉えて研究体
制を構築しており、深層学習の理論・アルゴリズムを専門とする教員を 2 名配置するとともに、深層学
習を自然科学、社会科学、人文科学に応用する教員をそれぞれ 1 名ずつ配置している。

○教員組織の年齢構成

本研究科の教員組織の年齢構成は、30 歳代 1 名、40 歳代 5 名及び 50 歳代 3 名であり、30 歳代～40 歳
代の教員が 2/3 を占めており、教育研究水準の維持向上・教育研究の活性化に配慮した年齢構成となっ
ている。なお、本学の定年に関する規程である学校法人立教学院就業規則（資料 5）では、第 20 条にお
いて以下のとおり規定しており、同条の規定と照らし合わせても問題ない。

（定年退職）

第 20 条 勤務員が満 65 年に達した場合は、その年度末をもって定年退職とする。ただし、特に必要
ある場合は職務を嘱託することがある。

○本学における教育研究以外の業務に従事する専任教員の役割・責任等

本研究科における教育研究以外の業務に従事する専任教員は、年間 10 単位以上を担当する。また、本
学の職務に従事する週当たり平均日数は 3 日以上であり、教育研究上の支障はない。さらに、研究指導
科目である、「修士論文指導演習」又は「プロジェクトチーム実習（I 及び II）」を担当することになっ
ている。なお、他の専任教員と同様、研究科委員会、自己点検・評価委員会等に出席し、学生の学修状
況の確認、課題の共有等を行う。

⑥教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

○教育課程に係る授業の方法、授業方法に適した学生数の設定、配当年次の設定等

講義科目では黒板への板書とスライドによる説明による知識伝達型の講義がメインとなるが、学生の
主体的な参加を促す取り組みもバランスをとりながら組み込む。1 学年の学生定員が 63 名であるため、
講義科目では全学生が受講しても差し支えないと考える。演習・実習科目では、教員による説明を受け
て、学生が各自で PC を用いて作業し、お互いに議論する時間を十分に確保する。演習科目では 1 クラ
スが 40 名以下になるように学生数を設定し、TA を配置することで、行き届いた指導を実現する。また、
実習科目ではグループワークによる授業進行となるため、5 名程度のグループ毎に担当講師がつくよう
に授業を設定する。

配当年次については、知識の積み上げが適切に進むように、基礎的な科目から応用的な科目に学期進
行に応じて徐々にシフトするように設定されている。各学期に演習・実習科目を配置することで、実践
的な学修が継続的に行われるようにカリキュラムを設定している。また、学部において既に本研究科の
中核となる科目の内容を修得している場合、1 年次から、2 年次配当のより高度な科目を選択できるよ
うにして、学部からの接続に配慮する。

○修了要件

必修科目 8 単位、選択科目 22 単位（選択必修科目「プロジェクトチーム実習 I」、「プロジェクトチ
ーム実習 II」、「特別研究 III」及び「修士論文指導演習」を含む。）以上を修得し、合計 30 単位以上を修得

するとともに、研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究成果に係る審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。本研究科の研究分野に共通する基盤的な知識・技術を学修する科目群を必修とすることで、学位の質を担保するとともに、応用的な科目群の設計を容易にしている。多様な学問的背景を持った学生にとって有意義なカリキュラム構成となることを目指し、学部で人工知能あるいはデータサイエンスを既に学修した学生が先端的な研究に取り組むケース、学部で人文社会科学分野を学修した学生が新たに人工知能・データサイエンス分野に進出するケースなど、いくつかの異なる履修パターンに対応できるような科目数を設定している。

○履修モデル

本研究科の履修モデルは**資料6**のとおりである。

○特別研究（Ⅰ～Ⅲ）、修士論文指導演習及びプロジェクトチーム実習（Ⅰ及びⅡ）の単位数

「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」、「特別研究Ⅲ」及び「修士論文指導演習」は学位論文の作成に関連する研究活動に対して単位を認定するものであり、研究活動に必要な学修等を考慮して、それぞれ3単位としている。また、「プロジェクトチーム実習Ⅰ」及び「プロジェクトチーム実習Ⅱ」は、修士論文作成に代えて特定の課題として人工知能システムの開発をチーム形式で行うものであり、それぞれ2単位としている。

○他大学における授業科目の履修等

多数の大学が所在する東京に位置している利点を生かして、他大学における授業科目の履修等も積極的に支援することを基本的な方針とする。なお、大学院学則第15条第4項の規定に基づき、他大学大学院において履修した授業科目について修得した単位数は、10単位を超えない範囲で修了要件に算入することとする。

○研究指導計画

本研究科は、多様な学問的背景を持つ学生が第2の専門として人工知能・データサイエンスを学修することを可能とするため、各研究室に分かれての研究活動が中心になりがちな標準的な日本の大学院教育とは異なり、コースワークを重視して、分野の垣根を超えた集団指導を実施する。1年次は基幹的な授業及び基礎的な授業を主に受講し、学生それぞれにメンターを設定し、研究指導教員とは別の教員が学修の進捗の確認などを定期的に行う。希望者は1年次から研究室に配属され、指導教員のもとで研究活動を行い、「特別研究Ⅰ」及び「特別研究Ⅱ」の単位を修得する。前期の「特別研究Ⅰ」と後期の「特別研究Ⅱ」で別の研究室に所属することも推奨し、複数の研究分野を経験することで分野横断を可能にする知識・技術・考え方を身に着ける。2年次の前期は、応用的な内容を持つ科目の履修が主となる。2年次においても学生全員に研究室での指導教員とは別にメンターを設定し、学修や研究の進捗状況などについてのケアを担当する。2年次のはじめに修士論文作成のための研究室配属を改めて行い、前期と後期を通じて特定の指導教員のもとで研究活動に従事する。あるいは、修士論文作成に代えて特定の課題についての研究成果の審査を受ける場合は、「プロジェクトチーム実習Ⅰ」及び「プロジェクトチーム実習Ⅱ」を受講し、「プロジェクトチーム実習Ⅱ」の終了時に研究開発プロジェクト報告書を提出することで、研究成果の審査を受けることができる。2年次の最後に修士論文発表会及びプロジェクトチーム実習報告会を実施する。

なお、研究指導基本スケジュールは**資料7**のとおりである。

○学位論文審査体制（審査の厳格性及び透明性）、学位論文の公表方法等

学位を申請する学生それぞれに主査及び副査2名の論文審査委員を研究科委員会で決定する。論文審査委員は、学位請求論文及び修士論文発表会における当該学生の研究発表の内容によって、厳格に論文

を評価し、評価結果を記した論文審査報告書を作成する。論文審査報告書は研究科委員会で審議され、学位請求論文の合否が決定される。

○研究の倫理審査体制（研究の倫理審査に関する規定）

本学では、研究活動を行う全ての者及びこれを支援する全ての者が遵守すべき立教大学研究活動行動規範（資料8）を定めている。また、研究者の研究倫理意識を高め、この行動規範の運用を実効あるものとするため、立教大学研究活動行動規範マネジメント委員会を設置し、「行動規範」に関する問題の相談・通報を受付ける「相談・通報受付窓口」を設置しているほか、研究倫理の啓発及び研究不正の疑義に関する対応を行っている。さらに、「個人情報保護委員会」にて個人情報に関する法令の遵守・監視を行っていく。各研究者に研究倫理教育に係る e-learning を教材（CITI Japan プログラム）の受講を義務付け、研究活動に関するコンプライアンス教育及び研究倫理教育を行っている。

⑦特定の課題についての研究成果の審査を行う場合

○特定課題研究の内容等

人工知能は基礎理論を学ぶだけでなく、実際の社会課題の解決のために応用し、社会実装を推進することが求められている。人工知能・データサイエンスの理論と技術を集結し、それを実践へと昇華させる技術を修得するため、「プロジェクトチーム実習Ⅰ（及びⅡ）」の授業科目において、特定課題の研究として、人工知能システムの開発をチーム形式で行う。課題設定、システム設計、ライブラリによる実装、その特性評価など、社会実装のプロセスを一通り経験することができる。本研究科の目的として、データサイエンス・人工知能分野の「知の体系」を修得した上で、人工知能やビッグデータを活用した価値創造ができる人材の育成があげられる。「プロジェクトチーム実習Ⅰ（及びⅡ）」における特定課題の内容は、そのような人材の育成に直結するものである。

○当該特定課題研究に係る教育研究水準の確保

特定課題として課された社会実装プロジェクトを遂行する上で、プロジェクトの立案、概念検証、実装、運用の全ての段階を経験することになる。「プロジェクトチーム実習Ⅰ（及びⅡ）」を担当する教員は、企業においてプロジェクトリーダーの経験を十分に積んだ者であるため、高い教育研究水準を確保しているといえる。

⑧施設・設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

○研究科の教育研究を踏まえた適切な環境整備

人工知能科学研究科の教育研究においては、人工知能・データサイエンスを全学術分野に展開することをミッションとしており、可能な限り多彩な分野の研究者、学生と日常的に交流できる環境が望まれる。本研究科の教育が実施される池袋キャンパスは、文学研究科、経済学研究科、理学研究科、社会学研究科、法学研究科、ビジネスデザイン研究科、21世紀社会デザイン研究科、異文化コミュニケーション研究科、経営学研究科、キリスト教学研究科及び法務研究科を擁し、人工知能の全学術分野展開に必要な環境が整っている。歴史を感じる赤レンガ造りの建物と現代的な美しい建物が調和し、緑豊かな学内が学生でにぎわい活気があふれている池袋キャンパスは、ヒトと人工知能の協働、調和を目指す本研究科の教育の現場として望ましい環境を提供している。これらの考えに基づき、池袋キャンパスの11号館の一部及び16号館に教員研究室、学生研究室、日常的な学生間・学生教員間の交流のための施設・設備を整備する。

イ 校舎等施設の整備計画

○教員の研究室、必要な教室の整備計画

教員の研究室は本学での基準に則り、各教員に 20 m² の研究室が割り当てられる。池袋キャンパスの 11 号館の一部及び 16 号館に、教員間の日常的な議論やコミュニケーションが可能となるような工夫をしながら、教員の研究室を配置する。講義室は池袋キャンパスに設置されている教室を他学部・他研究科と共有して使用する。平日の授業で同時限に行なわれるのは最大で 3 クラス（各クラスは最大 63 名）となるようにカリキュラムを組むこととしており、また、平日は 18:30 開始の授業が主になるため、教室の余裕は十分にある。

○研究科の教育課程、時間割等を踏まえた施設・設備

最先端の人工知能技術を使用するためのハードウェアを配置するのに十分な空間、研究実験を行うための空間、教員と学生が研究活動を行うデスクスペース、研究についての議論を日常的に行える会議室、外部研究者や企業との交流を促進するためのビジター用のデスクスペース等を整備する。特に学生間や学生教員間の豊かな交流を誘起する空間づくりが重要と考える。また、教員、学生ともに、十分な量の学術論文や関連図書を参照できる環境が必要であるため、教員及び学生の研究室内には、関連書籍や情報関連機器を整備する。さらに、学内 LAN サーバーによる情報ネットワークを利用した学習が可能な自習スペースを整備する。自習スペースでは、各種文献を始めとする資料の検索とともに、V-Campus（バーチャルキャンパス：学内 LAN を利用した本学独自のサイバーキャンパス）や学内外のデータベース利用、情報ネットワーク構築を行うことが可能となっている。

なお、前述のとおり、講義室は池袋キャンパスに設置されている教室を他学部・他研究科と共有して使用するものの、平日の授業で同時限に行なわれるのは最大で 3 クラス（各クラスは最大 63 名）となるようにカリキュラムを組むこととしており、また、平日は 6 時限の授業が主になるため、これらの施設・設備の利用には何ら支障がない。

ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

○研究科の種類・規模等を踏まえた図書等の整備

本研究科は、多様な学問的背景を持った学生が、第 2 の専門として人工知能・データサイエンスを学修する。従って、関連する分野が多岐にわたり関連図書の種類は多いが、池袋キャンパスは、文学研究科、経済学研究科、理学研究科、社会学研究科、法学研究科、ビジネスデザイン研究科、21 世紀社会デザイン研究科、異文化コミュニケーション研究科、経営学研究科、キリスト教学研究科及び法務研究科を擁しているため、池袋図書館にはすでに十分な図書が整備されている。また、本研究科で開講される全ての授業における教科書を図書館において整備する。人工知能・データサイエンス分野の学術雑誌として、「Applied Artificial Intelligence」、「Applied Intelligence」、「Artificial Intelligence」、「AI & Society」、「Kybernetes」、「Minds and Machines」、「International Journal of Human-Computer Studies」、「Journal of Semantics」、「Linguistics and Philosophy」、「Artificial Life and Robotics」、「Computational and Mathematical Organization Theory」、「Expert Systems」及び「Knowledge Engineering Review」等を整備する。

また、池袋図書館には、1,162,277 冊（2017 年度）（資料 9）を所蔵している。また、本研究科と同じ学位の分野（理学関係）である理学研究科が池袋キャンパスに設置されているため、既に多くの関連図書を有していることになる。さらに、前述のとおり人工知能・データサイエンス分野の学術雑誌を整備する予定であるため、本研究科の教育研究活動に支障が生じることはない。

○デジタルデータベース、電子ジャーナル等の整備計画

池袋図書館は、既に豊富なオンライン資料（42,796 件の電子ジャーナル、23,978 件の電子書籍及び124 件のデータベース）（2017 年度）を有している。これらの既存の資料を活用するとともに、必要に応じてさらなる充実を図る予定である。

○図書館の閲覧室、閲覧席数、レファレンス・ルーム、検索手法等など、教育研究を促進できる機能等

地下2階から地上3階までの5層からなる池袋図書館は収蔵可能冊数200万冊、閲覧席数1520席を有する、国内の大学でも屈指の大規模図書館となっている。総合学習図書館及び研究図書館としての機能を維持するとともに、多様なニーズに対応し利便性を向上させることによって、学習・教育・研究を支援している。また、教育研究情報環境のネットワーク利用基盤である学術情報システム（Rikkyo Information System）によって、利用者は文献の収集から整理、資料の提供に至るまでの総合的なサービスを受けることができる。図書資料等の目録データはOPACによるオンライン検索とともに、学内LANを経由して、各研究室や学内の各施設、さらには学外や自宅からもアクセスが可能である。

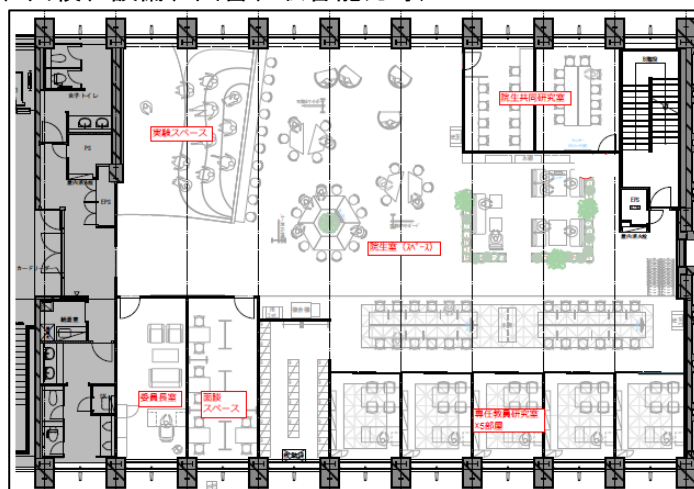
以上については、研究科の種類を問わず汎用的な要素を含んでいるため、本研究科の目的等に照らしても十分に適切である。なお、夏季休暇期間、入学試験実施期間等を除いて、最長で22:30まで開館していることから、社会人学生に対する利便性も確保できている。

○他の大学の図書館等との協力

他の教育研究機関との連携については、本学、青山学院大学、学習院大学、國學院大學、東洋大学、法政大学、明治大学及び明治学院大学の8大学で「山の手線コンソーシアム」を形成し、学生及び教職員が各大学の図書館を利用できる体制を構築している。

○研究室（自習室）等の考え方、整備計画（室数、面積、設備、図書、収容能力等）

教員の研究指導を受けやすくするため、学生の研究室を指導教員の研究室、学生の共同研究室及び指導教員との面談スペースと同じフロアに配置する予定である（11号館5階。図の改修を予定）。同フロアには、学生が使用するロッカー、共用机、フリーアドレスの机、プリンター等を備えているほか、各人の研究内容に応じて自習スペースを選択出来るような机や椅子の仕様にする。このため、研究発表等の際には可動式の机、椅子を移動させることでフレキシブルにレイアウト変更が可能となる。



それぞれの面積については、学生の研究室（180㎡）、共同研究室（40㎡）、面談スペース（20㎡）及び実験スペース（40㎡）の計画である。

なお、研究発表や実験（画像処理など）で使用予定のAVモニターを各所に配置するとともに、共同で利用可能な本棚を配置する。

⑨入学者選抜の概要

○学生受入れの方針（アドミッションポリシー）、選抜方法及び選抜体制（推薦入試と一般入試の募集定員の割合等）

本研究科は、科学の諸分野でAI駆動型科学を推進できる人材を養成する。学士課程での専門分野を

「1階」とし、その上に本研究科でAI・データサイエンスの「2階」を加えることによる2階建ての専門性を有する新しいタイプの人材である。学生受入れにあたっては、学士課程での専門分野は多岐にわたることを想定し、新しい挑戦に積極的に取り組むマインドが重視される。また、AI・データサイエンスによって社会課題を解決する実践力をもつ人材を養成するため、社会課題に高い感度を持つ学生を受入れる方針をとる。この観点では、社会経験を有する学生の受入れを積極的に行う。

本研究科は、次のような入学者選抜を行う。

書類審査、筆記試験、面接試験を総合して選抜を行う。そのうち、書類審査は入学希望者から提出される履歴書、大学での成績証明書、エッセイにより行い、筆記試験は数学・統計学・プログラミング・英語の基礎的素養と未知の問題を解決する応用力を問う「総合問題」を出題する。書類審査及び筆記試験により、第1段階選抜を行い、第1段階選抜合格者に対する面接試験によって最終的な合格者を選抜する。なお、本研究科の入学者受入れの方針は**資料 10**のとおりである。

○社会人の受入れ方策等

社会人を積極的に受入れるため、平日 18:30 開始の授業と土曜日の授業を中心にして開講し、これらの時限に開講されている科目を履修することで修了できるカリキュラム設計を行っている。また、修士論文作成に代えて特定の課題についての研究成果の審査を受けることで修了要件を満たすことができ、社会人が働きながら学位取得を目指せる仕組みを導入している。具体的には、土曜日に開講される「プロジェクトチーム実習Ⅰ」及び「プロジェクトチーム実習Ⅱ」を受講し、「プロジェクトチーム実習Ⅱ」の終了時に研究開発プロジェクト報告書を提出することで、研究成果の審査を受けることができる。

なお、本研究科では、企業等で働きながら学位取得を目指している者を社会人学生と定義する。

⑩「大学院設置基準」第2条の2又は第14条による教育方法の実施

○昼夜開講（大学院設置基準第14条特例）

本研究科では、大学院設置基準第14条特例を活用し、昼夜開講制を採る。

ア 修業年限

全ての学生において標準修業年限の2年とし、例外は設けない。

イ 履修指導及び研究指導の方法

社会人学生に限らず、全ての学生が同じ時間割で学修するため、⑥に記載のとおりである。

ウ 授業の実施方法

社会人学生に限らず、全ての学生が同じ時間割で学修するため、⑥に記載のとおりである。

エ 教員の負担の程度

本研究科は独立研究科として設置するため、運営において一定の独立性を確保し、カリキュラム等で独自の運営ができる仕組みとなっている。また、教員9名の全てが、本研究科の運営業務、研究指導、科目担当等を主務とすることになっているため、教育研究活動に支障をきたすことはない。

オ 図書館・情報処理施設等の利用方法や学生の厚生に対する配慮、必要な職員の配置

池袋図書館は、夏季休暇期間、入学試験実施期間等を除いて、最長で22:30まで開館していることから、社会人学生に対する利便性も確保できている。また、夜間対応に必要な職員の配置を行うため、既存の独立研究科（昼夜開講制）の事務を担う部署が、実績を活かしながら本研究科の事務を担うこととする。

カ 入学者選抜の概要（⑨参照）

⑪管理運営

○教学面における管理運営の体制（研究科委員会の役割、構成員、開催頻度の予定、審議事項等）

本学では、研究科の場合は、大学院学則第 18 条第 1 項の規定に基づき、研究科委員会を置くこととしている。また、同条第 4 項の規定に基づき、研究科委員会の構成及び運営に関わる事項については、教授会規程を準用している。

本研究科においても、上記規程に基づき、研究科委員会を設置する。構成員等は表のとおりである。なお、開催頻度については、隔週を予定している。

	根拠規程	内容
構成員	大学院学則第 18 条第 1 項本文	授業及び研究指導担当の専任教員
	大学院学則第 18 条第 2 項	特別任用教員及び助教（研究科委員長の要請による）
審議事項	大学院学則第 18 条第 1 項各号	(1) 研究科委員長及び大学院委員会委員の選出並びに担当教員の人事に関する事項 (2) 入学試験、学位論文の審査及び最終試験に関する事項 (3) 教育課程、入学、休学、復学、再入学、退学及び除籍に関する事項 (4) 学生の賞罰に関する事項 (5) その他研究科に関する事項 (6) 総長の諮問事項

また、本学では、全ての学部長（研究科委員長は一部）が構成員となっている複数の全学的な合議体を設置している。本研究科委員長についても、各種規程に基づき、当該合議体の構成員となる（以下は主なものを抜粋）。

・大学院委員会

「立教大学大学院委員会規程」（以下「大学院委員会規程」という。）第 1 条及び第 7 条の規定に基づき、学位の授与に関する事項など、本学大学院の教育研究の重要事項に関する事項を審議する。「大学院委員会」は、大学院委員会規程第 2 条の規定に基づき、全ての研究科の長が出席する。

・教育改革推進会議

「立教大学教育改革推進会議規程」第 1 条及び第 7 条の規定に基づき、学士課程教育及び大学院教育の改善を図り、その充実と高度化を推進するため、教育内容及び教育方法の改善に関する事項等を審議する。同規程第 2 条第 3 号の規定に基づき、総長が推進責任者（2019 年度は教学運営・キャンパス連携担当副総長）を指名するとともに、各学部長、各研究科委員長及び「大学教育開発・支援センター長」を構成員としている。

・国際化推進会議

「立教大学国際化推進会議規程」第 1 条及び第 7 条の規定に基づき、国際化の推進を図り、その充実と高度化を推進するため、大学並びに学部及び研究科の国際化推進等を審議する。同規程第 2 条第 3 号の規定に基づき、総長が推進責任者（2019 年度は国際化推進担当副総長）を指名するとともに、各学部長、各研究科委員長等を構成員としている。

・自己点検・評価運営委員会

「立教大学自己点検・評価規程」第 3 条第 1 項の規定に基づき、自己点検・評価を行う際の基本的枠組みを決定し、自己点検・評価活動の全体を運営・調整する。同規程第 6 条第 1 項の規定に基づき、総

長が委員長（2019年度は教学運営・大学院担当副総長）及び副委員長（2019年度は教学運営・キャンパス連携担当副総長）を任命するとともに、同規程第4条の規定に基づき、各学部長、各研究科委員長など、同規程第2条に規定される組織の長を構成員としている。

○研究科委員会以外の会議体の役割

・入試作問委員会

入試における筆記試験問題の作問・点検・採点を担当する数名の委員によって構成される。

・FD委員会

立教大学ファカルティ・ディベロップメントに関する規程に基づき、本研究科の個々の教員及び教員組織としての様々な活動全般に関わる能力の開発等を行う。

・自己点検・評価委員会

研究科委員会の全構成員によって構成される委員会で、研究科に在籍する教員のFDについての企画、自己点検・評価を行う。

・研究倫理委員会

AI やデータサイエンスに関する教育研究においては、倫理や法律上の問題が発生することが予想され、また、社会受容性という点でも検討が必要な場合がある。本学では軍事利用に供するような教育研究は実施しないことを確認しているが、研究科内に研究倫理委員会を設置し、改めて研究内容の点検を行うとともに、同委員会はFD活動にも積極的に貢献する。また、後述のとおり、外部評価委員会を設置し、同委員会の意見や提言を踏まえてFD活動に生かす。

○その他

本研究科は独立研究科として設置するため、運営において一定の独立性を確保し、カリキュラム等で独自の運営ができる仕組みとなっている。また、教員9名の全てが、本研究科の運営業務、研究指導、科目担当等を主務とすることになっている。

⑫自己点検・評価

本学では、1993年に「立教大学自己点検・評価規程」を制定及び施行し、自己点検・評価活動を行っている。本学の自己点検・評価の目的は、「本学における教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成する」（同規程第1条）ことにある。

自己点検・評価の組織、手続き、権限等は同規程に定めている。自己点検・評価を実施する組織は、同規程第2条に基づき、「自己点検・評価を行う際の基本的枠組みを決定し、全体を運営・調整する」ことを任務とする「自己点検・評価運営委員会」（以下「運営委員会」という。）及び学部、研究科等に置かれ各組織の活動の自己点検・評価を行う「自己点検・評価委員会」（以下「点検・評価委員会」という。）である。

運営委員会の構成は、同規程第4条の規定に基づき、委員長（総長指名により、2019年度は教学運営・大学院担当副総長が委員長を兼ねている。）、副委員長及び点検・評価委員会の長としている。従って、全ての学部及び研究科の長が各自己点検・評価委員会委員長として、運営委員会に出席していることになる。

全学的な自己点検・評価活動として、運営委員会を同規程第5条第1項の規定に基づき、年に2回以上開催している。原則として、前期には当該年度の活動方針の確認、前年度の学部等の自己点検・評価結果のまとめ、自己点検・評価活動方法の確認及び毎年度数値を蓄積している大学基礎データと認証評価機関（公益財団法人大学基準協会）から示されている定量的な基盤評価の水準（入学定員に対する入

学者比率、大学設置基準等による必要専任教員数等)の比較等を行い、後期には大学機関別認証評価で指摘を受けた事項に係る進捗状況の確認、諮問委員会(外部評価委員会)から指摘を受けた事項に係る進捗状況の報告、当該年度の自己点検・評価報告書の作成依頼を行っている。

学部、研究科等に置かれる点検・評価委員会の自己点検・評価活動のうち、学部及び研究科においては、同規程第9条の規定等に基づき、点検・評価活動を行い、毎年度「自己点検・評価報告書」を作成するとともに、運営委員会において全学で共有している。本研究科についても、上記の全学の仕組みに基づいて、自己点検・評価を行うこととする。加えて、研究科の質の向上や研究科に対する社会の負託に応えるべく、外部の研究者や企業等の有識者に研究科の方向性や教育・研究活動らについて評価いただく外部評価委員会の設置を検討している。

なお、大学機関別認証評価の評価結果、諮問委員会の記録(日英)については、大学HPで公表している(<http://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/evaluation/>)。

⑬情報の公表

○教育研究活動等の状況に関する情報の公表についての内容(公表の方針や考え方を含む。)及び方法

本学は、学校教育法施行規則第172条の2の規定に基づき、多様なステークホルダーに対し、以下のとおり、大学の基本的情報を「教育情報」及び「経営・財務情報」に分け、透明度の高い情報公開に努めている。

○教育情報(該当HPのアドレスについては表参照)

ア 大学の教育研究上の目的等に関する情報

<http://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/>

教育研究上の目的を、「立教大学学則」、「立教大学大学院学則」及び「立教大学専門職大学院学則」(以下「学則等」という。)に明示しているとともに、HP上で公開している。

イ 教育研究上の基本組織に関する情報

<http://www.rikkyo.ac.jp/about/introduction/organization/>

学部、学科、専修、課程、研究科及び専攻等の名称等をHPで公開している。

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する情報

<http://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/qo9edr00000081kh-att/qo9edr000000b49d.pdf>

<http://univdb.rikkyo.ac.jp/search?m=home&l=ja>

学部学科(専修)ごと、研究科(専攻)ごとの教員組織と教員数をHPで公開している。また、教員が有する学位と業績については、「立教大学研究者情報」としてHPで公開している。

エ 入学者数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数 その他進学及び就職等の状況に関する情報

http://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/evaluation/qo9edr0000007zn5-att/02_student.pdf

<http://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/career/>

入学者数、収容定員、在学者数、卒業者数及び修了者数をHPで公開している。また、進学者数、(企業別)就職者数、その他進学及び就職等の状況については、「就職・進学状況」としてHPで公開しているとともに、学部ごとに、決定者の多い上位30企業を併せて公開している。

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報

http://ry.rikkyo.ac.jp/yoko/2019_1.html

<https://sy.rikkyo.ac.jp/timetable/stop.do>

カリキュラムのしくみ、履修規定、履修登録等について記載された履修要項については、冊子を学部生、大学院生に配布するとともに、HP で公開している。また、授業の目標、授業内容、授業計画等については、「シラバス」として HP で公開している。

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報

http://ry.rikkyo.ac.jp/yoko/2019_1.html

成績評価についての統一的基準及び卒業又は修了認定基準について、上記履修要項に明示している。

キ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する情報

<http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/>

池袋及び新座の両キャンパスの紹介、図書館、学生食堂、診療所・保健室等の施設等については、「キャンパス案内」として HP で公開している。

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する情報

<http://www.rikkyo.ac.jp/admissions/fees/>

<http://www.rikkyo.ac.jp/admissions/brochure/>

費用に関する情報については、学則等に規定するとともに、大学案内、大学院案内及び HP で公開しているほか、在学生の保証人へは別途郵送している。

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する情報

<http://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/career/>

<http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/>

就職及び進路支援については「キャリアセンター」、奨学金支援については学生部、留学生支援については「国際センター」、学習支援については図書館、修学上及び人間関係等の相談については「学生相談所」並びにしょうがい者支援（発達障害を含む。）については「しょうがい学生支援室」が実施しており、HP で支援情報を公開している。また、学生及び教職員向けに、学生支援関係の情報を網羅した冊子を毎年度配布するとともに、これについても HP で閲覧可能にしている。

コ その他（認証評価の結果等）

<http://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/evaluation/>

認証評価結果、外部評価結果等について、HP で公開している。

○経営・財務情報 (<https://www.rikkyogakuin.jp/disclosure/reports.html>)

・事業計画書・報告書

事業計画書及び事業報告書については、法人本部、大学、中学校、高等学校及び小学校を包含して法人 HP で公開している。

・財務情報

事業活動収支計算書、資金収支計算書、活動区分資金収支計算書及び貸借対照表については、HP で公開しているほか、保護者向けに年 4 回郵送している雑誌「立教」にも各年度の予算及び決算を掲載している。

⑭教育内容等の改善のための組織的な研修等

○授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に関する計画

（大学全体）

本学では、「立教大学ファカルティ・ディベロップメントに関する規程（以下「FD 規程」という。）」を策定し、これに基づき FD 活動を行っている。また、毎年度、各学部及び研究科等は、教育改革推進会

議推進責任者（2019年度は教学運営・キャンパス連携担当副総長）からの依頼に基づいて「FD展開状況報告書」を作成するとともに、FD規程第6条の規定に基づき、同会議に報告している。

また、各学部及び各研究科における「自己点検・評価委員会」において、教育成果に係る定期的な検証を行っており、それらの検証結果を「自己点検・評価報告書」としてとりまとめ、「自己点検・評価運営委員会」において、全学で共有している。

・大学教育開発・支援センターが行う「学生による授業評価アンケート」等

「大学教育開発・支援センター」が「学生による授業評価アンケート」を、毎年度全学部を対象に実施している。2010年度より3年に1度「1教員1科目実施」とし、他の年度は「各学部の方針による実施」と方針を定めて行っている。同センターが結果を集計して得られたデータは、個々の教員にとっての授業改善のデータとしてだけではなく、集計結果及びデータを学部を提供することにより、教員同士の相互研修、カリキュラムの有効性測定、教育力向上等のための必要な方策として活用されているとともに、当該アンケートに係る実施概要、学部等の総評をまとめたものを「報告書」として大学HPに掲載している。

また、2006年度から総長直下に設置されていた「教育調査の検討グループ」による調査活動については、2012年度より、同センター教学IR部に引き継がれ、表のような調査及び分析結果を学内の全学的な委員会（「教育改革推進会議」、「入試委員会」等）に報告している。

①	入学時アンケート（2010～2012年度）
②	2年次生学習・学生生活アンケート（2012年度）
③	卒業時アンケート（2007年度以降毎年度）
④	英語プレースメントテスト分析（2005年度以降毎年度）
⑤	成績追跡調査（2006年度以降毎年度）
⑥	併願校調査
⑦	学修状況調査 （2015年度及び2016年度入学者に対して、卒業までに5回実施予定）

さらに、2011年度より上記の調査を学生番号記入方式に変更することで、個々の学生の実態を把握した上で他のデータと突合せることが可能となり、その調査結果を順次学内に報告している。例えば、2011年度入学者に関して、複数の調査データを突合し、「学位授与の方針」の達成状況を追跡する等の分析を行い、その結果を随時全学で共有した。

これらの調査結果は、「教育改革推進会議」に報告され、教育力向上に向けた大学全体の施策検討のためのデータとして活用されると同時に、各学部及び事務部局における今後の施策策定の基礎データとしても活用されている。その他全学的には当該調査結果を活用しつつ、カリキュラム改革の議論が進み、2016年度からは、「学位授与の方針」の達成を意識した「RIKKYO Learning Style」（学士課程統合カリキュラム）を開始した。

（人工知能科学研究科）

多様な学問的バックグラウンドを持つ学生を受入れて、人工知能及びデータサイエンスの教育を行うため、非専門家の視点からの授業内容の確認が重要となる。講義内容や演習内容を教員の間で共有し、専門分野外の授業についても、わかりやすさや明快さなどを確認する。

また、学部の授業に対して実施されている授業評価アンケートによる学生からのフィードバックと同様の仕組みを導入し、受講生の意見を適切に反映することを行う。

人工知能分野は日進月歩の極めて進展の早い分野であり、授業内容を継続的に見直し、改訂する必要がある。そのような意識を教員間で共有し、授業内容の改善に取り組む。

人工知能の社会実装においては、データプライバシーの問題をはじめとする倫理問題に直面することが想定される。また、企業における研究開発倫理と、大学におけるそれとは、異なる側面があり、産学の緊密な連携をはかる本研究科では注意すべきポイントとなる。教育・研究指導を担当する教員が、研修などを通して、倫理問題・法的問題を十分に理解する機会をつくる。

○職員に必要な知識・技能の習得並びに必要な能力及び資質を向上させる研修等

本学では、「大学教育開発・支援センター」、人事課等が、教育改善に必要な知識及び技能を習得させ、その能力及び資質を向上させる等の目的で、シンポジウム及び研修を開催している。特に、「大学教育開発・支援センター」が開催しているシンポジウムでは、参加対象を全教職員（事務職員を含む。）としており、著名な研究者を招聘してその時々的高等教育に係る課題を扱うとともに、毎回小冊子（「大学教育開発研究シリーズ」）を刊行している。

また、大学設置基準等の一部を改正する省令（平成 28 年文部科学省令第 18 号）が 2017 年 4 月 1 日から施行され、「大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会」を設けること等が求められることを踏まえ、2016 年 7 月に「立教大学における SD の実施方針・計画」を制定した。これは、法人として既に定めている「職員の育成方針」を踏まえ、大学版としてまとめ直したものである。

上記「立教大学における SD の実施方針・計画」の「SD の実施計画」では、本学が行う研修を、①人事が行う研修、②各組織が行う研修及び③職員各自が行う研修の 3 つに大別した。このうち、①については従前より法人人事部が毎年実施しており、内定者研修、新入職員研修、4 級職研修等の「資格等級別研修」（昇格要件となる研修）、管理職研修等の「職位別研修」、職員海外語学研修等の「目的別研修」の 3 つに分けられる。また、2014 年度からは「資格等級別研修」に「短期海外視察研修」を新たに追加した。当該研修は、学内における事前学習（学校実務英語）、国内留学プログラム（国際大学での合宿型研修）、海外大学視察、事後研修等を行うものであり、2014 年度は米国、2015 年度は英国、2017 年度及び 2018 年度は米国を視察先とした（2016 年度は最少催行人数に達しなかったため未実施）。

②については、各組織の業務に即した職遂行能力及び職務姿勢を習得するために実施するものであり、組織別の集合研修、学内外へのプログラム・講習会等への参加等から構成される。

③については、業務に関連した知識・技能習得を目的に実施するものであり、承認された各種研修の参加費用補助や自主勉強会・研修会の実施費用補助が活用できる。補助対象は、各種講習会補助、外国語講習会補助、自主勉協会・研修会補助及び TOEIC 受験料補助の 4 種類である。

なお、2016 年度からは、部署横断的なメンバーにより構成された自発的なプロジェクトチームが、業務改善・業務改革に繋がる問題を解決することを自発的に学ぶ（Rikkyo Cross-functional Active Project (R-CAP)）を開始した。現在は、「改善活動見える化&共有プロジェクト」など、4 つのプロジェクトが動いている。

設置の趣旨等を記載した書類（資料目次）

資料 1	総合科学技術・イノベーション会議パンフレット 2017（P 7～8）	21
資料 2	人工知能科学研究科で養成する人材像	23
資料 3	総合科学技術・イノベーション会議 （2018 年 4 月 5 日（第 38 回）資料 1-4P 2 から引用）	25
資料 4	平成 28 年版情報通信白書第 1 部 P233	27
資料 5	学校法人立教学院就業規則	37
資料 6	履修モデル	43
資料 7	研究指導基本スケジュール	45
資料 8	立教大学研究活動行動規範	47
資料 9	2017 年度立教大学図書館 統計・データ集	51
資料 10	入学者受入れの方針	57

○資料 1 総合科学技術・イノベーション会議パンフレット 2017 (P7~8))

1 書類等の題名

「設置の趣旨等を記載した書類」資料 1

2 出典

内閣府

3 引用範囲

上記パンフレット P 7 ~ P 8

4 その他の説明

社会システムの大幅な変化に人工知能 (AI) が必要である、ということを示すため、上記資料を引用した。

人工知能科学研究科で養成する人材像

養成する人材像

AI プランナー

基礎的なAI関連の知識があり、現在のAI技術の持つ可能性と限界を把握しながら、業務での活用法を企画できる人材。AIの倫理について深い知識を持つ。

AI エンジニア

AI技術を適切に実装でき、実データに対する機械学習の適用ができる人材。AI開発のためのソフトウェア開発の技能を持つ。AIの倫理について深い知識を持つ。

AI サイエнтиスト

先端的なAI技術開発を主導できる人材。機械学習の数理モデルを深く理解し、高度な情報科学や統計学の知識を持つ。AIの倫理、哲学についても深い知識を持つ。
(設置を構想する博士後期課程と合わせて5年間で養成する)

○資料3 人工知能技術戦略実行計画の策定について

1 書類等の題名

「設置の趣旨等を記載した書類」資料3

2 出典

内閣府

3 引用範囲

内閣府総合科学技術・イノベーション会議（平成30年4月5日）資料1－4

<https://www8.cao.go.jp/cstp/siryo/haihui038/siry01-4.pdf>

4 その他の説明

本研究科で育成する人材が、人材需要等社会の要請を踏まえたものである根拠として、上記資料を引用した。

○資料 4 平成 28 年版情報通信白書第 1 部 P233

1 書類等の題名

「設置の趣旨等を記載した書類」資料 4

2 出典

総務省

3 引用範囲

平成 28 年版情報通信白書第 1 部 P233

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h28/pdf/n4200000.pdf>

4 その他の説明

「人工知能」の定義を示すため、上記資料を引用した。

○資料5 学校法人立教学院就業規則

1 書類等の題名

「設置の趣旨等を記載した書類」資料5

2 出典

学校法人立教学院

3 引用範囲

本文中に学校法人立教学院就業規則第20条を引用した。

4 その他の説明

勤務員の定年を示す根拠資料として使用したが、本来、公表している規則ではないため、本文中に記載した第20条以外の部分については、非公表とする。

履修モデル

(注) 太字は必修科目

AIプランナー

AIエンジニア

AIサイエンティスト

1年・前期	Pythonプログラミング	機械学習	データサイエンス概論	人工知能概論
	機械学習演習	社会モデリング演習		
1年・後期	深層学習	AIビジネス特論	先端科学技術の倫理	自然言語処理特論
	社会情報科学概論	意思決定の科学		
2年・前期	人工知能社会実装	人工知能の哲学	認識技術特論	データサイエンス実習
	プロジェクトチーム実習I			
2年・後期	プロジェクトチーム実習II			
1年・前期	情報科学概論	機械学習	データサイエンス概論	人工知能概論
	機械学習演習	輪講I		
1年・後期	深層学習	統計モデリングI	先端科学技術の倫理	自然言語処理特論
	深層学習演習I	輪講II		
2年・前期	人工知能社会実装	統計モデリングII	計算機科学概論	複雑ネットワーク科学
	データサイエンス実習	特別研究III		
2年・後期	修士論文指導演習			
1年・前期	情報科学概論	機械学習	データサイエンス概論	人工知能概論
	機械学習演習	輪講I	特別研究I	
1年・後期	深層学習	統計モデリングI	先端科学技術の倫理	数理科学概論
	深層学習演習I	輪講II	特別研究II	
2年・前期	量子情報特論	統計モデリングII	計算機科学概論	複雑ネットワーク科学
	脳神経科学概論	機械学習演習II	特別研究III	
2年・後期	深層学習演習II	修士論文指導演習		

研究指導基本スケジュール

1年次	4月上旬	入学・ガイダンス	
	4月上旬	特別研究Iの指導教員決定	特別研究Iを履修する場合、原則として入試の際に希望した研究分野に基づき特別研究Iの指導教員が決定する。
	4月上旬	特別研究IIの指導教員決定	特別研究IIを履修する場合、原則として入試の際に希望した研究分野に基づき特別研究IIの指導教員が決定する。
2年次	4月上旬	在校生ガイダンス	
	4月上旬	正指導教員決定	特別研究IIIと修士論文指導演習の指導教員について、2年次への進学時に希望を提出し、その希望と1年次の成績によって正指導教員を決定する。 プロジェクトチーム実習I, IIの指導教員についても同様にして正指導教員を決定する。
	4月上旬	副指導教員決定	専攻会議で副指導教員を決定する。
	1月中旬から論文提出締切まで	修士論文題目の決定	修士論文指導演習を履修する場合、修士論文の題目を決定する。
	1月中旬から報告書提出締切まで	研究開発プロジェクト報告書題目の決定	プロジェクトチーム実習IIを履修する場合、研究開発プロジェクト報告書の題目を決定する。
	2月中旬	修士論文あるいは研究開発プロジェクト報告書の提出	提出された修士論文あるいは研究開発プロジェクト報告書について、審査委員会が審査する。
	2月中旬	最終試験	報告者：修士論文あるいは研究開発プロジェクト報告書提出者全員 参加者：教員・院生 実施形態：報告会形式 内容：修士論文あるいは研究開発プロジェクト報告書の説明（口頭発表）と質疑応答
	2月下旬	合否判定	専攻会議で合否を判定する。
	2月下旬	修了合否判定結果発表	修了合否について発表する。
	3月下旬	大学院学位授与式	修士（人工知能科学）授与

制 定 者	総長
所管責任者	
規程等種別	擬制規程
決 議 日	
改正施行日	

31 立教大学研究活動行動規範

施行 2010年12月16日

改正 2011年 4月 1日

(前文)

立教大学（以下「本学」という。）は、建学の精神に基づき、研究者の自由な研究と自治を保障する一方、学術研究に対する社会からの信頼と負託に応える使命を持つ。本学は、日本学術会議声明「科学者の行動規範」（平成18年10月3日）に準拠し、本学において研究活動を行う全ての者（以下「研究者」という。）及びこれを支援する全ての者が遵守すべき行動規範を定め、本学の学術研究が社会からの信頼と尊敬を得るべく、いかなる努力も惜しまないことを宣言する。

(目的)

第 1 条 この行動規範は、本学において研究者が、主体的かつ自律的に学術研究に取り組む際に求められる基本的な事項を定めることにより、本学の学術研究の信頼性及び公正性の確保並びに研究者の適正かつ円滑な研究の遂行を図ることを目的とする。

(研究者の責任)

第 2 条 研究者は、自ら生み出す専門知識や技術の質を担保する責任を有し、更に自らの専門知識、技術、経験を活かして、人類の健康と福祉、社会の安全と安寧、そして地球環境の持続性に貢献するという責任を有する。

(研究者の行動)

第 3 条 研究者は、学術研究の自主性・自律性が社会からの信頼と負託の上に成り立つことを自覚し、常に正直、誠実に判断し、行動する。また、学術研究によって生み出される知の正確さや正当性を、社会に示す最善の努力をすると共に、研究者相互の評価に積極的に参加する。

(自己研鑽)

第 4 条 研究者は、自らの専門知識、能力及び技芸の維持向上に努めると共に、学術と社会・自然環境の関係を広い視野から理解し、常に最善の判断と姿勢を示すように弛まず努力する。

(説明と公開)

第 5 条 研究者は、自らが携わる研究の意義と役割を公開して積極的に説明し、その研究が人間、社会、環境に及ぼし得る影響や起こし得る変化を評価し、その結果を中立性・客観性をもって公表すると共に、社会との建設的な対話を築くように努める。

2 前項について、知的財産権取得や他者の権利保護等、合理的な理由により、公表に制約がある場合は、この限りでない。

(法令等の遵守)

第 6 条 研究者は、研究の実施等に当たっては、法令及び関係規則並びにこの行動規範及び本学の諸規程を遵守する。

(研究費の取扱い)

第 7 条 研究者は、研究費の使用に当たっては、法令及び本学の諸規程等を遵守し、これを適正に使用する。また、研究費の源泉が、公的資金、財団や企業等からの助成金、共同研究費、寄附金、学生生徒等納付金等によって賄われていることを常に留意し、研究費を最も効果的かつ効率的な方法で使用するよう努める。

(公正性)

第 8 条 研究者は、自らの研究の立案、計画、申請、実施、発表等の過程において、この行動規範の趣旨に沿って誠実に行動する。研究・調査データの記録保存や厳正な取扱いを徹底し、ねつ造、改ざん、盗用などの不正行為を為さず、また加担しない。

2 研究成果の発表に当たっては、当該研究活動に実質的に関与し、研究内容・結果に責任を有する者のみを著者又は発表者とする。

3 他者の不正行為に関する苦情及び相談を受けた場合又は不正行為に気付いた場合は、速やかに本学の諸規程等によって定められた手続きを行う。

4 研究者は、責任ある研究の実施と不正行為の防止を可能にする公正な環境の確立・維持も自らの重要な責務であることを自覚し、研究者コミュニティ及び自らの所属組織の研究環境の質的向上に積極的に取り組む。また、これを達成するために社会の理解と協力が得られるよう努める。

(研究対象等の尊重)

第 9 条 研究者は、生命及び個人の尊厳を重んじ、基本的人権を尊重する。研究者が、人の行動、環境、心身等に関する個人の情報、データ等の提供を受けて研究を行う場合には研究への協力者に対してその目的、収集方法、個人情報取扱い等について分かり易く説明し、協力者の同意を得る。また、実験動物等は、動物福祉に配慮し真摯な態度でこれを扱う。

(個人情報の保護)

第 10 条 研究者は、プライバシー保護の重要性に鑑み、研究のために収集した資料、情報、データ等で個人を特定できるものは、これを他に漏らさない。ただし、本人の同意がある場合は、この限りでない。

(他者との関係)

第 11 条 研究者は、他者の知的成果などの業績を正に評価するとともに、自らの研究に対する批判には謙虚に耳を傾け、誠実な態度で意見を交える。また、他者の名誉や知的財産権を尊重するとともに、職務上知り得た他者の成果、知的財産権等に関して守秘義務を要するものは、これを遵守する。

(差別・ハラスメントの排除)

第 12 条 研究者は、研究活動において起こりうるあらゆる形態の差別及びハラスメントを起こさない。また、立場や権限を利用して、その指示・指導等を受ける者に研究への支援や協力を強いる等の不当な行為を行わない。

(環境・安全への配慮)

第 13 条 研究者は、実験等に用いる施設、設備、装置、放射性同位元素、外来生物、遺伝子組換え生物、薬品等を取り扱う場合には、法令及び関係規則並びに本学の諸規程等を遵守し、研究に従事する者、その他の本学構成員及び学外者並びに生物及び環境に対し、いかなる危険を及ぼすこともないよう、その安全管理に万全を尽くす。また、研究で用いた廃液、薬品、材料等は、法令を遵守の上、環境に害を与えないよう責任をもって処理する。

(利益相反の防止)

第 14 条 研究者は、研究活動における社会連携活動を行うに当たり、利益相反行為を未然に防ぐ最大限の配慮及び客観的に必要とされる合理的な努力をする。

(承認を受ける義務)

第15条 研究者は、本学の諸規程において、研究の実施に先立って承認を受けるものとされている場合には、当該諸規程等によって定められた手続きによって承認を受ける。

2 前項のほか、法令又は当該分野の学会の規程等において、研究の実施に先立って承認を受けるものとされている場合には、当該法令又は規程等で定められた手続きによって承認を受ける。

(研究を支援する者の責務)

第16条 本学において研究者の研究活動を支援する者全ての者は、この行動規範に反する行為を為さず、また、不正行為の防止を行い、この行動規範に沿った研究活動の支援と研究環境の整備に努める。

(大学の責務)

第17条 本学は、この行動規範の運用を実効あるものにするとともに、研究者の研究倫理意識を高揚するために、必要な啓発、倫理教育の計画を策定し、実施する。

2 本学は、研究者の研究倫理に反する行為に対しては適切な措置を講じる。

3 本学は、研究に関して、不当又は不公正な扱いを受けた者からの相談、苦情等に対応する。

4 本学は、本学の研究活動における倫理上及び安全管理上整備すべき事項について、必要な措置を講じる。

5 本学は、研究者が研究活動を行う上で、遵守すべき行動規範について必要な制度等の整備及び改善を、継続して実施する。

6 前5項の目的を達成するため、立教大学研究活動行動規範マネジメント委員会を設置する。

7 立教大学研究活動行動規範マネジメント委員会に関する事項は別に定める。

(事務)

第18条 この行動規範に関する事務は、リサーチ・イニシアティブセンターが行う。

(改廃)

第19条 この行動規範の改廃は、部長会の議を経て、総長が行う。

附 則

この行動規範は、2010年12月16日から施行する。

附 則

この行動規範は、2011年4月1日から施行する。

<利用者サービス統計>

■ 開館日数

(日)

	2017年度
池袋図書館	327
新座図書館	323

■ 入館者数

(人)

	2017年度		
	入館者数	1日平均	学外者
池袋図書館	1,179,887	3,608	8,741
新座図書館	252,395	781	733
計	1,432,282	—	9,474

■ 館外貸出冊数

(冊)

	2017年度			
	貸出冊数			1日平均
	総冊数	うち 自動貸出装置	うちMyLibrary による延長	
池袋図書館	210,223	86,402	28,018	643
新座図書館	63,379	2,537	7,443	196
新座保存書庫	8,436	189	1,726	—
計	282,038	89,128	37,187	—

※所蔵館に基づいて集計

※視聴覚資料含む

■ 学内他館取寄せ件数

(件)

	2017年度	
	新座図書館・ 新座保存書庫	池袋図書館・ 新座保存書庫
池袋図書館	24,837	-
新座図書館	-	5,587
計	24,837	5,587

■ グループ学習室利用件数

(件)

	2017年度
池袋図書館	8,641
新座図書館	865
計	9,506

■ 複写枚数

(枚)

	2017年度
池袋図書館	480,171
新座図書館	26,269
計	506,440

※マイクロ資料からの複写含む

■ 校友利用証の発行

(件)

	2017年度
池袋図書館	1,495
新座図書館	65
計	1,560

■ 学外相互協力

(1) 学外相互協力

(件)

		2017年度		
		文献複写*	資料貸借*	紹介状
池袋図書館	依頼	467	192	102
	受理	1,563	714	254
新座図書館	依頼	237	20	0
	受理	385	65	6

*「謝絶・キャンセル」除外

(2) 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム利用者

(人)

	2017年度	
	立教大学から	立教大学へ
青山学院大学	207	541
学習院大学	341	700
國學院大學	99	349
東洋大学	242	501
法政大学	153	601
明治大学	399	627
明治学院大学	151	97
計	1,592	3,416

<リテラシー教育>

■ 図書館ガイダンス

2017年度	
春学期 (4月)	新任教員ガイダンス (池袋・新座)
	春学期特別外国人学生ガイダンス
	法務研究科新入生ガイダンス
秋学期 (9月)	秋学期特別外国人学生ガイダンス
	経営学研究科/異文化研究科
	新入生ガイダンス

■ 図書館活用講座

開催回数 88回、参加者数1,934名（池袋81回 1,899名、新座7回 35名）

	2017年度							
	池袋				新座			
レベル	1	2	3	特別編	計	オーダーメイド	観光学部対象	計
回数	15	24	23	19	81	2	5	7
人数	160	429	398	912	1,899	12	23	35

※池袋 活用講座1:図書館見学

活用講座2:図書の探し方と実習

活用講座3:雑誌の探し方と実習

特別編:経済学部・社会学部の授業内情報検索講習会と連携した内容

※新座 オーダーメイド:利用者と相談の上、実施

観光学部対象:ヨミダス歴史館、大宅壮一文庫、日経テレコン21

■ 授業内情報検索講習会

開催回数158回、参加者数 4,702名（池袋128回3,688名、新座30回1,014名）

	2017年度							
	池袋				新座			
レベル	入門	発展	分野別	計	入門	発展	分野別	計
回数	70	26	32	128	21	6	3	30
人数	2,349	473	866	3,688	889	67	58	1,014

※入門編: 立教大学図書館の利用方法とREAD (ディスカバリーサービス) の使い方

発展編: 国内情報データベースを使った情報検索ガイダンス

分野別: 入門編・発展編に当てはまらない、授業の目的に合った形で講習

■ 外部データベース講習会

講習	2017年度							
	池袋				新座			
	【春学期】		【秋学期】		【春学期】		【秋学期】	
	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数
BNC online	1	7	—	—	—	—	—	—
RefWorks相談会	2	22	—	—	—	—	—	—
RefWorksセミナー	2	12	—	—	—	—	—	—
Factiva.com*	2	12	2	8	1	2	1	2
東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー	—	—	2	37	—	—	1	12
eol	—	—	1	21	—	—	—	—
合計	7	53	5	66	1	2	2	14

*図書館留学アワーにて実施

■ ラーニングアドバイザー相談件数

(件)

2017年度													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
池袋	15	27	64	84	—	14	51	23	50	35	—	—	363
新座	24	44	54	88	—	3	45	72	66	58	—	—	454

※2~3月・8月は長期休暇中のためサービスは実施せず

<機関リポジトリ（立教大学学術リポジトリ「立教Roots」）>

■ 機関リポジトリ

(件)

	2017年度
コンテンツ登録数（累積）	14,080
アクセス数（当該年度）	330,870
ダウンロード数（当該年度）	1,371,014

※IRDBコンテンツ分析システム、及び、Wekoログ解析レポートより集計

(件)

博士学位論文	2017年度	
	累積数	年度内処理数
審査結果 / 要旨	159	28
論文全文公開数	106	20
論文の要約公開数	53	8

※コンテンツ登録内数

<所蔵図書資料>

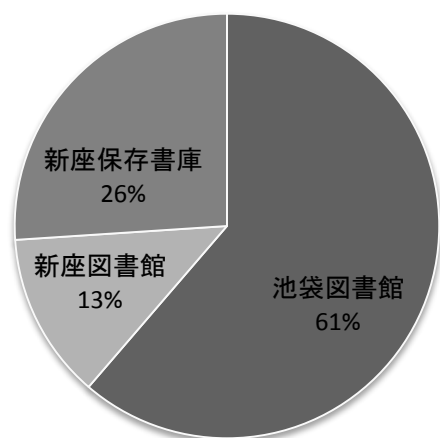
■ 蔵書冊数(視聴覚資料を除く)

(1) 館別

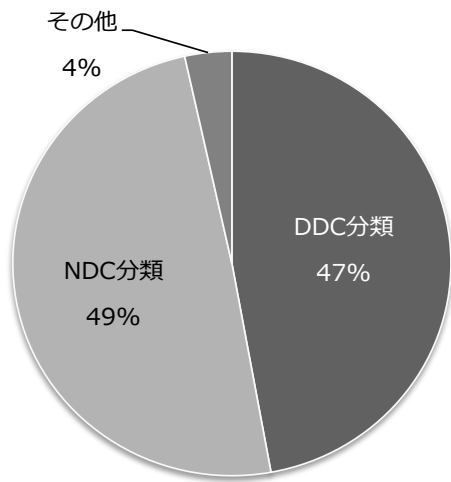
(冊)

	2017年度末
池袋図書館	1,162,277
新座図書館	239,954
新座保存書庫	493,738
計	1,895,969

2017年度

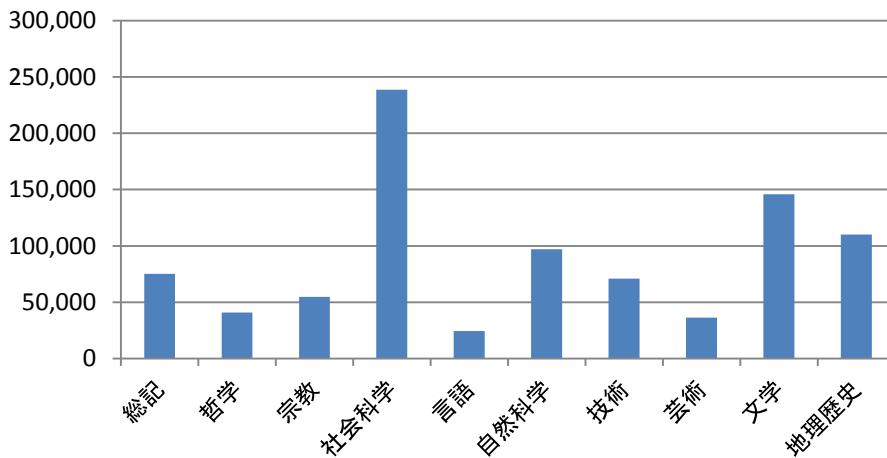


(2) 分類別



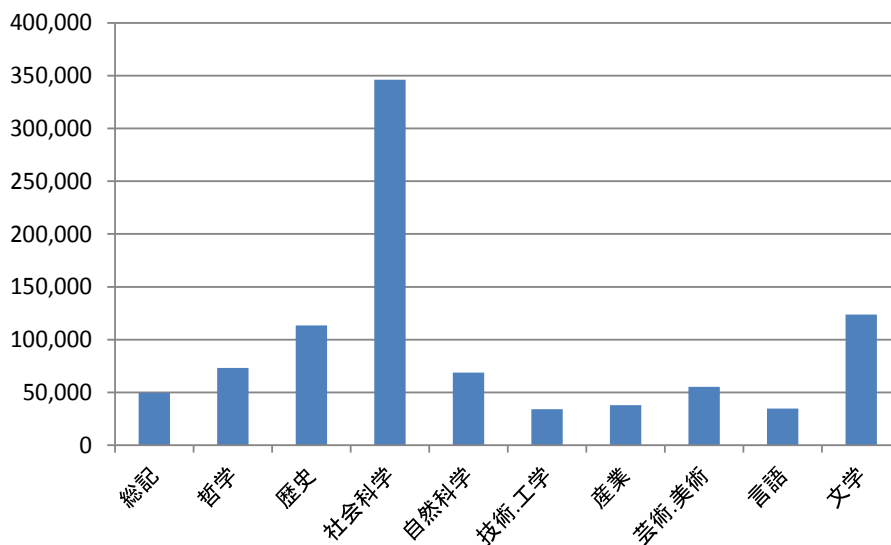
DDC分類内訳

(冊)



NDC分類内訳

(冊)



■ オンライン資料件数

2017年度		
電子ジャーナル	電子書籍	データベース
42,796	23,978	124

※「文科省学術情報基盤実態調査（大学図書館編）」の種別による

■ 年間受入図書資料

2017年度				
	図書* (冊)	雑誌 (種)	新聞 (種)	視聴覚資料 (点)
池袋図書館	22,271	5,077	86	529
新座図書館	5,829	648	30	361
新座保存書庫	104	5	1	0
計	28,204	—	—	890

*製本雑誌含む

<図書館施設>

(2018年5月1日現在)

	用途別面積 (㎡)							総面積	座席数 (席)	所蔵可能冊数 (冊)
	利用者サービスエリア				管理エリア		その他			
	閲覧	視聴覚	情報端末	その他	書庫	事務				
池袋図書館	9,403	111	38	1,320	1,995	444	5,280	18,591	1,538	1,922,028
新座図書館	2,012	145	5	334	566	198	202	3,462	477	291,194
新座保存書庫	28	0	2	0	1,952	92	472	2,546	14	715,160
計	11,443	256	45	1,654	4,513	734	5,954	24,599	2,029	2,928,382

※「文部科学省 学術情報基盤実態調査(大学図書館編)」の算出方式による

※座席数については、上記の他に池袋図書館ラーニング・スクウェアに96席、新座図書館しおり内グループエリアに66席あり

■ 利用者端末台数

(2018年5月1日現在)

	2018年度		
	館内設置*1	貸出用*2	合計
池袋	297	370	667
新座	91	145	236
合計	388	515	903

*1 OPAC, CD-ROMサーバー専用端末除く

*2 メディアセンター管轄(館外利用可)

人工知能科学研究科の入学者受け入れ方針

教育研究上の目的

「理学研究科は、理学部における一般的ならびに専門的教養の上に、理学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与することを目的とする。」

以下は、この目的を前提とした学生の受入れ方針である。

学生の受入れ方針

博士課程前期課程

学士課程教育において修得した専攻分野の基本的知識と学術論文を理解するために必要な英語力があり、人工知能及びデータサイエンスに強い興味を持ち、未踏の領域へ挑戦する積極性を持つ学生を受け入れる。

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

本研究科の入学定員は63名及び収容定員は126名である。入学定員を設定するにあたっては、主に、人材養成に沿った教育研究を可能とする教員配置に適した規模(①)及び本研究科が対象としている研究分野に係る人材需要の動向等の社会からの要請(②)を踏まえたところである。

なお、本研究科に対する興味関心、進学意向等を調査するため、在学生及び卒業生に対してアンケート調査(③)を行い、当該結果をも踏まえた入学定員としている。

(①について)

本研究科では、「設置の趣旨等を記載した書類」及び(2)①に記載のとおり、

- ・基礎科学研究と人工知能研究の協奏によりAI駆動型科学(AI技術によって革新される科学研究)を推進し、自然科学の研究に新展開をもたらすことができる人材
- ・将来的な博士課程の設置を視野に入れ、高度化、複雑化する科学データを駆使し、領域横断的なデータ解析を展開できる研究者
- ・自然科学にとどまらず、人文社会学の分野においても、人工知能技術の応用により研究に新展開をもたらすことができる人材
- ・データサイエンス・人工知能分野の「知の体系」を修得した上で、社会に対する広い視野を持ち、AI技術と社会をつなぐ役割を果たして、様々な社会問題の解決のために貢献できる人材を養成する。

上記の人材養成を行うため、関連する分野の研究者及び関連する産業界において第一線で活躍している教員を配置しているところであるが、想定している人材の養成に必要な当該教員の人数、当該教員が使用する研究室等の施設・設備等を踏まえて設定した。

(②について)

(2)②に記載のとおり、本研究科の教育研究内容は、政府、産業界等から大きな期待を寄せられている分野の一つである。特に、総合科学技術・イノベーション会議資料では、「2020年に約5万人の先端IT人材不足解消を前提とすると、現状の育成規模に追加して1年に約2～3万人の育成が急務」(2018年4月5日(第38回)資料1-4 P2から引用)(資料1)としている。社会からの要請を踏まえ、「IT人材不足解消」の解決に本学が積極的に貢献していくため、他の本学の研究科(修士課程及び博士課程前期課程)と比較すると規模の大きい入学定員を設定した。

(③について)

本研究科に対する受容性を把握するため、受験対象者(在学生(3年次生)及び卒業生)にアンケート調査を行った(資料2)。在学生からの進学意向については前向きな回答が少なかったものの、卒業生については、「ぜひ入学したい」及び「入学したい」と回答した者が393名であった。なお、そのうち、一都三県(東京都、神奈川県、千葉県及び埼玉県)居住者は310名であり、設定した入学定員を大幅に上回っていることから、入学定員を充足する見込みがあるといえる。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

本研究科の設置にあたり、2018年12月10日(月)～2019年1月15日(火)にかけて、2020

年4月（本研究科の設置と同時期）が卒業後1年目にあたる在學生（3年次生）4,654名及び卒業生55,659名を対象にアンケート調査を行った（【再掲】資料2）。

調査の際は、名称、学位、設置時期、設置場所、設置課程、定員、開講形式、学費、研究科の目的、学びの特徴、育成する人材像及び授業科目例を明記した特設HPを見た上で、回答する形式を採用した。

調査項目は、大別すると「回答者プロフィール」（所属学部、卒業学部若しくは修了研究科名、居住地等）、「社会人の学びに関する認識」及び「本研究科に対する評価」（進学意向、教務関心、入学以降の理由等）の3つを設定し、特に、「本研究科に対する評価」の「進学意向」では、入学の意思を明確に確認できるようにするため、「ぜひ入学（進学）したい」及び「入学（進学）したい」の2つの選択肢を用意した。

調査の結果、在學生からは回答が少なく、寄せられた回答は161件であり、そのうち、「ぜひ進学したい」及び「進学したい」と回答したのは12件であった。しかし、卒業生からは1,655件の回答が寄せられ、そのうち、「ぜひ入学したい」と回答した者が229名及び「入学したい」と回答した者が164名であり、合計で393名が入学意向を示した。また、合計393名のうち、一都三県の居住者は310名である。設定した入学定員（63名）を大幅に上回る者からの入学意向が示されており、定員は充足する見込みである。なお、業種別回答を見ると、「情報通信業」及び「運輸業」の20%以上が「ぜひ入学したい」と回答しており、他業種と比較して突出している。

また、本研究科への入学意向について、卒業生全体の14%が「ぜひ入学したい」、10%が「入学したい」と回答したほか、41%が「入学を検討するかもしれない」と回答しており、卒業生全体の65%が進学を検討する意向があることがわかった。本研究科には、卒業生（社会人）が進学意向を強く持っていることが明らかであるため、これらの結果を踏まえ、大学院設置基準第14条特例を活用した昼夜開講制を採ることとし、平日18時30分以降及び土曜に開講する授業科目を中心とする。

さらに、本研究科への興味関心を問うた設問（Q5 あなたはどの程度この新研究科に対して興味を持ちましたか。）では、卒業生全体の30%が「とても興味ある」、43%が「ある程度興味がある」と回答しており、合計で74%が、興味があると回答した。（2）①に記載した人材需要の動向等の社会の要請が、実際に企業で勤務している社会人（卒業生）の意向に反映されている結果であるといえる。なお、業種別回答を見ると、「情報通信業」の44%が「とても興味がある」と回答しており、他業種と比較して突出している。

ウ 学生納付金の設定の考え方

本研究科の学生納付金は、授業料1,350,000円及び教育充実費150,000円の合計1,500,000円である（これに加えて初年度のみ入学金225,000円）。授業料は、国立大学の535,800円、都内私立大学の1,030,000円（慶應義塾大学大学院理工学研究科（2018年度））、960,000円（早稲田大学大学院基幹理工学研究科情報理工・情報通信専攻（2019年度））等と比較すると高価であるが、想定している人材養成を行うため関連分野における研究者及び産業界において第一線で活躍している教員を配置する必要があること、社会人からの需要が高いことを想定し企業派遣学生の入学を想定していること等から、妥当な金額であると判断した。

ただし、今後の入学者の動向等を踏まえ、本研究科学生を対象とした奨学金の設計を検討するとともに、文部科学省の職業実践力育成プログラムへの申請及び厚生労働省の教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）における指定講座に係る申請等の経済支援に向けた取組みの実施について

検討する。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

本研究科の設置を広く社会に公表するとともに、学生確保に資するため、以下のとおり既に広報活動を積極的に行っている。また、2019年5月には、「AI革命において大学が果たすべき役割」と題するシンポジウムを本学池袋キャンパスで開催し、2020年4月に着任予定の本研究科教員が講師として講演するとともに、本研究科の教育研究内容についてPRする予定である。

(HPにおけるプレスリリース)

2019年1月21日(月)に本学HPに「プレスリリース」として、本研究科の目的、4つの特長、研究科データ(設置時期、募集定員、学位、教員数、開講形式等)、輩出する人材のモデル、設置予定科目等を公表した(資料3)。その結果、共同通信PRワイヤーにおける配信ページへのアクセス数が全国3位となったほか、報道各社のネットニュースに掲載されるなど、大きな反響があった。なお、プレスリリース後の個別取材依頼に対応したところ、当該取材内容が記事となった(資料4)。

(記者への説明)

2019年1月21日(月)に、上記に基づき、文部科学省記者クラブにおいて本研究科の説明を行うとともに、経済産業省記者クラブに資料配布を行った。

また、2019年1月31日(木)には、本学が従前より実施している「マスコミ懇談会」(本学の認知度及びブランド価値の向上を目的に、本学の教育研究活動のPR、情報収集、記者との関係構築等を行うもの)の仕組みを活用し、集まった記者等へ本研究科の説明を行った。その結果、34社(84名)に本研究科をPRすることができた。

(本学HP上の特設ページの開設)

2019年1月31日(木)に、本研究科の特設HP(資料5)を開設し(<https://ai.rikkyo.ac.jp/>)、特長である「機械学習・ディープラーニングの本格的な学習」、「社会科学×AI」による革新的な研究と人材育成、「産学連携による「社会実装」プログラムの充実」及び「昼夜間開講形式で、社会人も学びやすい環境」について説明したほか、100社以上の企業とAIテクノロジーを研究する一般社団法人リテールAI研究会代表理事 田中雄策氏からのメッセージを掲載した。なお、この特設ページには、受験生の進学及び入学先の選択に資するため、授業科目一覧を掲載している。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

本研究科は、基礎科学研究と人工知能研究の協奏によりAI駆動型科学(AI技術によって革新される科学研究)を推進し、自然科学の研究に新展開をもたらすことができる人材を輩出する。例えば、本学理学部の学士課程を修めた学生が、数学・物理学・化学・生命理学といった各々の専門性を持ちつつ、本研究科において人工知能によるデータ解析等の技術を併せ持つことで、AI駆動型科学を牽引する人材となることができる。さらに、将来的な博士課程の設置を視野に入れ、高度化、複雑化する科学データを駆使し、領域横断的なデータ解析を展開できる研究者の養成を行う。

また、本研究科は、自然科学にとどまらず、人文社会学の分野においても、人工知能技術の応用により研究に新展開をもたらすことができる人材を輩出することを目指す。例えば社会学や経済学の学士課程を修めた学生が、本研究科に進学して人工知能によるデータ解析等の技術を修得することで、社会学や経済学などの分野で、ビッグデータ時代における社会科学の新時代を切り拓く人材になることができる。

人材養成のもう一つの目標は、データサイエンス・人工知能分野の「知の体系」を修得した上で、社会に対する広い視野を持ち、AI 技術と社会をつなぐ役割を果たして、様々な社会問題の解決のために貢献できる人材を養成することである。特に AI 技術の社会実装を指導的な立場で推進することができる高度専門職業人や、AI 技術をビジネスに結びつけて AI やビッグデータを活用した価値創造ができる人材を養成する。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

総合科学技術・イノベーション会議では、「2020 年に約 5 万人の先端 IT 人材不足解消を前提とすると、現状の育成規模に追加して 1 年に約 2～3 万人の育成が急務」（2018 年 4 月 5 日（第 38 回）資料 1-4P 2 から引用）（【再掲】資料 1）としている。また、未来投資戦略 2018（資料 6）及び統合イノベーション戦略（資料 7）（両者とも 2018 年 6 月 15 日閣議決定）で「大学等における AI 人材供給の拡大」及び「特に取組を強化すべき主要分野」として「AI 技術」が言及されている。

加えて、一般社団法人日本経済団体連合会が公表した「今後のわが国の大学改革のあり方に関する提言－概要版－」（2018 年 6 月 19 日）（資料 8）P3 では、AI、ビッグデータ、ゲノム等の新しい科学技術を、人文社会科学系の知識・専門性（法律、経営、倫理哲学等）を活用して社会実装することが Society 5.0 に繋がるとしている。また、「Society 5.0－ともに創造する未来－」（概要版）（2018 年 11 月 13 日）（資料 9）では、Society 5.0 を世界に先駆けて実現するための「デジタル革新」としての「AI-Ready 化」（AI×データの力を人々が最大限に活用できるよう変革への体制を整える）（P23）及び「Society 5.0 時代に求められる人材」として、「自ら課題を見つけ、AI などを活用してそれを解決できる人材」（P34）が必要であると提言している。

以上のことから、本研究科は、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであるといえる。

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料目次）

資料 1	総合科学技術・イノベーション会議資料 (2018年4月5日(第38回)資料1-4 P2から引用)	5
資料 2	学生の確保の見通しに係る調査結果	7
資料 3	プレスリリース(2019年1月21日(月))	45
資料 4	各種報道	47
資料 5	本研究科特設HP(抜粋)	55
資料 6	未来投資戦略2018(抜粋)	57
資料 7	統合イノベーション戦略(抜粋)	63
資料 8	「今後のわが国の大学改革のあり方に関する提言ー概要版ー」(2018年6月19日)(一般社団法人日本経済団体連合会)	71
資料 9	「Society 5.0ーともに創造する未来ー」(概要版)(2018年11月13日)(一般社団法人日本経済団体連合会)	79

○資料 1 人工知能技術戦略実行計画の策定について

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 1

2 出典

内閣府

3 引用範囲

内閣府総合科学技術・イノベーション会議（平成 30 年 4 月 5 日）資料 1－4

<https://www8.cao.go.jp/cstp/siryo/haihui038/siryo1-4.pdf>

4 その他の説明

本研究科で育成する人材が、人材需要等社会の要請を踏まえたものである根拠として、上記資料を引用した。

立教大学 御中



立教大学大学院受容性調査

調査結果報告書

2019年2月



&D

株式会社アンド・デイ

目次

✓目次	3	• C.【卒業生】社会人の学びに関する認識	33
✓調査概要	4	✓1. 必要性の認識	34
✓提示資料：新研究科コンセプト	5	✓2. 社会人になってからの学び経験	36
✓回答者プロフィール		✓3. 社会人になって学んだ理由	38
• 1. 在校生	6	✓4. 必要性の認識の理由（自由回答より）	40
• 2. 卒業生	8	• D.【卒業生】新研究科評価	41
• 【結果総括】新研究科の受容性	11	✓1. 入学意向	42
✓1. 入学意向者の出現数	12	✓2. 立教が設置することへの評価	44
✓2. 入学意向	13	✓3. 新研究科への興味関心	46
✓3. 立教大学が設置することへの評価・興味関心	14	✓4. 個別魅力評価	49
✓4. 個別魅力評価	15	✓5. 入学意向の理由（自由回答より）	52
✓総括	17	✓6. 新研究科への意見・要望（自由回答より）	53
• A.【在校生】社会人の学びに関する認識	19	• データ集（回答者プロフィール詳細）	55
✓1. 必要性の認識	20	✓1.【在校生】所属学科	56
✓2. 必要性の認識の理由（自由回答より）	21	✓2.【在校生】大学院進学希望者の希望分野	57
• B.【在校生】新研究科評価	23	✓3.【在校生】居住都道府県	58
✓1. 進学意向	24	✓4.【在校生】出身都道府県	59
✓2. 立教が設置することへの評価	25	✓5.【卒業生】卒業・修了年	61
✓3. 興味関心	26	✓6.【卒業生】卒業学科・専攻	62
✓4. 個別魅力評価	27	✓7.【卒業生】居住都道府県	66
✓5. 進学意向の理由（自由回答より）	30	✓8.【卒業生】現在の職業：職種	68
✓6. 新研究科への意見・要望（自由回答より）	31	✓9.【卒業生】現在の職業：雇用形態	69
		✓10.【卒業生】現在の職業：勤め先の主業種	71

調査概要

• 調査目的

✓設置を計画中の新研究科『人工知能科学研究科』について、貴学在校生（3年生）および卒業生における受容性を把握するとともに、募集施策のための知見を得る。

• 調査対象

✓貴学在校生（3年生）

✓貴学学部卒業生、研究科修了生

• 調査方法

✓いずれもweb調査

- 調査ページのURLをメールにて告知、web上で回答

• 調査期間

✓在校生 : 2018年12月10日（月）～ 2019年 1月15日（火）

- 回答締切は、2018年12月25日（火）として告知、終了後も口頭で回答を依頼し、2019年 1月15日（火）までの回答を対象とした。

✓卒業生 : 2018年12月 7日（金）～ 2019年 1月 9日（水）

- 回答締切は、2018年12月25日（火）として告知、2019年1月9日（水）までの回答を対象とした。

• 回収数

✓在校生 : 161件

✓卒業生 : 1,655件

• 調査実施・分析期間

✓株式会社アンド・ディ

提示資料：新研究科コンセプト

人工知能科学研究科、2020年4月誕生。

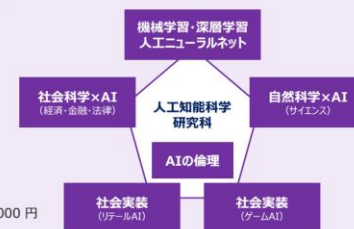
機械学習・ディープラーニングを本格的に学べる初めての大学院。

日本初の人工知能(AI)を冠した人工知能科学研究科は、
文理の垣根を超えたAI・機械学習人材育成に貢献します。

2020年4月設置予定 構想中 ※設置される研究科の名称、募集定員、設置時期などは予定であり、変更の可能性がります。

<基本情報>

- 名称 人工知能科学研究科 人工知能科学専攻
- 学位 修士（人工知能科学）
- 設置時期 2020年4月
- 設置場所 池袋キャンパス
- 設置課程 修士課程
- 定員 入学定員63名
- 開講形式 昼夜間開講<平日18:30以降+土曜日>を中心
- 学費 入学金 225,000円 授業料 1,350,000円 教育充実費 150,000円



<研究科の特徴>

- 新研究科の目的
 - ・AIおよび革新的なビッグデータ解析技術を駆使することで、自然科学・人文社会科学分野に新しい知を創出
 - ・AI・データサイエンスの深奥を極めた人材を社会に輸出することで、超スマート社会（Society5.0）の実現に貢献
- 学びの特徴
 - ・機械学習やディープラーニングなど、AI・データサイエンス分野の「知の体系」を修得
 - ・AIを社会実装する上で重要な科目群が配置され、基礎研究から社会実装までバランス良く学べる
 - ・文理を問わず、幅広く分野横断的な研究を展開
 - ・昼夜土曜開講のため、企業等で働く社会人でも働きながら学べる
 - ・企業でのAIプロジェクトの最前線で現役で活躍している教員による実習指導
 - ・理系学生、文系学生、社会人学生が、相互に刺激を与えながら学ぶ環境を設定

<育成する人材像（想定進路例）>

AIサイエンティスト	AIプランナー
機械学習の数理モデルを深く理解し、高度な情報科学や統計学の知識を持ち、論文から最新のAI技術を実装できる。先端的な機械学習モデル開発を主導できる人材を育成。	基礎的なAI関連の知識があり、現在の技術の持つ可能性と限界を把握しながら、業務活用法を企画できる。ソフトウェア実装を経験し、エンジニアやプログラマーとのコミュニケーションが可能である人材を育成。

AIをキーワードに改革を考える企業種

メーカー、IT、インフラ系、広告、その他ネットサービス系など、業種に限定されず活躍可能

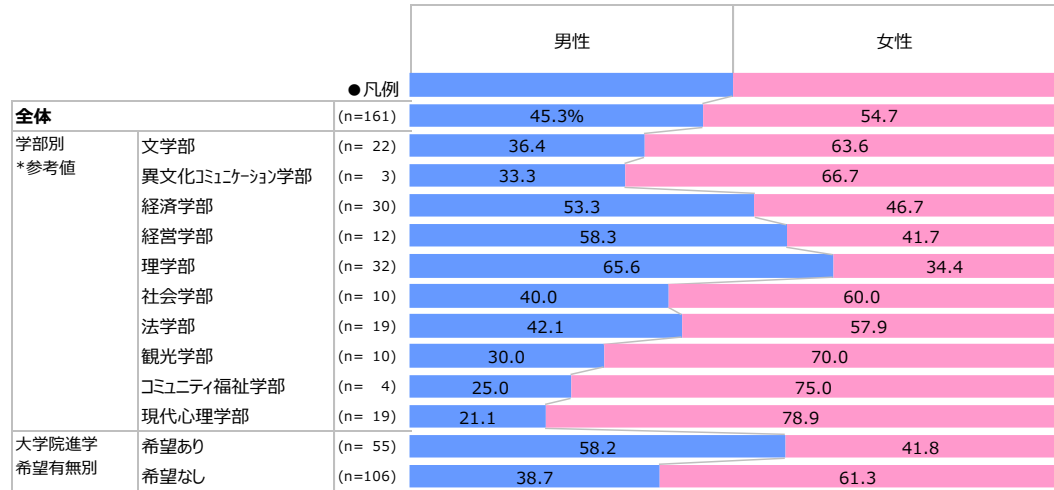
■授業科目例

データサイエンス概論/機械学習/人工知能概論/深層学習/先端科学技術の倫理/統計モデリング/複雑ネットワーク科学/情報科学概論/数理科学概論/社会情報科学概論/意思決定の科学/計算機科学概論/人工知能の哲学/AIビジネス特論/自然言語処理特論/人工知能社会実装/認識技術特論/脳神経科学特論/量子情報特論/Pythonプログラミング/機械学習演習/深層学習演習/社会モデリング演習/データサイエンス実習/プロジェクトチーム実習

回答者プロフィール 1. 在校生

●性別（在校生全体／単一回答）

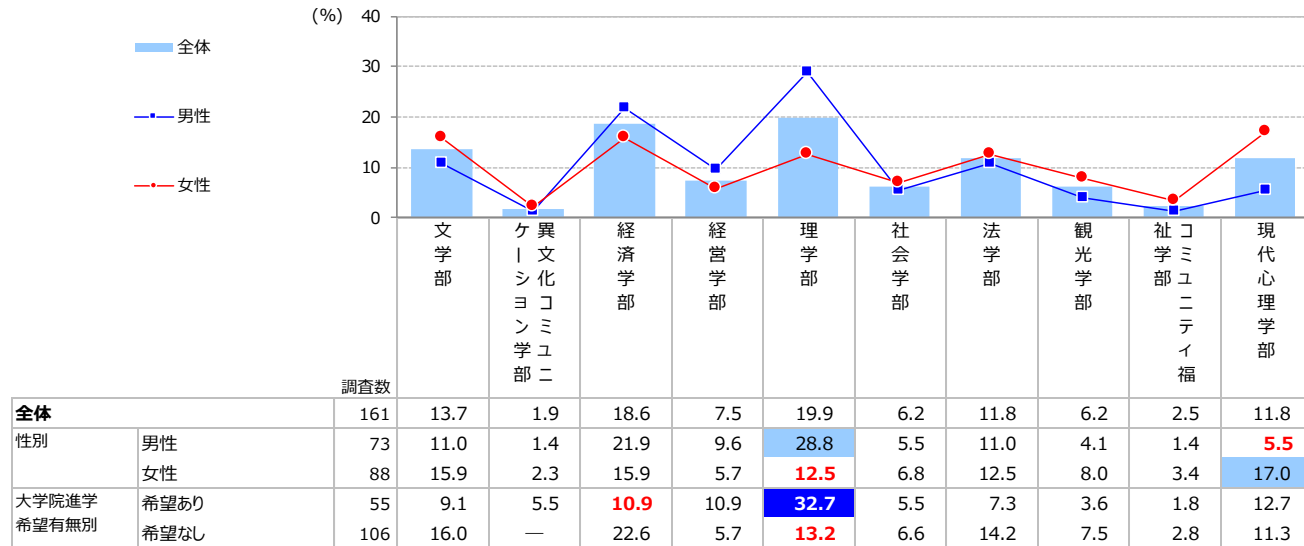
F1 あなたの性別をお知らせください。



S_F1

●所属学部（在校生全体／単一回答）

F2 あなたが所属している学部をお知らせください。

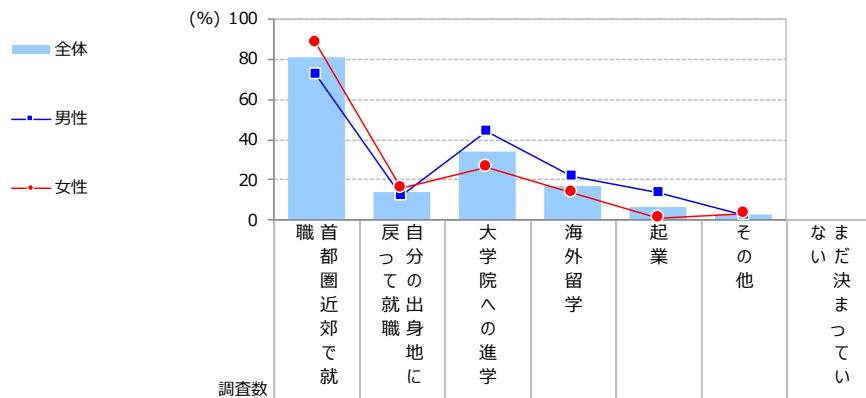


※全体と比較して ■10pt以上高い □5pt以上高い ■-5pt以上低い

S_F2

●希望する進路：希望する進路全て（在校生全体／複数回答）

F6 あなたは立教大学を卒業した後、どのような進路をお考えですか。可能性のあるものをすべてお選びください。そのうち最も希望するものをお選びください。

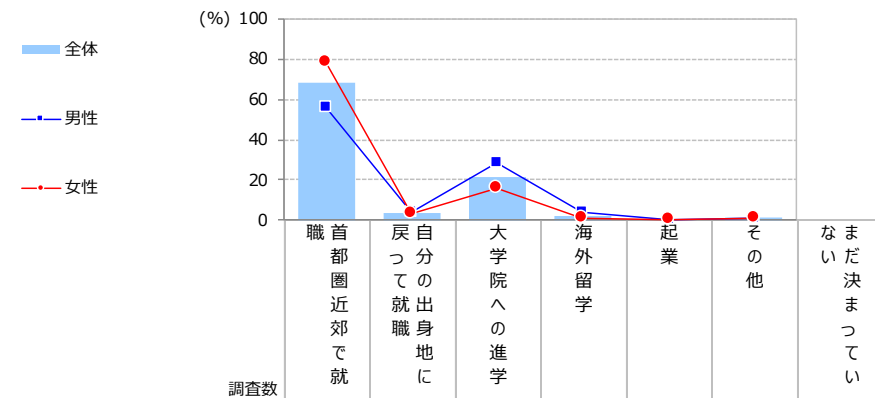


		調査数	職首圏近郊で就	戻った就職先	自分への進学	大学院への進学	海外留学	起業	その他	まだ決まってい
全体		161	80.7	14.3	34.2	17.4	6.8	3.1	2.5	
性別	男性	73	72.6	12.3	43.8	21.9	13.7	2.7	4.1	
	女性	88	87.5	15.9	26.1	13.6	1.1	3.4	1.1	
学部別 *参考値	文学部	22	81.8	4.5	22.7	13.6	4.5	—	4.5	
	異文化コミュニケーション学部	3	33.3	—	100.0	100.0	—	—	—	
	経済学部	30	93.3	10.0	20.0	16.7	13.3	6.7	6.7	
	経営学部	12	91.7	16.7	50.0	33.3	16.7	—	—	
	理学部	32	65.6	15.6	56.3	12.5	3.1	—	3.1	
	社会学部	10	80.0	10.0	30.0	20.0	10.0	10.0	—	
	法学部	19	84.2	26.3	21.1	10.5	5.3	10.5	—	
	観光学部	10	90.0	20.0	20.0	20.0	10.0	—	—	
	コミュニティ福祉学部	4	50.0	50.0	25.0	—	—	—	—	
	現代心理学部	19	84.2	10.5	36.8	15.8	—	—	—	
	大学院進学 希望有無別	希望あり	55	54.5	3.6	100.0	32.7	7.3	1.8	—
希望なし		106	94.3	19.8	—	9.4	6.6	3.8	3.8	

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い S_F6_1

●希望する進路：最も希望する進路（在校生全体／単一回答）

F6 あなたは立教大学を卒業した後、どのような進路をお考えですか。可能性のあるものをすべてお選びください。そのうち最も希望するものをお選びください。



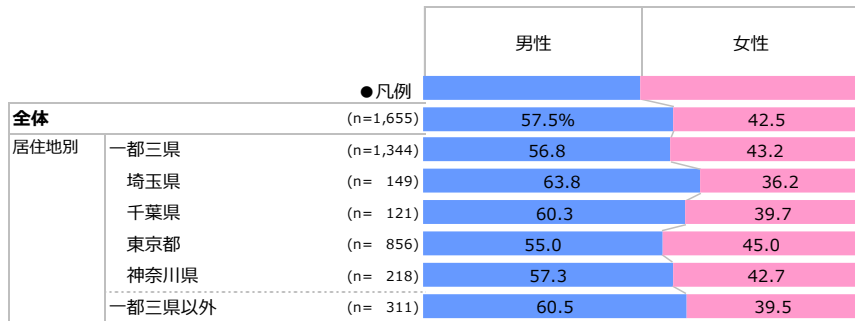
		調査数	職首圏近郊で就	戻った就職先	自分への進学	大学院への進学	海外留学	起業	その他	まだ決まってい
全体		161	68.3	3.7	21.7	2.5	—	1.2	2.5	
性別	男性	73	56.2	4.1	28.8	4.1	—	1.4	5.5	
	女性	88	78.4	3.4	15.9	1.1	—	1.1	—	
学部別 *参考値	文学部	22	86.4	—	13.6	—	—	—	—	
	異文化コミュニケーション学部	3	—	—	66.7	33.3	—	—	—	
	経済学部	30	83.3	—	—	6.7	—	6.7	3.3	
	経営学部	12	75.0	—	16.7	8.3	—	—	—	
	理学部	32	50.0	—	46.9	—	—	—	3.1	
	社会学部	10	80.0	—	20.0	—	—	—	—	
	法学部	19	63.2	15.8	10.5	—	—	—	10.5	
	観光学部	10	70.0	10.0	20.0	—	—	—	—	
	コミュニティ福祉学部	4	50.0	25.0	25.0	—	—	—	—	
	現代心理学部	19	63.2	5.3	31.6	—	—	—	—	
	大学院進学 希望有無別	希望あり	55	30.9	—	61.8	3.6	—	1.8	1.8
希望なし		106	87.7	5.7	0.9	1.9	—	0.9	2.8	

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い S_F6_2

回答者プロフィール 2. 卒業生

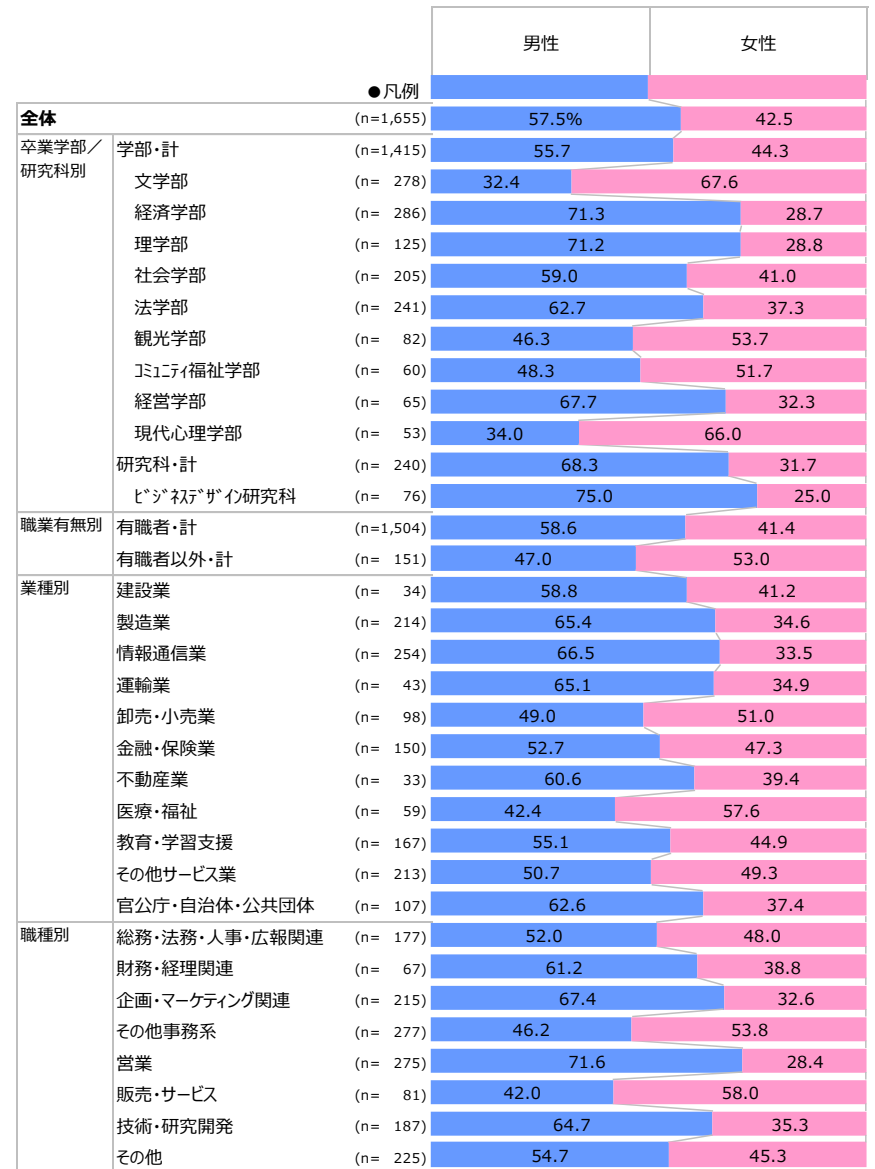
●性別 [基本属性別] (卒業生全体/単一回答)

F1 あなたの性別をお知らせください。



G_F1

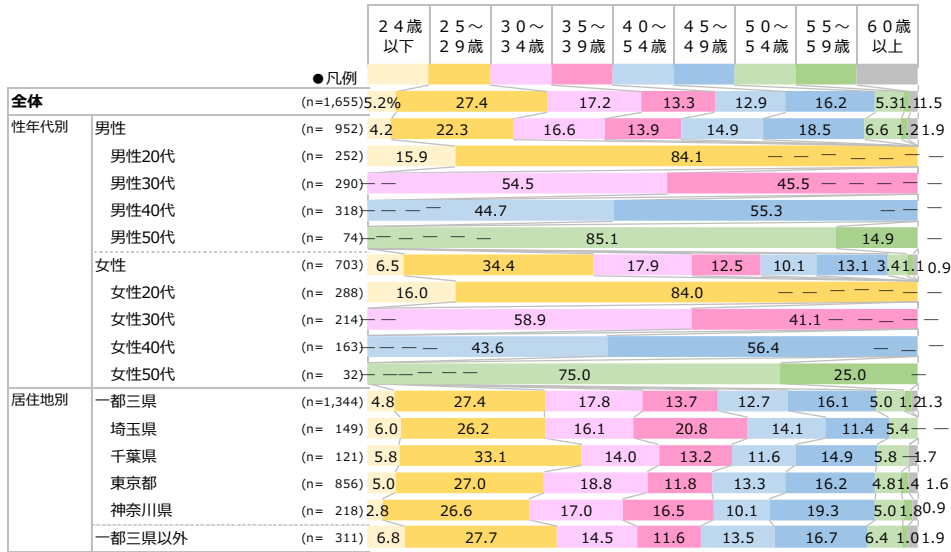
●性別 [卒業学部/研究科別・就業状況別] (卒業生全体/単一回答)



G_F1

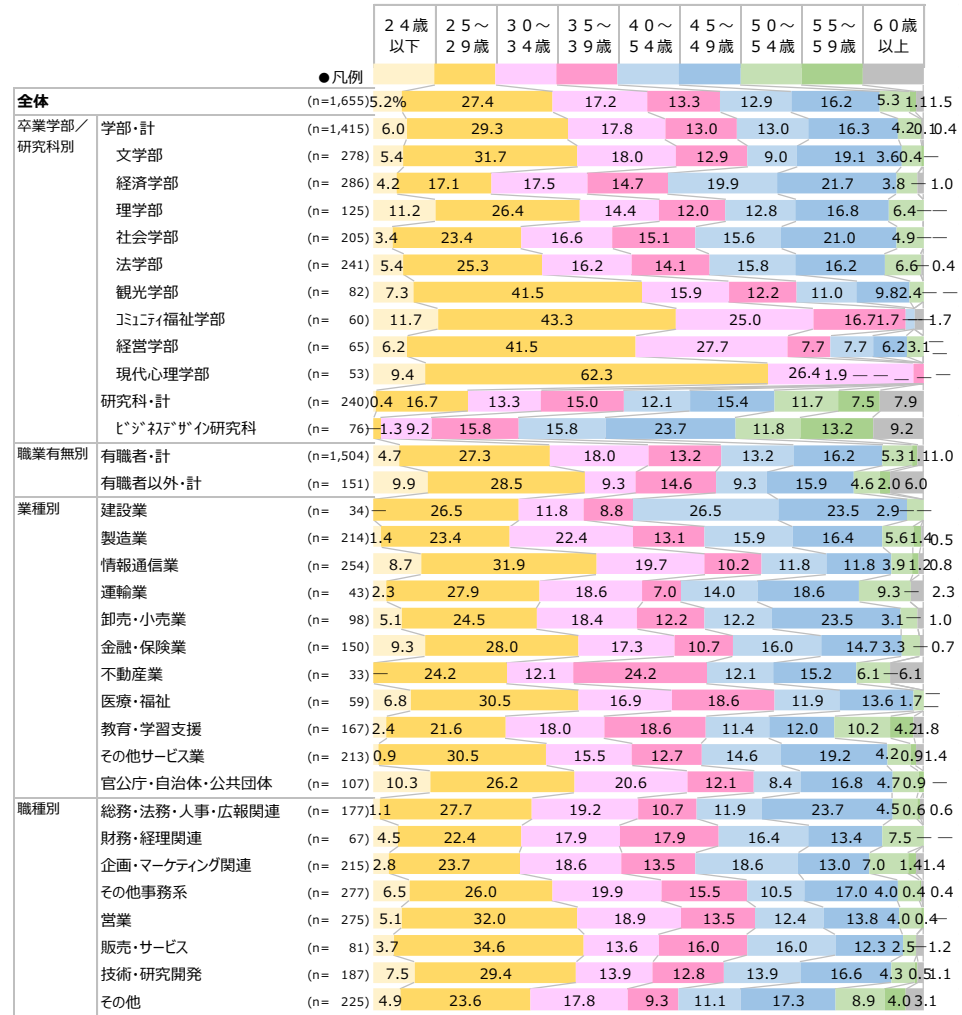
●年齢 [基本属性別] (卒業生全体/実数回答)

F2 あなたの年齢をお知らせください。



G_F2

●年齢 [卒業学部/研究科別・就業状況別] (卒業生全体/実数回答)



G_F2

●

【結果総括】 新研究科の受容性

●

●

【結果総括】 新研究科の受容性 1. 入学意向者の出現数

・ 在校生における 入学意向者数 計 12人 (全体の8%)

- ✓「ぜひ進学したい」 10人 (在校生全体の6%)
- ✓「進学したい」 2人 (在校生全体の1%)

・ 在校生のうち大学院進学希望者における 入学意向者数 計 4人 (大学院進学希望者の7%)

- ✓「ぜひ進学したい」 4人 (在校生のうち大学院進学希望者の7%)
- ✓「進学したい」 0人 (在校生のうち大学院進学希望者の0%)

・ 卒業生における 入学意向者数 計 393人 (全体の24%)

- ✓「ぜひ入学したい」 229人 (卒業生全体の14%)
- ✓「入学したい」 164人 (卒業生全体の10%)

・ 卒業生うち一都三県居住者における 入学意向者数 計 310人 (大学院進学希望者23%)

- ✓「ぜひ入学したい」 185人 (卒業生のうち一都三県居住者の14%)
- ✓「入学したい」 125人 (卒業生のうち一都三県居住者の 9%)

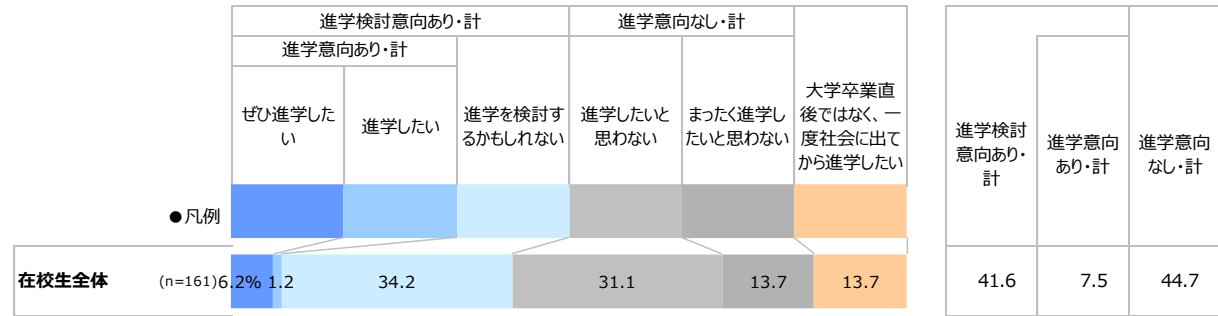
	在校生		卒業生	
	全体 (n=161)	大学院進学希望者 (n= 55)	全体 (n=1,655)	一都三県居住者 (n=1,344)
新研究科 強い入学意向者 (1) 在校生「ぜひ進学したい」回答者 卒業生「ぜひ入学したい」回答者	10人 (6.2%)	4人 (7.3%)	229人 (13.8%)	185人 (13.8%)
新研究科 入学意向者 (2) 在校生「進学したい」回答者 卒業生「入学したい」回答者	2人 (1.2%)	0人 (0.0%)	164人 (9.9%)	125人 (9.3%)
新研究科 入学意向者 計 (1+2)	12人 (7.5%)	4人 (7.3%)	393人 (23.7%)	310人 (23.1%)

【結果総括】 新研究科の受容性 2. 入学意向

- 新研究科への入学意向について、卒業生では回答者の24%が入学意向を示す。
- 在校生は、14%が“一度社会に出てから進学したい”と回答。
 - ✓ 在校生は、「ぜひ進学したい」が6%、「進学したい」(1%)まであわせた「進学意向あり・計」が8%。
 - ✓ また、14%が「大学卒業直後ではなく、一度社会に出てから進学したい」と回答。
- ✓ 卒業生は、「ぜひ入学したい」が14%、「入学したい」(10%)まであわせた「入学意向あり・計」が24%。

●新研究科への進学意向（在校生全体／単一回答）

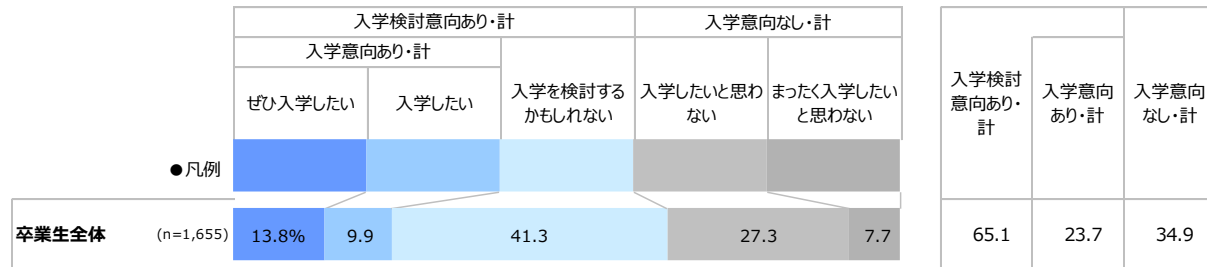
Q5 お読みいただいた新研究科に、あなたはどの程度進学したいと思いますか。



A_201

●新研究科への進学意向（卒業生全体／単一回答）

Q7 お読みいただいた新研究科に、あなたはどの程度入学したいと思いますか。（仕事やご家庭の事情は含まず、「通える状況だったとしたら」と仮定し、お答えください）



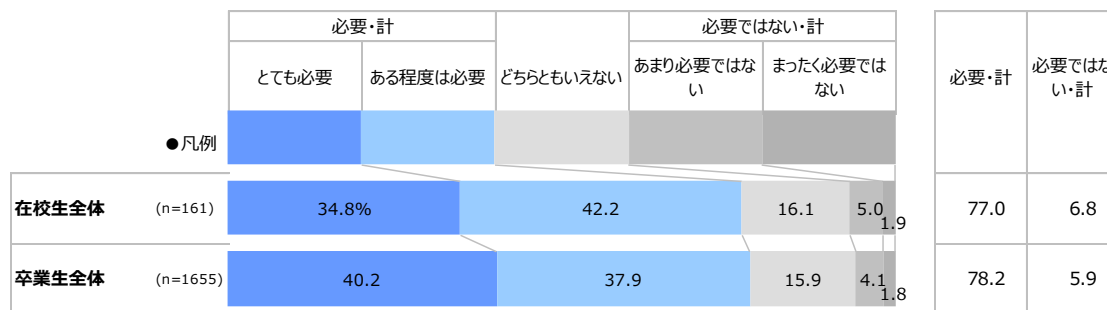
A_301

【結果総括】 新研究科の受容性 3. 立教大学が設置することへの評価・興味関心

- 新研究科の設置を立教大学が計画していることについて、在校生と卒業生のいずれも約8割が必要と評価。
- 卒業生は、在校生に比べて「とても必要」の割合が高い。
 - ✓新研究科の設置を立教大学が計画していることについて、在校生は、「とても必要」が35%、「ある程度必要」(42%)まであわせると、77%が必要と回答。
 - ✓卒業生は、「とても必要」が40%、「ある程度必要」(38%)まであわせると、78%が必要と回答。
- 新研究科への興味関心について、在校生と卒業生のいずれも7割超が興味があると回答。
- 卒業生は、在校生に比べて「とても興味がある」の割合が高い。
 - ✓新研究科への興味関心について、在校生は、「とても興味がある」が26%、「ある程度興味がある」(50%)まであわせると、75%が興味があると回答。
 - ✓卒業生は、「とても興味がある」が30%、「ある程度興味がある」(43%)まであわせると、74%が興味があると回答。

●立教が設置することへの評価（在校生全体、卒業生全体／単一回答）

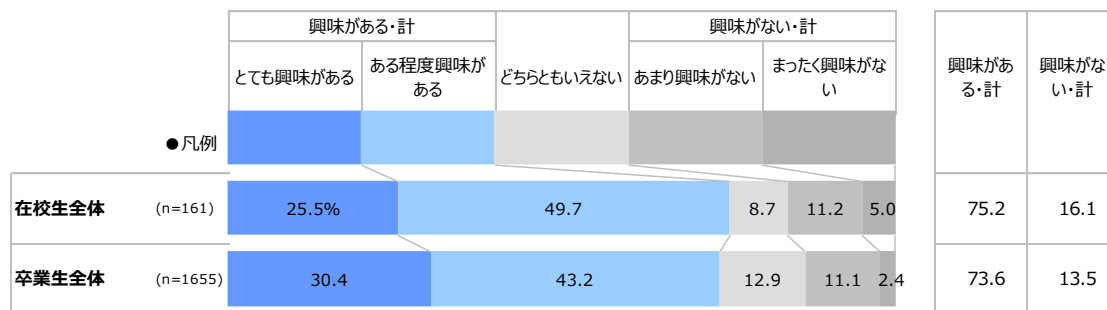
説明文にある新研究科の設置を、立教大学が計画していることについてどのように思いますか。



A_401

●新研究科への興味関心（在校生全体、卒業生全体／単一回答）

あなたはどの程度この新研究科に対して興味を持ちましたか。



A_501

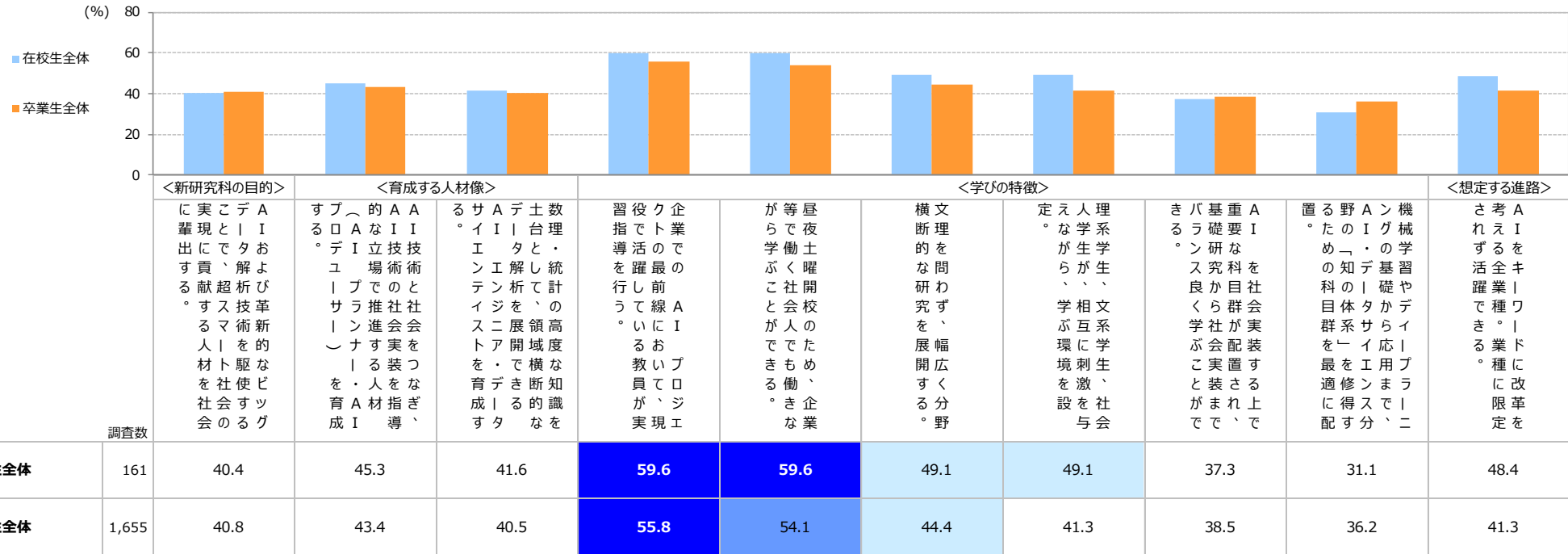
【結果総括】新研究科の受容性 4. 個別魅力評価 全体傾向

- 新研究科の特徴を評価したところ、在校生と卒業生のいずれも下記が上位2項目。
 「企業での AI プロジェクトの最前線において、現役で活躍している教員が実習指導を行う。」
 「昼夜土曜開校のため、企業等で働く社会人でも働きながら学ぶことができる。」

- ✓ <新研究科の目的> と <育成する人材> については、在校生と卒業生の評価に大きな差異はみられない。
- ✓ <学びの特徴> のうち、下記の項目は、在校生の評価が卒業生に比べて5pt以上高い。
 「昼夜土曜開校のため、企業等で働く社会人でも働きながら学ぶことができる。」
 「理系学生、文系学生、社会人学生が、相互に刺激を与えながら、学ぶ環境を設定。」
- ✓ 一方、下記の項目は、卒業生の評価が在校生に比べて高い。
 「機械学習やディープラーニングの基礎から応用まで、AI・データサイエンス分野の『知の体系』を修得するための科目群を最適に配置。」
- ✓ <想定する進路> の1項目は、在校生の評価が卒業生に比べて高い。

● 個別魅力評価：「とても魅力がある」一覧（在校生全体、卒業生全体／各単一回答）

以下は、先ほどお読みいただいた資料に記載された「新研究科の特徴」です。それぞれについて、どの程度魅力を感じますか。



※カテゴリごとに在校生全体の降順ソート。

※在校生、卒業生それぞれ ■1位 ■2位 ■3位

【結果総括】新研究科の受容性 4. 個別魅力評価 入学意向別の傾向

・在校生・卒業生ともに、強い入学意向を示した層とやや弱めの意向層の差が大きくなるのは〈想定する進路〉

✓在校生「進学意向あり」層では、〈想定する進路〉が9割を超えトップ。ついで全体値で同率1位の「企業での AI プロジェクトの最前線において、現役で活躍している教員が実習指導を行う」「昼夜土曜開校のため、企業等で働く社会人でも働きながら学ぶことができる」のスコアが高かった。

✓一方、卒業生「入学意向あり」層のトップは、「昼夜土曜開校のため、企業等で働く社会人でも働きながら学ぶことができる」。僅差で「企業での AI プロジェクトの最前線において、現役で活躍している教員が実習指導を行う」、〈想定する進路〉と続く。

●個別魅力評価：「とても魅力がある」一覧（在校生全体／各単一回答）

Q4 以下は、先ほどお読みいただいた資料に記載された「新研究科の特徴」です。それぞれについて、どの程度魅力を感じますか。

		調査数	<新研究科の目的>	<育成する人材像>	<学びの特徴>						<想定する進路>	
全体		161	40.4	45.3	41.6	59.6	59.6	49.1	49.1	37.3	31.1	48.4
新研究科 進学意向別	進学検討意向あり・計	67	55.2	56.7	56.7	76.1	73.1	61.2	65.7	52.2	43.3	68.7
	進学意向あり	12	66.7	66.7	75.0	83.3	83.3	66.7	75.0	75.0	83.3	91.7
	進学検討意向あり	55	52.7	54.5	52.7	74.5	70.9	60.0	63.6	47.3	34.5	63.6
	進学意向なし・計	72	23.6	33.3	27.8	44.4	45.8	38.9	31.9	23.6	20.8	27.8
	社会に出てから進学希望	22	50.0	50.0	40.9	59.1	63.6	45.5	54.5	36.4	27.3	54.5

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い

※カテゴリごとに全体の降順ソート。

●個別魅力評価：「とても魅力がある」一覧 [新研究科進学意向別]（卒業生全体／各単一回答）

Q6 以下は、先ほどお読みいただいた資料に記載された「新研究科の特徴」です。それぞれについて、どの程度魅力を感じますか。

		調査数	<新研究科の目的>	<育成する人材像>	<学びの特徴>						<想定する進路>	
全体		1,655	40.8	43.4	40.5	55.8	54.1	44.4	41.3	38.5	36.2	41.3
新研究科 入学意向別	ぜひ入学したい	229	79.0	79.0	72.5	83.0	84.3	74.2	71.6	74.2	72.9	81.7
	入学したい	164	57.3	64.0	57.9	72.6	65.2	58.5	50.6	52.4	48.2	54.3
	入学検討意向あり	684	41.1	42.7	40.1	59.4	57.3	47.2	42.7	39.8	36.5	42.7
	入学意向なし・計	578	20.6	24.2	23.4	36.2	35.3	25.3	24.9	19.0	17.8	20.1

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い

※カテゴリごとに全体の降順ソート。

結果総括

- **入学意向者は、本調査の回答者のみで入学定員を大きく上回った。**
- **在校生・卒業生以外にも広報活動を行うことにより入学定員の確保は充分可能と考えられる**

✓入学意向者は、在校生から12名、卒業生から393名、合計405名出現。想定定員の63名を大きく上回った。

✓卒業生については、現実的に通学可能と考える一都三県在住者に限定した場合でも、310名が入学意向を示した。

✓また、在校生に比べより意向が高い卒業生では、男性の若年層ほど入学意向が高く、男性20代では、「意向あり・計」が34%。

✓卒業学部・研究科別にみると理学部、業種では情報通信業、職種では技術・研究開発からの意向が高かった。

- **新研究科の個別魅力評価をみると、
在校生・卒業生ともに、意向が強い層は<想定する進路>を魅力に感じる割合が非常に高いことが特徴。**
- **また、「現役で活躍している教員が実習指導を行う」「企業等で働く社会人でも働きながら学ぶことができる」という点に対する評価も高くなることから、“より実践的で、幅広いフィールドに活かせる学び”が求められている様子が見える。**
- **卒業生（≒社会人）からの支持が高いことをふまえ、“働きながら学ぶ社会人学生”に配慮した開講時間の設定が有効。**

●

A. 【在校生】 社会人の学びに関する認識

●

●

A. 【在校生】社会人の学びに関する認識 1. 必要性の認識

• 社会人として何かを学ぶことについて、49%が「とても必要」と回答。「ある程度は必要」(44%)まであわせると、93%が必要と回答。

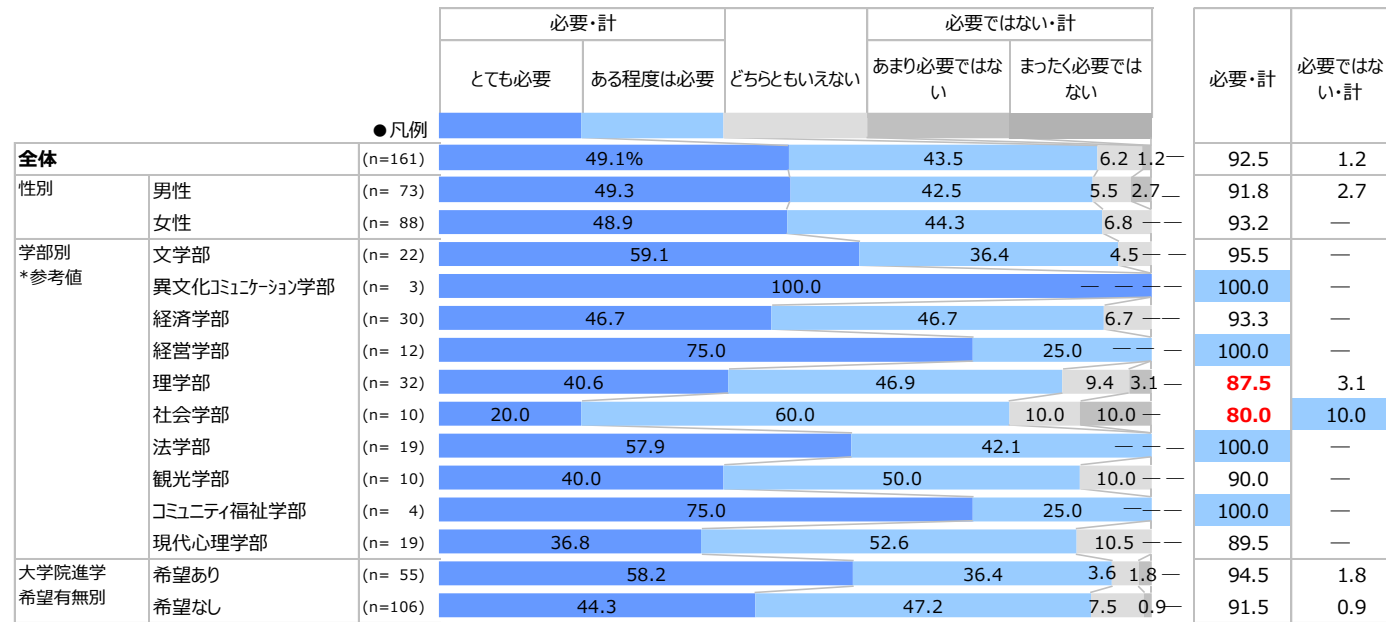
※以下、「とても必要」のスコアを属性別にみる。

✓性別には、大きな差異はみられない。

✓大学院進学希望有無別にみると、希望あり層は希望なし層に比べて10pt以上高い。

●社会人の学びの必要性認識（在校生全体／単一回答）

Q1 大学や大学院を卒業し、「社会人として何かを学ぶ（学び直すこと）」について、どのように思いますか。近いものをお選びください。



※全体と比較して ■ 10pt以上高い ■ 5pt以上高い ■ -5pt以上低い

A. 【在校生】社会人の学びに関する認識 2. 必要性の認識の理由（自由回答より）

・ 必要な理由

✓情報／産業／社会は進化するので学び続けることが必要

- ・ 技術の発展と同様に学問的な知識や常識もかなりのスピードで変化しているから。(女性, 文学部, 社会人の学びの必要性：とても必要)
- ・ 人生100年時代において、情報や産業が加速度的に進化する中、20代で学んだことで一生使い続けられる情報は限られると思い、常に情報を更新し、学び続けることが必要だから。(女性, 観光学部, 社会人の学びの必要性：とても必要)
- ・ 社会環境の変化には常に対応できた方が喜ばしいため(男性, 理学部, 社会人の学びの必要性：とても必要)
- ・ 時代の変化に合わせた知識を身につけなければ、自分の考えが時代遅れなこと、偏っていることに気付くことができず、自分が思う「社会」に固執してしまうと考えるから。(女性, 社会学部, 社会人の学びの必要性：とても必要)

✓自身の成長のため

- ・ 知識を深めることによって、自分の可能性を広げることができるため。生涯を通して成長し続けることができるため。(女性, 法学部, 社会人の学びの必要性：とても必要)
- ・ 常に新しい知識を身につけておかなければ時代の流れについていけず、ビジネス面においても私生活面においても様々なチャンスを逃してしまうと考えるから。(女性, 経済学部, 社会人の学びの必要性：とても必要)
- ・ 終身雇用の時代ではなく、また退職後のセカンドキャリアとしてどのようなことをしたいかを考えるときに、その時代に沿った知識を社会人として学べる機会があることは貴重な機会だと考える(女性, 社会学部, 社会人の学びの必要性：ある程度は必要)
- ・ 社会に出て実践経験の中で生まれた疑問を解決でき、それを社会に戻ってまた活かすことができるから(女性, 文学部, 社会人の学びの必要性：とても必要)

✓学ぶこと自体に意義がある

- ・ 社会人になってもなにかを学ぶことは、仕事へのモチベーションや教養を深めることになる。仕事ばかりの人間になるのはつまらないと思うから。(女性, 社会学部, 社会人の学びの必要性：ある程度は必要)
- ・ 人として何かを学び続けたいと思うから。(女性, 現代心理学部, 社会人の学びの必要性：とても必要)
- ・ 学びを通して、人間は常に進化することが出来ると思う為。また、純粋に新たな学びに楽しさを感じる為。(女性, 現代心理学部, 社会人の学びの必要性：とても必要)
- ・ 実務で応用分野に触れ続けていると、基礎分野・理論分野への振り返りが疎かになるため。特に後者は前提が覆されることもあるため、その変化に気づき適応するには、学び続ける必要があると思います。(男性, 経営学部, 社会人の学びの必要性：とても必要)

●

B. 【在校生】新研究科評価

●

●

B. 【在校生】新研究科評価 1. 進学意向

- 新研究科への入学意向について、「ぜひ進学したい」は6%、「進学したい」(1%)まであわせて「進学意向あり・計」は8%。
- また、14%が「大学卒業直後ではなく、一度社会に出てから進学したい」と回答。

※以下、「進学意向あり・計」のスコアを属性別にみる。

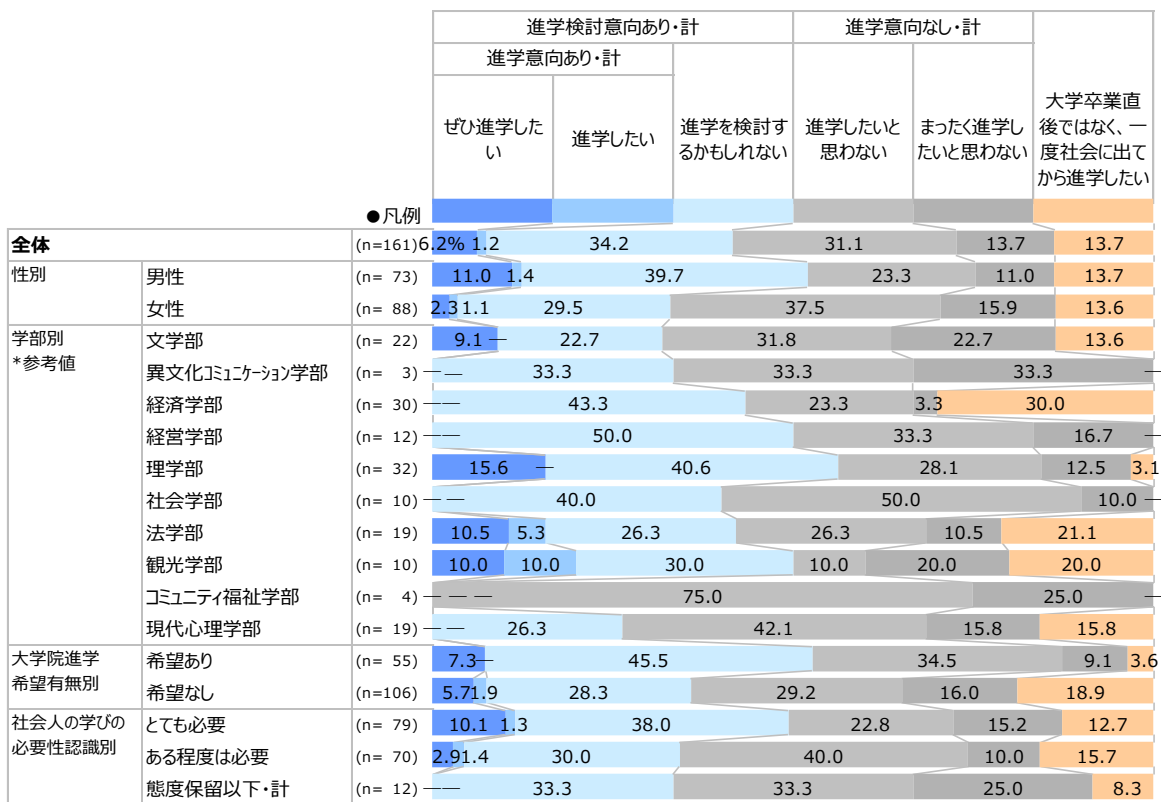
✓性別にみると、男性（12%）が女性（3%）に比べて高い。

✓大学院進学希望有無別にみると、「進学意向あり・計」のスコアに大きな差異はみられないが、「ぜひ進学したい」については希望あり層がわずかながら高い。

✓社会人の学びの必要性認識別にみると、必要という認識が高いほど「進学意向あり・計」が高い。

●新研究科への進学意向（在校生全体／単一回答）

Q5 お読みいただいた新研究科に、あなたはどの程度進学したいと思いますか。



※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い

進学意向者出現数(人)

進学検討意向あり・計	進学意向あり・計	進学意向なし・計	進学意向者出現数(人)		
			進学意向あり・計	ぜひ進学したい	進学したい
41.6	7.5	44.7	12	10	2
52.1	12.3	34.2	9	8	1
33.0	3.4	53.4	3	2	1
31.8	9.1	54.5	2	2	—
33.3	—	66.7	—	—	—
43.3	—	26.7	—	—	—
50.0	—	50.0	—	—	—
56.3	15.6	40.6	5	5	—
40.0	—	60.0	—	—	—
42.1	15.8	36.8	3	2	1
50.0	20.0	30.0	2	1	1
—	—	100.0	—	—	—
26.3	—	57.9	—	—	—
52.7	7.3	43.6	4	4	—
35.8	7.5	45.3	8	6	2
49.4	11.4	38.0	9	8	1
34.3	4.3	50.0	3	2	1
33.3	—	58.3	—	—	—

B. 【在校生】新研究科評価 2. 立教が設置することへの評価

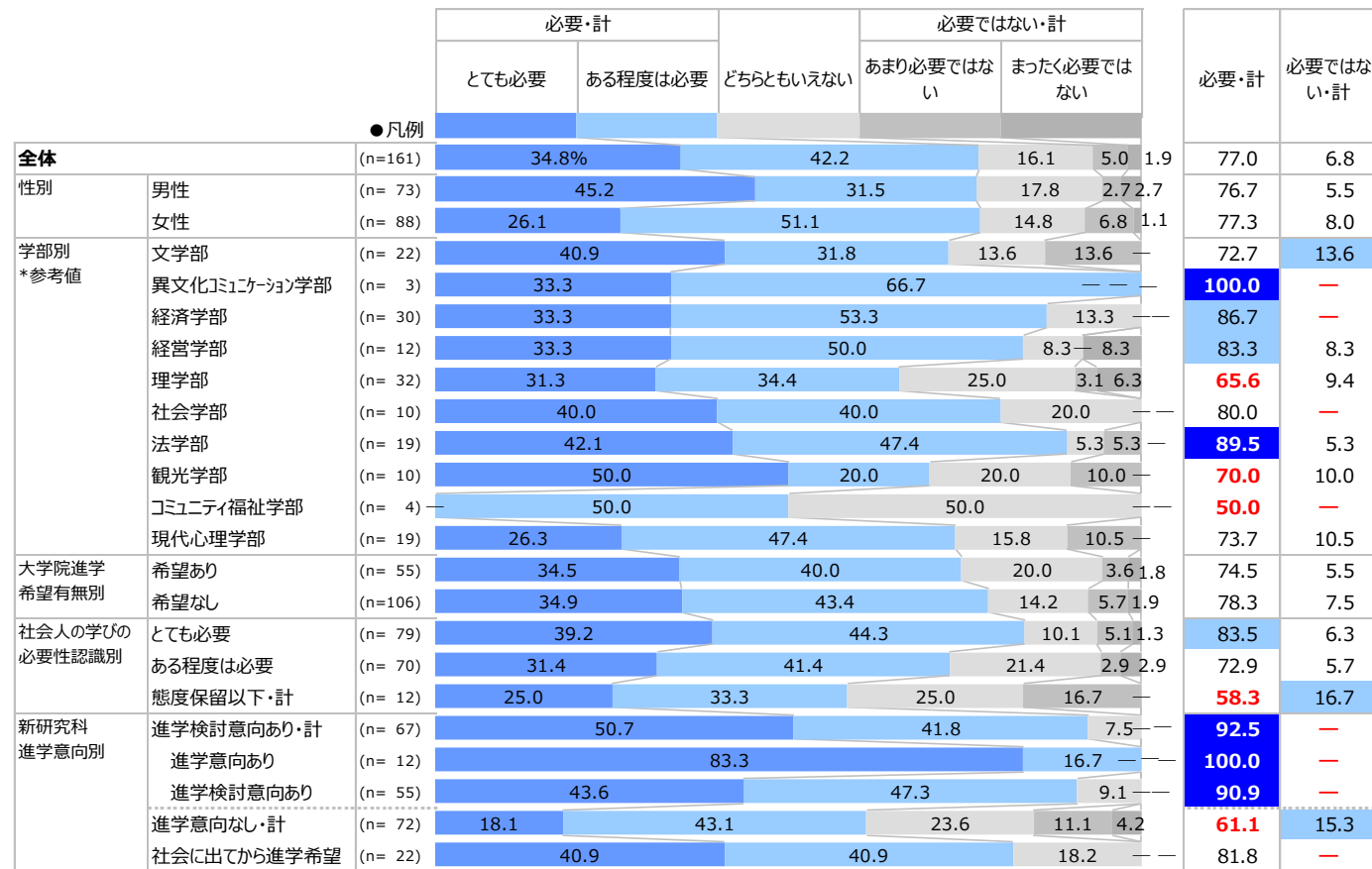
- 新研究科設置を立教大学が計画していることについて、「とても必要」は35%、「ある程度は必要」(42%)まであわせると、77%が必要と回答。

※以下、「とても必要」のスコアを属性別にみる。

- ✓性別にみると、男性（45%）が女性（26%）に比べて高い。
- ✓大学院進学希望有無別には、大きな差異はみられない。
- ✓新研究科入学意向別にみると、検討意向あり層は51%が「とても必要」と回答。

●立教が設置することへの評価（在校生全体／単一回答）

Q2 説明文にある新研究科の設置を、立教大学が計画していることについてどのように思いますか。



※全体と比較して ■ 10pt以上高い ■ 5pt以上高い ■ -5pt以上低い

B. 【在校生】新研究科評価 3. 興味関心

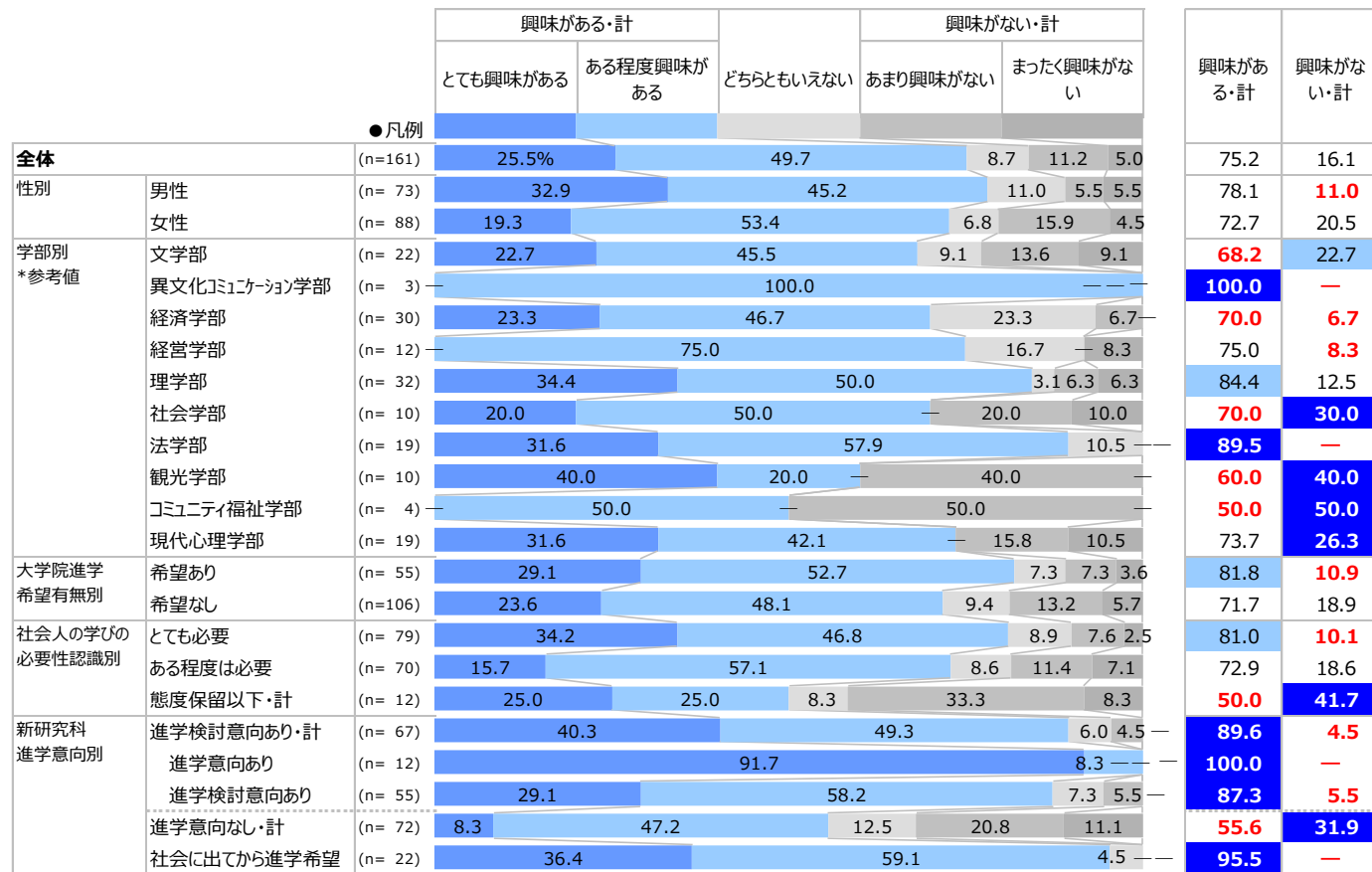
- 新研究科に対して、「とても興味がある」は26%、「ある程度興味がある」(50%)まであわせると、75%が興味があると回答。

※以下、「とても興味がある」のスコアを属性別にみる。

- 性別にみると、男性（33%）が女性（19%）に比べて高い。
- 大学院進学希望有無別にみると、希望あり層は希望なし層に比べて高い。

●新研究科への興味関心（在校生全体／単一回答）

Q3 あなたはどの程度この新研究科に対して興味を持ちましたか。



※全体と比較して ■ 10pt以上高い ■ 5pt以上高い ■ -5pt以上低い

B.【在校生】新研究科評価 4. 個別魅力評価

- 個別魅力評価について「とても魅力がある」をみると、次の項目が約60%のスコアでトップ2。
『企業での AI プロジェクトの最前線において、現役で活躍している教員が実習指導を行う。』
『昼夜土曜開校のため、企業等で働く社会人でも働きながら学ぶことができる。』

- ✓ <新研究科の目的> <育成する人材像> の項目は、いずれも40%超が「とても魅力がある」と回答。
- ✓ <想定する進路> の項目は、48%が「とても魅力がある」と評価した。

● 個別魅力評価：マトリクス（在校生全体／各単一回答）

Q4 以下は、先ほどお読みいただいた資料に記載された「新研究科の特徴」です。それぞれについて、どの程度魅力を感じますか。

		魅力がある・計		どちらともいえない	魅力がない・計		魅力がある・計	魅力がない・計	
		とても魅力がある	ある程度魅力がある		あまり魅力がない	まったく魅力がない			
(n=161)	● 凡例								
<新研究科の目的>	AIおよび革新的なビッグデータ解析技術を駆使することで、超スマート社会の実現に貢献する人材を社会に輩出する。	40.4%		42.9	6.8	7.5	2.5	83.2	9.9
<育成する人材像>	AI技術と社会をつなぎ、AI技術の社会実装を指導的な立場で推進する人材（AI プランナー・AI プロデューサー）を育成する。	45.3		35.4	12.4	4.3	2.5	80.7	6.8
	数理・統計の高度な知識を土台として、領域横断的なデータ解析を展開できる AI エンジニア・データサイエンティストを育成する。	41.6		39.8	10.6	6.2	1.9	81.4	8.1
<学びの特徴>	企業での AI プロジェクトの最前線において、現役で活躍している教員が実習指導を行う。	59.6		28.0	8.1	1.9	2.5	87.6	4.3
	昼夜土曜開校のため、企業等で働く社会人でも働きながら学ぶことができる。	59.6		23.0	9.3	3.7	4.3	82.6	8.1
	文理を問わず、幅広く分野横断的な研究を展開する。	49.1		31.7	9.3	5.0	5.0	80.7	9.9
	理系学生、文系学生、社会人学生が、相互に刺激を与えながら、学ぶ環境を設定。	49.1		31.7	7.5	7.5	4.3	80.7	11.8
	AI を社会実装する上で重要な科目群が配置され、基礎研究から社会実装までバランス良く学ぶことができる。	37.3		42.2	12.4	3.7	4.3	79.5	8.1
	機械学習やディープラーニングの基礎から応用まで、AI・データサイエンス分野の「知の体系」を修得するための科目群を最適に配置。	31.1		46.6	13.7	5.0	3.7	77.6	8.7
<想定する進路>	AIをキーワードに改革を考える全業種。業種に限定されず活躍できる。	48.4		30.4	14.3	3.7	3.1	78.9	6.8

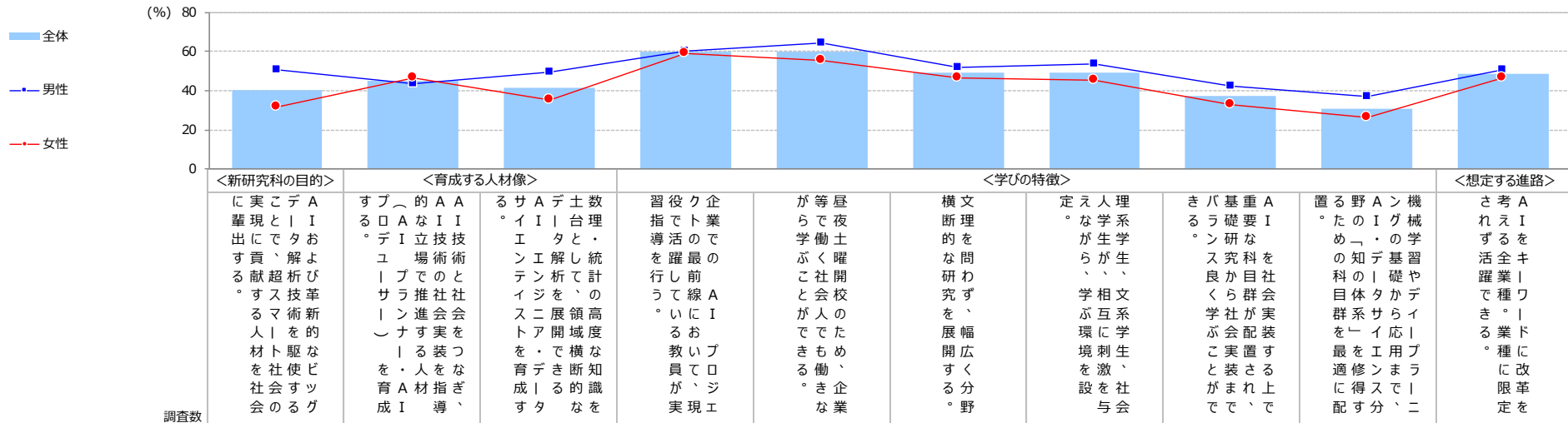
※カテゴリごとに「とても魅力がある」の降順ソート。

※個別魅力評価の「とても興味がある」のスコアを属性別にみる。

- ✓性別にみると、男性は、女性に比べて<新研究科の目的>が20pt程度高いほか、“AI エンジニア・データサイエンティストを育成”、“基礎研究から社会実装まで学べる”、“「知の体系」の習得”などの項目の評価が高い。
- ✓大学院進学希望有無別にみると、希望あり層は、希望なし層に比べて、<新研究科の目的>、“AI エンジニア・データサイエンティストを育成”、“現役で活躍している教員の実習指導”、“理系・文系・社会人学生が相互に刺激を与えながら学ぶ環境”の評価が高い。

●個別魅力評価：「とても魅力がある」一覧（在校生全体／各単一回答）

Q4 以下は、先ほどお読みいただいた資料に記載された「新研究科の特徴」です。それぞれについて、どの程度魅力を感じますか。



		調査数	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
全体		161	40.4	45.3	41.6	59.6	59.6	49.1	49.1	37.3	31.1	48.4	48.4	48.4
性別	男性	73	50.7	43.8	49.3	60.3	64.4	52.1	53.4	42.5	37.0	50.7	50.7	50.7
	女性	88	31.8	46.6	35.2	59.1	55.7	46.6	45.5	33.0	26.1	46.6	46.6	46.6
学部別 *参考値	文学部	22	36.4	45.5	36.4	59.1	59.1	54.5	59.1	36.4	27.3	54.5	54.5	54.5
	異文化コミュニケーション学部	3	33.3	100.0	33.3	100.0	66.7	100.0	66.7	33.3	66.7	66.7	66.7	66.7
	経済学部	30	40.0	50.0	43.3	56.7	50.0	36.7	43.3	43.3	33.3	43.3	43.3	43.3
	経営学部	12	50.0	50.0	41.7	66.7	83.3	41.7	41.7	25.0	8.3	58.3	58.3	58.3
	理学部	32	46.9	37.5	56.3	56.3	37.5	25.0	37.5	34.4	37.5	43.8	43.8	43.8
	社会学部	10	30.0	50.0	20.0	50.0	60.0	50.0	40.0	50.0	20.0	50.0	50.0	50.0
	法学部	19	47.4	57.9	36.8	73.7	84.2	73.7	68.4	31.6	36.8	57.9	57.9	57.9
	観光学部	10	30.0	40.0	30.0	50.0	50.0	60.0	50.0	50.0	30.0	40.0	40.0	40.0
	コミュニティ福祉学部	4	25.0	50.0	25.0	50.0	50.0	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0
	現代心理学部	19	36.8	26.3	47.4	57.9	78.9	68.4	52.6	36.8	31.6	47.4	47.4	47.4
大学院進学 希望有無別	希望あり	55	49.1	41.8	49.1	67.3	58.2	52.7	54.5	38.2	34.5	49.1	49.1	49.1
	希望なし	106	35.8	47.2	37.7	55.7	60.4	47.2	46.2	36.8	29.2	48.1	48.1	48.1
社会人の学びの 必要性認識別	とても必要	79	50.6	55.7	50.6	70.9	73.4	57.0	64.6	43.0	38.0	58.2	58.2	58.2
	ある程度は必要	70	31.4	35.7	32.9	51.4	50.0	45.7	37.1	30.0	24.3	41.4	41.4	41.4
	態度保留以下・計	12	25.0	33.3	33.3	33.3	25.0	16.7	16.7	41.7	25.0	25.0	25.0	25.0
新研究科 進学意向別	進学検討意向あり・計	67	55.2	56.7	56.7	76.1	73.1	61.2	65.7	52.2	43.3	68.7	68.7	68.7
	進学意向あり	12	66.7	66.7	75.0	83.3	83.3	66.7	75.0	75.0	83.3	91.7	91.7	91.7
	進学検討意向あり	55	52.7	54.5	52.7	74.5	70.9	60.0	63.6	47.3	34.5	63.6	63.6	63.6
	進学意向なし・計	72	23.6	33.3	27.8	44.4	45.8	38.9	31.9	23.6	20.8	27.8	27.8	27.8
	社会に出てから進学希望	22	50.0	50.0	40.9	59.1	63.6	45.5	54.5	36.4	27.3	54.5	54.5	54.5

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■5pt以上低い

※カテゴリごとに全体の降順ソート。

B.【在校生】新研究科評価 5. 進学意向の理由（自由回答より）

・ 進学意向者の理由

✓ AI・機械学習の分野に興味がある

- ・ AIに興味があるが、それについて全般的に学ぶことのできる場所を他に知らないから。(女性, 文学部, 新研究科進学意向: ぜひ進学したい)
- ・ 今まで機械学習や深層学習を学んだがさらに奥深く学びたいため。(男性, 理学部, 新研究科進学意向: ぜひ進学したい)

✓ 今後必要な分野・ニーズがある

- ・ これからAIを無視することはできない時代に突入するから。またAIを積極的に学び取り入れることで人口減少が加速する日本をより生きやすい社会にすることに繋がると考えるから。(女性, 文学部, 新研究科進学意向: ぜひ進学したい)
- ・ 時代のニーズに合っている(男性, 理学部, 新研究科進学意向: ぜひ進学したい)
- ・ AIは今後の社会にとって最大の核となるものなので、それを大学で深く学べるのはとても良いことだと思う。(男性, 理学部, 新研究科進学意向: ぜひ進学したい)

・ 進学検討意向者の理由

✓ AIは大事な分野だが、他大学に比べて優位な点がわかりにくい、実績がない

- ・ AIは今の社会において必須の分野だから。しかし、説明文が抽象的でイメージしづらいため、他の電通大などの有力な大学に比べてどの点が優っているのか知りたいから。(女性, 経営学部, 新研究科進学意向: 進学を検討するかもしれない)
- ・ 具体的な実績がないため、大学院に進学したとして、自分にどのような力が身につくのが全くイメージが湧かないため。また、教員もどの程度の名誉がある方なのか分からず、現段階では判断材料が少なすぎるため。(女性, 経済学部, 新研究科進学意向: 進学を検討するかもしれない)

✓ 機械学習を学びたいが分野が狭すぎる

- ・ ビジネスへの応用・社会実装といった点にも注力しているのは魅力的に思う。ただし、私は機械学習（データの相関関係を活用する技法）だけでなく、統計的因果推論を含む統計学も学びたい（機械学習 + 統計学 = データサイエンスを学びたい）と考えているため、人工知能にフォーカスしているこのコースとはミスマッチがあると考えている。(男性, 経済学部, 新研究科進学意向: 進学を検討するかもしれない)

✓ 進学したいが経済的な余裕がない

- ・ 出来ることなら進学したいが、経済的な余裕があまりないため(男性, 現代心理学部, 新研究科進学意向: 進学を検討するかもしれない)

・ 大学卒業直後ではなく、一度社会に出てから進学したい理由

- ・ 就職先が決まった現在、社会に出てからAIがどの程度活用されているのか体験し、AIの活用法を考えた上で学びたいから。(女性, 観光学部, 新研究科進学意向: 大学卒業直後ではなく、一度社会に出てから進学したい)
- ・ AIに関係する業務に関わる職業先に就職する場合は、知識を深めるために進学したいと思うと考えたからです。(女性, 法学部, 新研究科進学意向: 大学卒業直後ではなく、一度社会に出てから進学したい)

B.【在校生】新研究科評価 6. 新研究科への意見・要望（自由回答より）

・ 要望

✓ 授業などへの要望

- 座学のみならず、実践的な学びにも期待したい。(女性, 現代心理学部, 新研究科進学意向: 進学したいと思わない)
- ビジョンの明確化、授業形態の明確化をお願いしたい。(男性, 法学部, 新研究科進学意向: 進学を検討するかもしれない)
- 大学は研究する場であり、企業で通用する人材を輩出することが目的ではないと思います。きちんと、AIに対する論文や特許を取得できるような体系となる学業に取り組むことができる大学院であってほしいと思います。(女性, 経済学部, 新研究科進学意向: 進学を検討するかもしれない)
- 今までAI = 理系の固定観念があったが、文系でも学ぶことができるというのにとっても魅力を感じました。ただ大学院であることから、知識が乏しい中で講義についていけるかに不安を抱きましたわ、勉学において悩みを相談できるサポートがあるといいなと考えます。AIのことはニュースに何度も取り上げられてとても気になっていました。学問として学べる場所があるならば、素晴らしい機会だと思います。今後の展開が楽しみです。(女性, 法学部, 新研究科進学意向: 大学卒業直後ではなく、一度社会に出てから進学したい)

✓ 一般向けのセミナーや講義を開講してほしい

- 進学するほどの熱意はないが、将来人工知能に関わることは十分考えられる。一般向けのセミナーや講義を開講して、人工知能について学べる機会があると嬉しい。(男性, 理学部, 新研究科進学意向: 進学したいと思わない)

✓ AIによる社会の変化、危険性などについても研究・討論してほしい

- AIの分野は最近強化が叫ばれていますが、それによる仕事の減少などのマイナスの部分も多いと思います。AIの時代に向けた社会制度の整備(例えばBIなど)の活動も立教大学として推進してもらいたいです。(男性, 理学部, 新研究科進学意向: 進学を検討するかもしれない)
- AIやIT革新の魅力ばかりでなく、ぜひその危険性や研究競争の先に失われるものはないのか、という討論もしてほしいと思う。(女性, 社会学部, 新研究科進学意向: 進学を検討するかもしれない)

✓ 社会人も通いやすい環境を整えてほしい

- データサイエンスの手法は多数あり、機械学習の手法も多く存在しているにも関わらずディープラーニングなどニューラルネット系にフォーカスしている点などは、「人工知能」「ディープラーニング」というバズワードに飛びついているだけで中身が薄いような印象を受ける。ビジネスへの応用にフォーカスするのは良いと思うのでその路線で頑張ってもらいたい。オンデマンド科目を充実させるなどして社会人が通いやすいように徹底すればニーズは多いと思う。(男性, 経済学部, 新研究科進学意向: 進学を検討するかもしれない)

●

C. 【卒業生】 社会人の学びに関する認識

●

●

C. 【卒業生】社会人の学びに関する認識 1. 必要性の認識

● 社会人として何かを学ぶについて、71%が「とても必要」と回答。「ある程度は必要」(25%)まであわせると、96%が必要と回答。

※以下、「とても必要」のスコアを属性別にみる。

※卒業学部／研究科別、業種別、職種別は、回答数が30件以上の属性のみ分析対象とした。以降のページについても同様。

✓性別にみると、男性（75%）が女性（66%）に比べて高い。

・ 性年代別にみると、女性は年代が高いほどスコアが高い。

✓卒業学部／研究科別にみると、研究科・計（82%）は、学部・計（69%）に比べて高い。

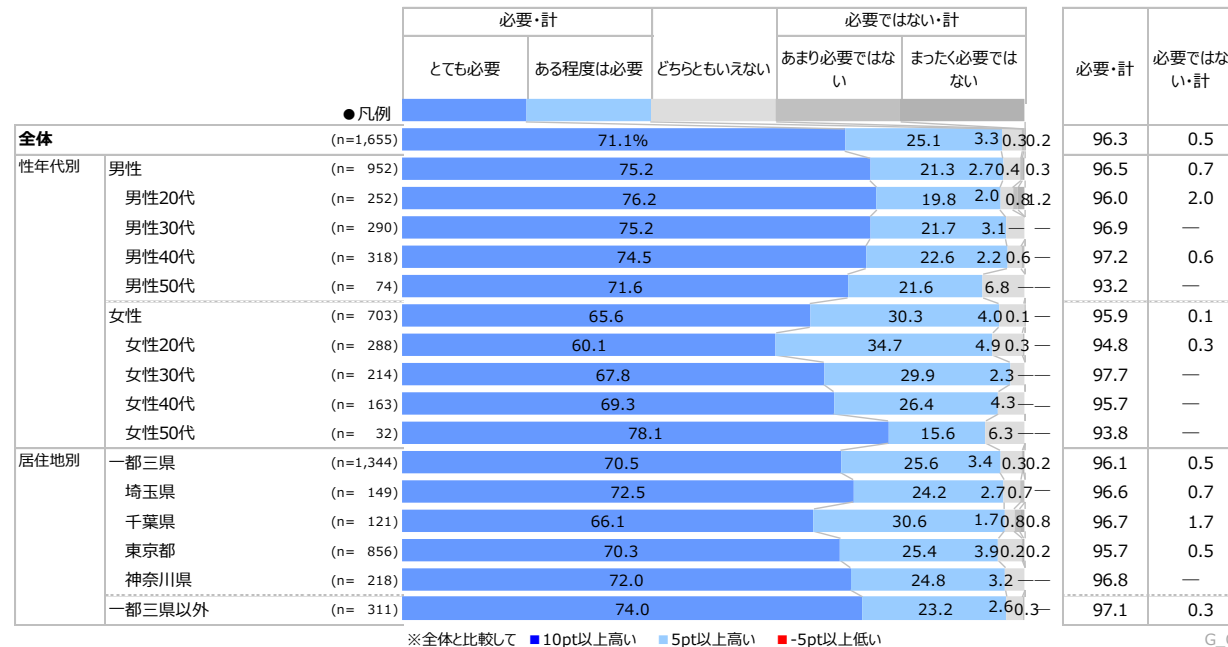
✓職業有無別にみると、有職者は有職者以外に比べて高い。

✓業種別にみると、製造業が他の業種に比べて高い。

✓職種別にみると、財務・経理関連、企画・マーケティング関連が高い。

● 社会人としての学びの必要性 [基本属性別] (卒業生全体／単一回答)

Q3「社会人として何かを学ぶ（学び直すこと）」について、どのように思いますか。近いものをお選びください。



※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い

● 社会人としての学びの必要性 [卒業学部／研究科別・就業状況別] (卒業生全体／単一回答)

		n	必要・計		どちらともいえない	必要ではない・計		必要・計	必要ではない・計
			とても必要	ある程度は必要		あまり必要ではない	まったく必要ではない		
● 凡例									
全体		(n=1,655)	71.1%	25.1	3.3	0.3	0.3	96.3	0.5
卒業学部／ 研究科別	学部・計	(n=1,415)	69.3	26.6	3.6	0.3	0.1	96.0	0.4
	文学部	(n= 278)	66.9	27.7	5.0	0.4	—	94.6	0.4
	経済学部	(n= 286)	72.0	24.8	2.8	0.3	—	96.9	0.3
	理学部	(n= 125)	70.4	21.6	7.2	0.8	—	92.0	0.8
	社会学部	(n= 205)	66.3	30.2	3.4	—	—	96.6	—
	法学部	(n= 241)	71.0	26.1	2.1	0.4	0.4	97.1	0.8
	観光学部	(n= 82)	67.1	31.7	1.2	—	—	98.8	—
	コミュニケーション福祉学部	(n= 60)	73.3	25.0	—	1.7	—	98.3	1.7
	経営学部	(n= 65)	75.4	20.0	4.6	—	—	95.4	—
	現代心理学部	(n= 53)	67.9	28.3	3.8	—	—	96.2	—
	研究科・計	(n= 240)	81.7	16.3	1.3	0.4	0.4	97.9	0.8
	ビジネスデザイン研究科	(n= 76)	82.9	17.1	—	—	—	100.0	—
職業有無別	有職者・計	(n=1,504)	71.5	25.1	2.9	0.3	0.1	96.7	0.4
	有職者以外・計	(n= 151)	66.9	25.2	6.6	0.7	0.7	92.1	1.3
業種別	建設業	(n= 34)	55.9	44.1	—	—	—	100.0	—
	製造業	(n= 214)	77.1	21.0	1.9	—	—	98.1	—
	情報通信業	(n= 254)	71.7	24.8	3.1	0.4	—	96.5	0.4
	運輸業	(n= 43)	65.1	30.2	4.7	—	—	95.3	—
	卸売・小売業	(n= 98)	71.4	23.5	4.1	1.0	—	94.9	1.0
	金融・保険業	(n= 150)	74.0	23.3	2.0	0.7	—	97.3	0.7
	不動産業	(n= 33)	66.7	33.3	—	—	—	100.0	—
	医療・福祉	(n= 59)	72.9	20.3	6.8	—	—	93.2	—
	教育・学習支援	(n= 167)	68.3	27.5	3.6	0.6	—	95.8	0.6
	その他サービス業	(n= 213)	76.5	21.1	1.9	0.5	—	97.7	0.5
	官公庁・自治体・公共団体	(n= 107)	65.4	29.9	3.7	0.9	—	95.3	0.9
職種別	総務・法務・人事・広報関連	(n= 177)	75.1	23.7	0.6	0.6	—	98.9	0.6
	財務・経理関連	(n= 67)	83.6	16.4	—	—	—	100.0	—
	企画・マーケティング関連	(n= 215)	78.1	18.1	2.8	0.9	—	96.3	0.9
	その他事務系	(n= 277)	64.3	33.9	1.8	—	—	98.2	—
	営業	(n= 275)	71.3	23.3	4.7	0.7	—	94.5	0.7
	販売・サービス	(n= 81)	71.6	24.7	3.7	—	—	96.3	—
	技術・研究開発	(n= 187)	68.4	27.3	3.7	0.5	—	95.7	0.5
	その他	(n= 225)	70.7	25.3	4.0	—	—	96.0	—

※全体と比較して ■ 10pt以上高い ■ 5pt以上高い ■ -5pt以上低い

C. 【卒業生】 社会人の学びに関する認識 2. 社会人になってからの学び経験

- 社会人になってからの学びの経験について、「関連する書籍を購入して独学した」は69%が実施。ついで「通信教育で学んだ」「民間のスクールに通った」「テレビやラジオ、インターネットの講座で学んだ」が30%前後。
- 「大学院に通った」ことがあるものは、全体の14%。

✓性年代別にみると、男女いずれも50代が全般に高い。男性40代は「通信教育で学んだ」、女性40代は「民間のスクールに通った」が全体に比べて高い。

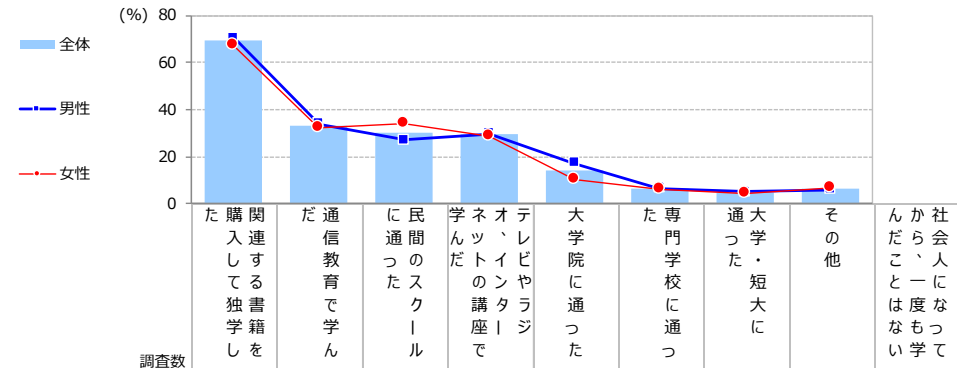
✓職業有無別にみると、有職者以外は「大学院に通った」が有職者に比べて高い。

✓業種別にみると、運輸業は「通信教育で学んだ」「民間のスクールに通った」、金融・保険業は「通信教育で学んだ」、不動産業は「民間のスクールに通った」「専門学校に通った」、教育・学習支援は「大学院に通った」がそれぞれ全体に比べて高い。

✓職種別にみると、財務・経理関連は「専門学校に通った」、技術・研究開発は「関連する書籍を購入して独学した」がそれぞれ全体に比べて高い。

●社会人になってからの学び経験【基本属性別】（卒業生全体／複数回答）

Q1 あなたが社会人になってから「何かを学ぶ（学び直しをする）」際に利用したことがあるものをすべてお選びください。



		調査数	た購関 入連し す る 独 学 籍 し を	だ通 信 教 育 で 学 ん だ	に民 間 の ス ク ー ル	学ネ ッ ト の 講 座 で	テ レ ビ や ラ ジ オ の 講 座 で	大 学 院 に 通 っ た	た専 門 学 校 に 通 っ た	通大 っ た ・ 短 大 に	そ の 他	んか だら こ、 社人 には 度な もっ て
全体		1,655	69.2	33.2	30.1	29.4	14.3	6.6	4.9	6.4	7.4	
性年代別	男性	952	70.5	34.0	27.1	29.8	17.4	6.7	5.3	6.1	6.8	
	男性20代	252	72.6	23.0	18.7	25.8	9.5	3.6	4.0	5.2	7.1	
	男性30代	290	74.1	32.1	23.4	28.3	13.4	5.2	5.9	6.6	5.9	
	男性40代	318	67.6	43.7	35.5	32.4	17.6	9.1	5.3	6.0	6.3	
	男性50代	74	63.5	39.2	35.1	33.8	40.5	13.5	4.1	6.8	13.5	
	女性	703	67.4	32.1	34.1	28.7	10.1	6.4	4.4	6.8	8.1	
	女性20代	288	69.1	27.8	21.2	29.2	4.5	2.1	1.4	6.3	10.8	
	女性30代	214	71.5	29.0	30.4	25.7	6.5	7.0	4.2	6.5	7.9	
女性40代	163	62.0	42.3	56.4	30.7	14.1	11.7	6.1	8.6	5.5		
女性50代	32	59.4	43.8	59.4	37.5	53.1	15.6	18.8	6.3	—		
居住地別	一都三県	1,344	70.5	32.1	31.7	28.5	14.8	6.9	4.8	5.9	7.5	
	埼玉県	149	71.1	30.9	22.8	25.5	12.1	10.1	4.0	4.7	10.7	
	千葉県	121	66.9	33.9	27.3	24.8	13.2	3.3	3.3	8.3	8.3	
	東京都	856	69.6	31.5	33.4	29.4	15.8	7.2	4.7	5.7	7.9	
	神奈川県	218	75.7	34.4	33.5	28.9	13.8	5.5	6.4	6.0	3.2	
	一都三県以外	311	63.3	37.9	23.2	33.1	12.2	5.1	5.5	8.7	6.8	

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い

※全体の降順ソート。

● 社会人になってからの学び経験 [卒業学部／研究科別・就業状況別] (卒業生全体／複数回答)

	調査数	購入した書籍を	関連する書籍を	通信教育で学んだ	民間のスクール	ネット上の講座で	テレビやオンラインで	大学院に通った	専門学校に通った	大学・短大に通った	その他	社会人になってから一度もない学
全体	1,655	69.2	33.2	30.1	29.4	14.3	6.6	4.9	6.4	7.4		
卒業学部／研究科別												
学部・計	1,415	68.9	33.9	29.7	29.2	6.4	6.1	4.7	6.4	8.1		
文学部	278	74.5	28.4	30.2	32.4	5.4	7.6	6.5	9.4	5.0		
経済学部	286	70.6	39.2	30.1	22.7	5.2	7.7	4.5	6.6	8.0		
理学部	125	69.6	28.0	21.6	35.2	12.0	4.0	4.0	5.6	11.2		
社会学部	205	66.8	35.1	34.6	28.3	5.9	3.9	1.5	6.3	9.3		
法学部	241	68.0	40.2	36.1	33.2	7.9	8.3	5.0	2.9	7.9		
観光学部	82	62.2	35.4	25.6	29.3	3.7	3.7	1.2	3.7	8.5		
コミュニティ福祉学部	60	66.7	28.3	23.3	30.0	6.7	1.7	5.0	11.7	5.0		
経営学部	65	56.9	33.8	23.1	27.7	6.2	6.2	12.3	—	10.8		
現代心理学部	53	75.5	20.8	18.9	17.0	5.7	3.8	3.8	11.3	9.4		
研究科・計	240	70.8	29.6	32.5	30.4	60.8	9.2	5.8	6.7	3.3		
ビジネスデザイン研究科	76	68.4	31.6	48.7	36.8	96.1	17.1	6.6	2.6	—		
職業有無別												
有職者・計	1,504	69.9	33.8	30.5	29.6	12.2	6.4	4.5	5.7	7.5		
有職者以外・計	151	61.6	27.8	25.8	27.2	35.1	7.9	9.3	13.2	6.0		
業種別												
建設業	34	73.5	32.4	35.3	20.6	5.9	8.8	5.9	—	8.8		
製造業	214	67.3	42.5	28.5	35.5	10.3	5.6	2.8	5.6	8.4		
情報通信業	254	78.3	24.0	24.4	31.9	7.1	3.1	4.3	5.1	5.9		
運輸業	43	74.4	44.2	44.2	20.9	11.6	2.3	4.7	11.6	2.3		
卸売・小売業	98	61.2	38.8	36.7	26.5	5.1	5.1	2.0	6.1	10.2		
金融・保険業	150	72.0	54.7	29.3	26.0	6.7	4.7	1.3	1.3	7.3		
不動産業	33	69.7	27.3	42.4	18.2	18.2	18.2	3.0	3.0	—		
医療・福祉	59	66.1	18.6	28.8	30.5	15.3	6.8	10.2	15.3	8.5		
教育・学習支援	167	70.7	28.1	25.1	29.3	28.1	4.8	8.4	7.2	7.2		
その他サービス業	213	67.6	32.9	37.1	30.5	16.4	11.3	4.7	4.7	6.6		
官公庁・自治体・公共団体	107	65.4	27.1	27.1	24.3	9.3	5.6	3.7	4.7	7.5		
職種別												
総務・法務・人事・広報関連	177	72.9	39.5	37.9	28.8	10.2	4.0	5.1	6.2	5.1		
財務・経理関連	67	59.7	41.8	28.4	23.9	10.4	17.9	6.0	3.0	9.0		
企画・マーケティング関連	215	74.9	34.0	40.0	34.4	16.3	5.1	5.1	5.1	5.6		
その他事務系	277	63.2	33.9	29.6	27.4	10.8	7.6	4.0	3.6	9.4		
営業	275	63.3	36.7	25.1	27.6	4.7	4.4	1.1	4.4	9.8		
販売・サービス	81	69.1	34.6	28.4	33.3	6.2	8.6	1.2	2.5	9.9		
技術・研究開発	187	79.7	32.1	21.4	31.6	12.8	4.3	7.5	5.3	4.3		
その他	225	74.7	24.0	32.4	29.3	23.1	8.4	6.2	12.4	7.6		
学びの必要性別												
とても必要	1,177	73.2	35.8	32.6	33.6	17.3	7.1	5.5	6.5	4.0		
ある程度は必要	416	61.3	27.9	25.0	19.5	6.5	6.0	3.4	5.0	13.9		
態度保留以下・計	62	45.2	21.0	16.1	16.1	9.7	1.6	3.2	12.9	27.4		

※全体と比較して ■ 10pt以上高い ■ 5pt以上高い ■ -5pt以上低い

※全体の降順ソート。

C. 【卒業生】社会人の学びに関する認識 3. 社会人になって学んだ理由

・社会人になって学んだ理由は、「仕事に必要な知識・技術を得るため」が最も高く、「自分の教養を高めたかったから」「職場でのキャリアアップのため」「仕事に必要な資格取得のため」と続く。

✓性別にみると、男性は女性に比べて、「仕事に必要な知識・技術を得るため」「職場でのキャリアアップのため」がわずかながら高い。

・性年代別にみると、女性40代は「業種や職種チェンジをしたかったから」、女性50代は「常に何かを学んでいたいと考えているから」が高い。

✓卒業学部／研究科別にみると、現代心理学部は「業種や職種チェンジをしたかったから」、ビジネスデザイン研究科は「自分の教養を高めたかったから」「業種や職種チェンジをしたかったから」が高い。

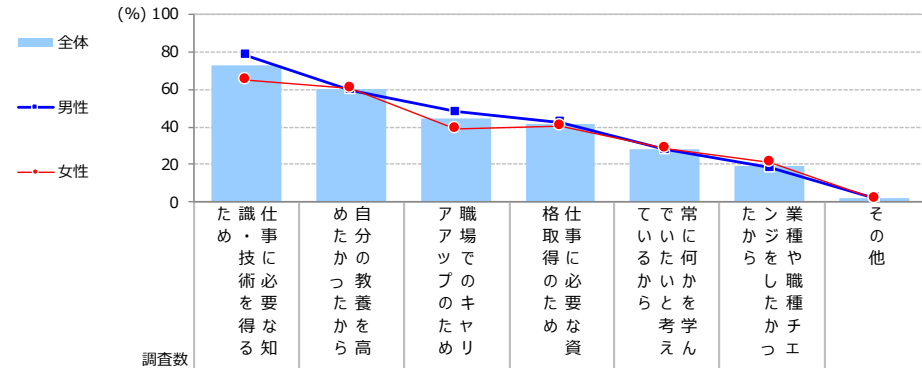
✓職業有無別にみると、有職者以外は「常に何かを学んでいたいと考えているから」が有職者に比べて高い。

✓業種別にみると、「仕事に必要な資格取得のため」は建設業、運輸業、金融・保険業、不動産業でのスコアが全体に比べて高い。「職場でのキャリアアップのため」は、製造業、運輸業でのスコアが高い。

✓職種別にみると、財務・経理関連は「仕事に必要な知識・技術を得るため」「仕事に必要な資格取得のため」、企画・マーケティング関連は「仕事に必要な知識・技術を得るため」、技術・研究開発は、「職場でのキャリアアップのため」「仕事に必要な資格取得のため」のスコアが全体に比べて高い。

●社会人になって学んだ理由 [基本属性別] (卒業生・社会人になってから学んだ/複数回答)

Q2 あなたが、社会人になってから学んだ(学び直しをした)理由・目的にあてはまるものをすべてお選び下さい。



		調査数	1	2	3	4	5	6	7
全体		1,533	72.4	59.8	44.2	41.6	28.1	19.4	2.2
性年代別	男性	887	78.0	59.5	47.9	42.3	28.0	18.3	2.3
	男性20代	234	73.1	57.7	44.9	40.2	33.3	22.6	2.1
	男性30代	273	81.3	60.1	48.7	40.7	25.6	18.7	1.8
	男性40代	298	81.2	58.4	51.3	49.0	25.5	13.1	1.7
	男性50代	64	76.6	62.5	46.9	32.8	25.0	23.4	4.7
	女性	646	64.7	60.2	39.2	40.7	28.3	21.1	2.0
	女性20代	257	65.8	59.1	37.4	38.5	28.0	18.3	1.2
女性30代	197	62.9	65.5	41.1	42.6	31.5	15.2	1.0	
女性40代	154	64.3	56.5	37.0	43.5	22.1	32.5	3.2	
女性50代	32	75.0	62.5	53.1	34.4	40.6	25.0	6.3	
居住地別	一都三県	1,243	73.0	59.7	45.4	42.3	27.5	19.9	2.1
	埼玉県	133	74.4	59.4	45.1	48.1	22.6	24.8	1.5
	千葉県	111	65.8	60.4	39.6	45.9	30.6	16.2	1.8
	東京都	788	73.9	59.6	46.8	39.3	28.0	18.5	2.5
	神奈川県	211	72.5	59.7	43.1	47.9	27.0	23.7	0.9
	一都三県以外	290	70.0	60.3	39.3	38.6	30.7	17.6	2.4

※全体と比較して ■ 10pt以上高い ■ 5pt以上高い ■ -5pt以上低い

※全体の降順ソート。

● 社会人になって学んだ理由 [卒業学部／研究科別・就業状況別] (卒業生・社会人になってから学んだ／複数回答)

	調査数	た 識 仕 め 事 技 に 術 必 を 要 得 な る 知	め 自 た 分 か の っ 教 た 養 か を ら 高	ア 職 ア 場 ッ で ブ の た ヤ め り	格 仕 取 事 得 に の 必 た 要 め な 資	て で 常 い い に る た 何 か い か ら と 考 え 学 え ん	た ン 業 か ジ 種 ら を や し 職 た 種 か チ っ エ	そ の 他	
全体	1,533	72.4	59.8	44.2	41.6	28.1	19.4	2.2	
卒業学部／ 研究科別	学部・計	1,301	72.3	59.0	44.8	43.4	26.5	18.5	1.6
	文学部	264	71.6	60.6	36.7	39.0	31.4	21.2	1.1
	経済学部	263	76.0	53.6	47.1	48.7	25.5	14.1	1.5
	理学部	111	77.5	61.3	53.2	41.4	26.1	20.7	2.7
	社会学部	186	71.5	57.5	43.5	42.5	22.0	16.7	2.2
	法学部	222	72.5	59.5	54.1	49.1	28.4	19.8	1.4
	観光学部	75	69.3	58.7	42.7	40.0	18.7	17.3	1.3
	コミュニケーション福祉学部	57	70.2	64.9	35.1	42.1	28.1	12.3	3.5
	経営学部	58	70.7	60.3	46.6	34.5	24.1	20.7	—
	現代心理学部	48	60.4	66.7	35.4	43.8	33.3	33.3	2.1
	研究科・計	232	72.8	64.2	40.9	31.9	37.1	24.6	5.2
	ビジネスデザイン研究科	76	81.6	71.1	43.4	22.4	30.3	31.6	2.6
職業有無別	有職者・計	1,391	74.5	59.9	46.2	42.6	26.9	19.0	1.7
	有職者以外・計	142	52.1	59.2	24.6	31.7	40.1	23.9	6.3
業種別	建設業	31	71.0	41.9	45.2	77.4	12.9	19.4	3.2
	製造業	196	81.6	65.3	55.6	33.7	25.5	12.2	0.5
	情報通信業	239	80.3	55.6	54.0	49.0	25.9	18.0	1.3
	運輸業	42	73.8	66.7	66.7	52.4	21.4	11.9	2.4
	卸売・小売業	88	60.2	59.1	47.7	44.3	30.7	23.9	—
	金融・保険業	139	79.1	48.9	48.2	66.9	23.7	12.9	2.2
	不動産業	33	66.7	33.3	51.5	69.7	18.2	15.2	—
	医療・福祉	54	70.4	59.3	42.6	40.7	27.8	24.1	3.7
	教育・学習支援	155	71.0	68.4	39.4	29.7	31.6	20.6	3.2
	その他サービス業	199	74.4	64.3	40.7	37.7	26.1	24.6	1.5
	官公庁・自治体・公共団体	99	64.6	61.6	28.3	25.3	33.3	23.2	2.0
職種別	総務・法務・人事・広報関連	168	81.0	58.3	46.4	42.9	25.0	13.7	0.6
	財務・経理関連	61	90.2	55.7	52.5	63.9	36.1	21.3	3.3
	企画・マーケティング関連	203	83.3	63.5	54.2	33.5	28.6	16.7	2.0
	その他事務系	251	62.2	61.8	37.5	39.8	23.1	24.3	0.4
	営業	248	69.8	56.0	47.2	44.8	23.4	16.5	0.4
	販売・サービス	73	57.5	63.0	38.4	37.0	30.1	20.5	1.4
	技術・研究開発	179	79.9	52.0	55.3	54.2	24.6	13.4	1.7
	その他	208	77.9	66.8	40.9	38.0	33.7	25.5	5.3
学びの 必要性別	とても必要	1,130	76.7	63.2	48.6	41.9	32.7	21.6	1.9
	ある程度は必要	358	62.8	50.0	34.4	43.6	14.2	13.7	1.7
	態度保留以下・計	45	40.0	53.3	13.3	17.8	22.2	11.1	11.1

※全体と比較して ■ 10pt以上高い ■ 5pt以上高い ■ -5pt以上低い

※全体の降順ソート。

C. 【卒業生】社会人の学びに関する認識 4. 必要性の認識の理由（自由回答より）

・ 必要な理由

✓技術／社会は変化・進化するので学び続けることが必要

- ・ 技術であったり、そのときのトレンドは急速に大きく変わるため(男性, 29歳, 文学部, 社会人の学びの必要性: とても必要)
- ・ かつてよりも速い速度で社会が変化する時代になり、会社勤めだけでは良質なインプットを手に入れることができない。自己研鑽または企業外での人事交流を通し、新しい発想や考え、学びを得る必要があり、その結果本業にも良い効果があると考えている。(女性, 32歳, 文学部, 社会人の学びの必要性: とても必要)
- ・ 社会は常に新しくなるため。大学まででは学びきれないことが多くあるため。(女性, 23歳, 文学部, 社会人の学びの必要性: とても必要)
- ・ 終身雇用の時代ではなく、またICT関連技術の急激な進歩とグローバル化により必要なスキルと思考方法、行動様式などが急激に変化することに伴い、社会自体が大幅に変化しているため。(男性, 53歳, 理学研究科, 社会人の学びの必要性: ある程度は必要)
- ・ 私がシステムエンジニアであることも影響していますが、どんどん新しくなっていく技術についていくためです。また、「新しいことを学ぶ=新しいことを受け入れること」と考えたとき、新しいこと学ばず拒絶していると、どんなに有用でもどこかに抵抗感があって活用できなかつたり、自身の知っている知識の範囲で解決しようと固執してしまう可能性があるから。(男性, 25歳, 経済学部, 社会人の学びの必要性: とても必要)
- ・ 私の場合はウェブサイト構築の技術を学ぶことで感じましたが、勉強すればするほど新しい情報、技術はあふれており、追うのをやめた段階からの情報やスキルの乖離は想像以上のスピードで始まるという危機感があるからです。(男性, 36歳, 経済学部, 社会人の学びの必要性: とても必要)

✓自身の成長のため

- ・ 社会人の勉強はキャリアアップに直結するから。(男性, 28歳, 文学部, 社会人の学びの必要性: とても必要)
- ・ 新しい知識が身につく事で、毎日新しい気持ちで過ごせる。成長実感が得られる。加齢と共に退化している、と思いたくないから。(女性, 31歳, 文学部, 社会人の学びの必要性: とても必要)

✓学ぶこと自体に意義がある・人生を豊かにする

- ・ 学ぶことは生きることそのものであるし、学びを辞めた人間は往々にして横柄で傲慢なことが多い。しかし学び続けている人は生き生きし、謙虚で深みのあることが多い。(男性, 27歳, 文学部, 社会人の学びの必要性: とても必要)
- ・ 人生のそれぞれのステージに必要な学びは違うので、学び続けることが重要と考えるため。(男性, 39歳, 文学部, 社会人の学びの必要性: とても必要)
- ・ どの業界においても常に求められる知識は発展し続ける。また、属した業界のみの知識を得たところで頭打ちが必ずある。つねに全方面での知識を得ていくことを心掛ける必要がある。(女性, 28歳, 文学部, 社会人の学びの必要性: とても必要)
- ・ 専業主婦となった今、自分には何も無いと感じてしまう。キャリアのブランクを埋めるため、アイデンティティのために必要と感じる。(女性, 38歳, 文学部, 社会人の学びの必要性: とても必要)
- ・ 知識を知恵として使うことは、仕事に役立つだけでなく、人生そのものを豊かにするから。(男性, 27歳, 経済学部, 社会人の学びの必要性: とても必要)
- ・ 学生時代に見ている世界はとても狭く、社会に出てから知る事や、興味を持つ事はとても多く、学びたいと思う事が新たに出てくるから。また学ぶ事でさらに視野が広がり、人生が豊かになるため。(女性, 34歳, 経済学部, 社会人の学びの必要性: とても必要)
- ・ 技術革新のスピードについていくため マーケットでの自分の価値を維持向上させる必要があるため(女性, 41歳, 経済学部, 社会人の学びの必要性: とても必要)

●

D. 【卒業生】新研究科評価

●

●

D. 【卒業生】新研究科評価 1. 入学意向

- 新研究科への入学意向について、「ぜひ入学したい」は14%、「入学したい」(10%)まであわせた「入学意向あり・計」は24%。
- さらに「入学を検討するかもしれない」(41%)まであわせた「進学検討意向あり・計」は65%。

※以下、「入学意向あり・計」のスコアを属性別にみる。

- ✓性別にみると、男性(29%)が女性(17%)に比べて高い。
 - 性年代別にみると、男性は若年層ほどスコアが高い。女性では、50代が他の年代に比べて高い。
- ✓卒業学部／研究科別にみると、理学部は33%と他学部比べて高い。
- ✓職業有無別にみると、「入学意向あり・計」は大きな差異はみられないが、「ぜひ入学したい」および「進学検討意向あり・計」のスコアは、有職者以外に比べて、有職者が高い。
- ✓業種別にみると、情報通信業が他業種に比べて高い。
 - 情報通信業と、運輸業は「ぜひ入学したい」が20%超と他業種に比べて高い。
- ✓職種別にみると、技術・研究開発が、他職種に比べて高い。

●新研究科への入学意向 [基本属性別] (卒業生全体／単一回答)

Q7 お読みいただいた新研究科に、あなたはどの程度入学したいと思いますか。(仕事やご家庭の事情は含まず、「通える状況だったとしたら」と仮定し、お答えください)

	凡例	進学検討意向あり・計			入学意向なし・計	
		入学意向あり・計		入学を検討する かもしれない	入学したいと思わ ない	まったく入学した いと思わない
		ぜひ入学したい	入学したい			
全体 (n=1,655)		13.8%	9.9	41.3	27.3	7.7
性年代別	男性 (n= 952)	18.0	11.1	41.5	22.6	6.8
	男性20代 (n= 252)	19.0	14.7	40.1	17.9	8.3
	男性30代 (n= 290)	19.0	9.7	40.7	25.2	5.5
	男性40代 (n= 318)	16.7	10.4	44.3	22.6	6.0
	男性50代 (n= 74)	14.9	6.8	39.2	28.4	10.8
	女性 (n= 703)	8.3	8.3	41.1	33.6	8.8
	女性20代 (n= 288)	7.6	8.3	41.3	33.7	9.0
	女性30代 (n= 214)	9.8	7.9	36.0	37.4	8.9
	女性40代 (n= 163)	7.4	6.7	48.5	29.4	8.0
	女性50代 (n= 32)	9.4	12.5	40.6	34.4	3.1
居住地別	一都三県 (n=1,344)	13.8	9.3	41.9	27.9	7.1
	埼玉県 (n= 149)	17.4	9.4	42.3	26.8	4.0
	千葉県 (n= 121)	10.7	10.7	41.3	27.3	9.9
	東京都 (n= 856)	12.7	8.8	42.8	28.0	7.7
	神奈川県 (n= 218)	17.0	10.6	38.5	28.4	5.5
	一都三県以外 (n= 311)	14.1	12.5	38.9	24.4	10.0

※全体と比較して ■ 10pt以上高い ■ 5pt以上高い ■ -5pt以上低い

入学意向者出現数(人)

進学検討意向あり・計	入学意向あり・計	入学意向なし・計	入学意向者出現数(人)		
			入学意向あり・計	ぜひ入学したい	入学したい
65.1	23.7	34.9	393	229	164
70.6	29.1	29.4	277	171	106
73.8	33.7	26.2	85	48	37
69.3	28.6	30.7	83	55	28
71.4	27.0	28.6	86	53	33
60.8	21.6	39.2	16	11	5
57.6	16.5	42.4	116	58	58
57.3	16.0	42.7	46	22	24
53.7	17.8	46.3	38	21	17
62.6	14.1	37.4	23	12	11
62.5	21.9	37.5	7	3	4
65.0	23.1	35.0	310	185	125
69.1	26.8	30.9	40	26	14
62.8	21.5	37.2	26	13	13
64.3	21.5	35.7	184	109	75
66.1	27.5	33.9	60	37	23
65.6	26.7	34.4	83	44	39

●新研究科への入学意向 [卒業学部／研究科別・就業状況別] (卒業生全体／単一回答)

入学意向者出現数(人)

		n	入学検討意向あり・計			入学意向なし・計		
			入学意向あり・計			入学したいと思わない	まったく入学したいと思わない	
			ぜひ入学したい	入学したい	入学を検討するかもしれない			
●凡例								
全体		(n=1,655)	13.8%	9.9	41.3	27.3	7.7	
卒業学部／研究科別	学部・計	(n=1,415)	13.0	10.3	42.5	27.3	6.9	
	文学部	(n= 278)	6.8	10.8	45.7	29.9	6.8	
	経済学部	(n= 286)	14.3	11.5	44.1	26.2	3.8	
	理学部	(n= 125)	20.0	12.8	47.2	15.2	4.8	
	社会学部	(n= 205)	11.7	11.2	40.5	28.3	8.3	
	法学部	(n= 241)	14.9	8.3	39.0	29.5	8.3	
	観光学部	(n= 82)	12.2	11.0	37.8	29.3	9.8	
	コミュニティ福祉学部	(n= 60)	16.7	3.3	35.0	35.0	10.0	
	経営学部	(n= 65)	13.8	7.7	38.5	30.8	9.2	
	現代心理学部	(n= 53)	15.1	13.2	47.2	20.8	3.8	
	研究科・計	(n= 240)	18.8	7.5	34.6	26.7	12.5	
	ヒューマンデザイン研究科	(n= 76)	19.7	5.3	48.7	21.1	5.3	
職業有無別	有職者・計	(n=1,504)	14.2	9.6	42.1	26.7	7.3	
	有職者以外・計	(n= 151)	9.9	12.6	33.8	32.5	11.3	
業種別	建設業	(n= 34)	17.6	2.9	35.3	35.3	8.8	
	製造業	(n= 214)	9.8	10.3	47.7	23.4	8.9	
	情報通信業	(n= 254)	20.5	9.8	46.9	19.7	3.1	
	運輸業	(n= 43)	20.9	2.3	46.5	27.9	2.3	
	卸売・小売業	(n= 98)	12.2	10.2	46.9	22.4	8.2	
	金融・保険業	(n= 150)	14.7	10.7	47.3	21.3	6.0	
	不動産業	(n= 33)	12.1	12.1	51.5	18.2	6.1	
	医療・福祉	(n= 59)	16.9	3.4	35.6	37.3	6.8	
	教育・学習支援	(n= 167)	13.8	9.0	33.5	33.5	10.2	
	その他サービス業	(n= 213)	14.1	8.9	38.5	30.0	8.5	
	官公庁・自治体・公共団体	(n= 107)	6.5	13.1	35.5	34.6	10.3	
	職種別	総務・法務・人事・広報関連	(n= 177)	11.3	13.0	39.0	31.1	5.6
		財務・経理関連	(n= 67)	13.4	9.0	46.3	22.4	9.0
		企画・マーケティング関連	(n= 215)	13.5	6.5	51.6	23.3	5.1
		その他事務系	(n= 277)	11.6	11.2	34.7	35.0	7.6
営業		(n= 275)	16.0	10.5	46.2	23.3	4.0	
販売・サービス		(n= 81)	12.3	3.7	39.5	34.6	9.9	
技術・研究開発		(n= 187)	21.4	8.6	46.0	16.6	7.5	
その他		(n= 225)	13.3	10.2	36.0	27.6	12.9	
学びの必要性別		とても必要	(n=1,177)	17.2	11.0	41.0	24.6	6.1
ある程度は必要	(n= 416)	6.3	7.2	44.0	32.7	9.9		
態度保留以下・計	(n= 62)	8.1	29.0	40.3	22.6			

※全体と比較して ■ 10pt以上高い ■ 5pt以上高い ■ -5pt以上低い

入学検討意向あり・計	入学意向あり・計	入学意向なし・計	入学意向者出現数(人)		
			進学意向あり・計	ぜひ入学したい	入学したい
65.1	23.7	34.9	393	229	164
65.8	23.3	34.2	330	184	146
63.3	17.6	36.7	49	19	30
69.9	25.9	30.1	74	41	33
80.0	32.8	20.0	41	25	16
63.4	22.9	36.6	47	24	23
62.2	23.2	37.8	56	36	20
61.0	23.2	39.0	19	10	9
55.0	20.0	45.0	12	10	2
60.0	21.5	40.0	14	9	5
75.5	28.3	24.5	15	8	7
60.8	26.3	39.2	63	45	18
73.7	25.0	26.3	19	15	4
66.0	23.9	34.0	359	214	145
56.3	22.5	43.7	34	15	19
55.9	20.6	44.1	7	6	1
67.8	20.1	32.2	43	21	22
77.2	30.3	22.8	77	52	25
69.8	23.3	30.2	10	9	1
69.4	22.4	30.6	22	12	10
72.7	25.3	27.3	38	22	16
75.8	24.2	24.2	8	4	4
55.9	20.3	44.1	12	10	2
56.3	22.8	43.7	38	23	15
61.5	23.0	38.5	49	30	19
55.1	19.6	44.9	21	7	14
63.3	24.3	36.7	43	20	23
68.7	22.4	31.3	15	9	6
71.6	20.0	28.4	43	29	14
57.4	22.7	42.6	63	32	31
72.7	26.5	27.3	73	44	29
55.6	16.0	44.4	13	10	3
75.9	29.9	24.1	56	40	16
59.6	23.6	40.4	53	30	23
69.2	28.2	30.8	332	203	129
57.5	13.5	42.5	56	26	30
37.1	8.1	62.9	5	—	5

立教大学大学院設置受容性調査_自由回答集 [在校生]

D. 【卒業生】新研究科評価 2. 立教が設置することへの評価

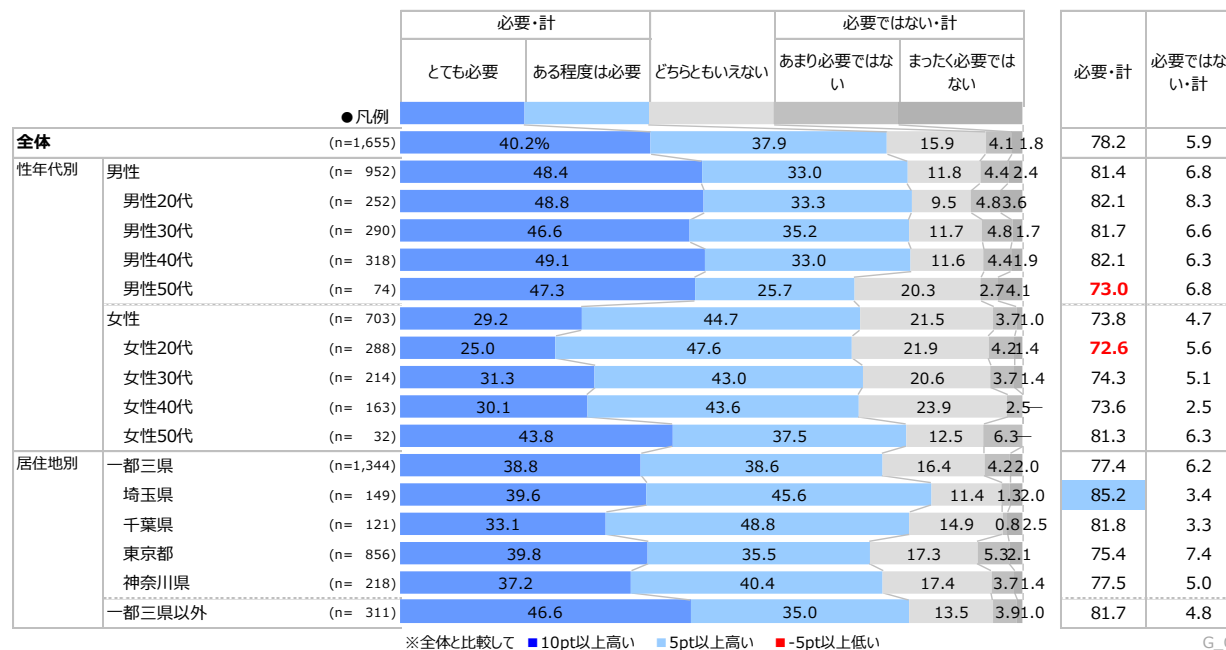
- 新研究科設置を立教大学が計画していることについて、「とても必要」は40%、「ある程度は必要」(38%)まであわせると、78%が必要と回答。

※以下、「とても必要」のスコアを属性別にみる。

- 性別にみると、男性（48%）が女性（29%）に比べて高い。
 - 性年代別にみると、男性はいずれの年代も40%台後半のスコア。女性は50代において44%と評価が高い。
- 卒業学部／研究科別にみると、経営学部、経済学部、理学部、ビジネスデザイン研究科が高い。
- 職業有無別にみると、有職者が、有職者以外に比べて高い。
- 業種別にみると、金融・保険業、情報通信業、運輸業が高い。
- 職種別にみると、営業、財務・経理関連、技術・研究開発が高い。

●立教が設置することへの評価 [基本属性別] (卒業生全体／単一回答)

Q4 説明文にある新研究科の設置を、立教大学が計画していることについてどのように思いますか。



●立教が設置することへの評価 [卒業学部／研究科別・就業状況別] (卒業生全体／単一回答)

		必要・計	必要ではない・計		必要・計	必要ではない・計	
			とても必要	ある程度は必要			どちらともいえない
●凡例							
全体	(n=1,655)	40.2%	37.9	15.9	4.1	1.8	
卒業学部／研究科別	学部・計	(n=1,415)	40.6	38.5	15.9	3.7	1.2
	文学部	(n= 278)	34.2	41.0	20.5	3.2	1.1
	経済学部	(n= 286)	47.6	35.7	12.6	3.8	0.3
	理学部	(n= 125)	47.2	32.8	14.4	5.6	—
	社会学部	(n= 205)	42.9	38.5	15.1	2.0	1.5
	法学部	(n= 241)	36.5	39.4	18.7	3.3	2.1
	観光学部	(n= 82)	37.8	43.9	13.4	2.4	2.4
	コミュニケーション福祉学部	(n= 60)	41.7	30.0	18.3	8.3	1.7
	経営学部	(n= 65)	49.2	33.8	10.8	4.6	1.5
	現代心理学部	(n= 53)	26.4	54.7	15.1	3.8	—
	研究科・計	(n= 240)	37.9	34.6	15.8	6.3	5.4
	ビジネスデザイン研究科	(n= 76)	46.1	34.2	14.5	3.9	1.3
職業有無別	有職者・計	(n=1,504)	40.7	38.2	15.5	4.0	1.7
	有職者以外・計	(n= 151)	35.8	35.8	19.9	5.3	3.3
業種別	建設業	(n= 34)	35.3	50.0	5.9	8.8	—
	製造業	(n= 214)	38.8	40.7	14.0	4.7	1.9
	情報通信業	(n= 254)	49.6	35.0	12.2	2.0	1.2
	運輸業	(n= 43)	46.5	34.9	14.0	2.3	2.3
	卸売・小売業	(n= 98)	34.7	46.9	14.3	3.1	1.0
	金融・保険業	(n= 150)	52.0	32.7	10.0	4.0	1.3
	不動産業	(n= 33)	39.4	42.4	15.2	3.0	—
	医療・福祉	(n= 59)	27.1	55.9	11.9	5.1	—
	教育・学習支援	(n= 167)	38.9	34.7	18.6	4.2	3.6
	その他サービス業	(n= 213)	33.8	40.8	20.2	3.8	1.4
	官公庁・自治体・公共団体	(n= 107)	38.3	33.6	24.3	3.7	—
職種別	総務・法務・人事・広報関連	(n= 177)	39.5	39.5	14.1	5.6	1.1
	財務・経理関連	(n= 67)	46.3	44.8	4.5	3.0	1.5
	企画・マーケティング関連	(n= 215)	39.1	40.9	14.9	2.8	2.3
	その他事務系	(n= 277)	33.6	38.3	22.4	4.0	1.8
	営業	(n= 275)	48.7	36.7	11.6	1.8	1.1
	販売・サービス	(n= 81)	28.4	46.9	16.0	7.4	1.2
	技術・研究開発	(n= 187)	45.5	33.2	15.0	4.3	2.1
	その他	(n= 225)	40.9	35.1	16.9	5.3	1.8
新研究科 進学意向別	ぜひ入学したい	(n= 229)	79.5	15.7	3.9	0.9	—
	入学したい	(n= 164)	62.2	32.3	4.9	0.6	—
	入学検討意向あり	(n= 684)	42.8	44.6	10.7	1.6	0.3
	入学意向なし・計	(n= 578)	15.4	40.5	29.9	9.3	4.8

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い

D. 【卒業生】新研究科評価 3. 新研究科への興味関心

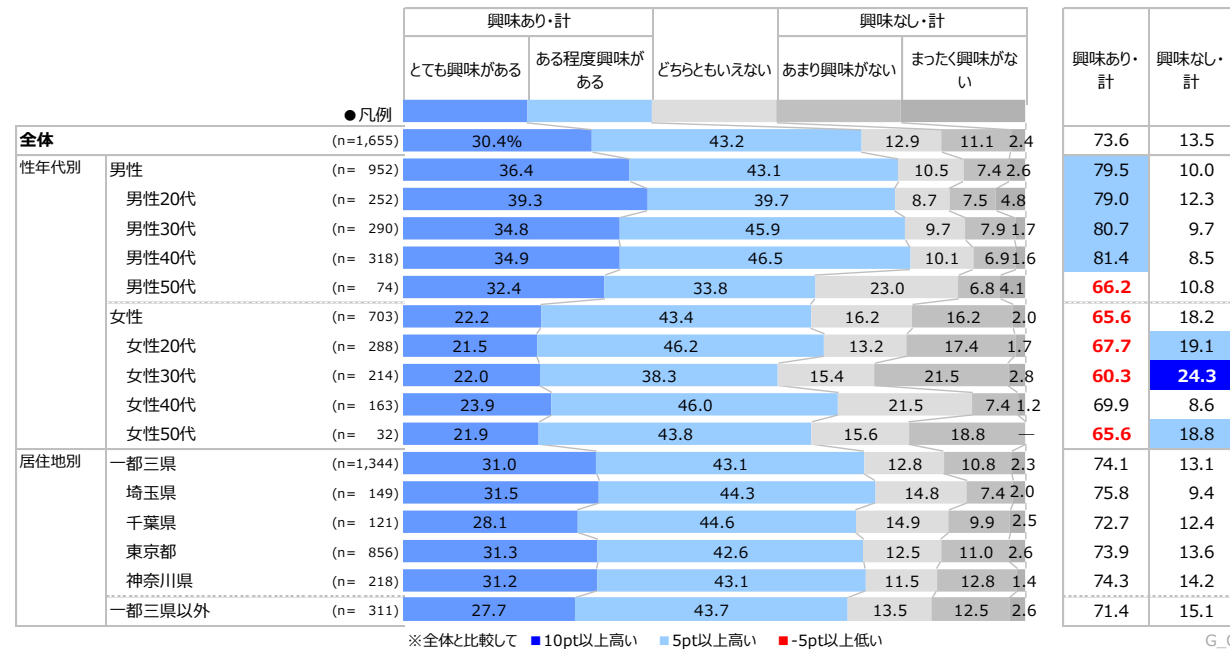
- 新研究科に対して、「とても興味がある」は30%、「ある程度興味がある」(43%)まであわせると、74%が興味があると回答。

※以下、「とても興味がある」のスコアを属性別にみる。

- ✓性別にみると、男性（36%）が女性（22%）に比べて高い。
 - ・性年代別にみると、男性は若干だが若年層ほど高い傾向がみられる。
- ✓卒業学部／研究科別にみると、理学部、ビジネスデザイン研究科、経営学部が高い。
- ✓職業有無別にみると、有職者は有職者以外に比べて若干だが高い。
- ✓業種別にみると、情報通信業は「とても興味がある」が44%と突出。
- ✓職種別にみると、技術・研究開発が高い。

●新研究科への興味関心 [基本属性別] (卒業生全体／単一回答)

Q5 あなたはどの程度この新研究科に対して興味を持ちましたか。



●新研究科への興味関心 [卒業学部／研究科別・就業状況別] (卒業生全体／単一回答)

		興味あり・計			興味なし・計			興味あり・計	興味なし・計
		とても興味がある	ある程度興味がある	どちらともいえない	あまり興味がない	まったく興味がない			
●凡例									
全体	(n=1,655)	30.4%	43.2	12.9	11.1	2.4	73.6	13.5	
卒業学部／研究科別	学部・計	(n=1,415)	29.3	44.0	13.6	11.2	1.8	73.4	13.0
	文学部	(n= 278)	24.5	45.7	16.5	11.9	1.4	70.1	13.3
	経済学部	(n= 286)	29.0	49.3	11.2	9.8	0.7	78.3	10.5
	理学部	(n= 125)	44.0	40.8	8.8	5.6	0.8	84.8	6.4
	社会学部	(n= 205)	27.8	43.9	13.7	13.2	1.5	71.7	14.6
	法学部	(n= 241)	29.5	37.3	16.2	14.1	2.9	66.8	17.0
	観光学部	(n= 82)	24.4	47.6	13.4	11.0	3.7	72.0	14.6
	コミュニケーション福祉学部	(n= 60)	21.7	45.0	16.7	13.3	3.3	66.7	16.7
	経営学部	(n= 65)	40.0	35.4	10.8	10.8	3.1	75.4	13.8
	現代心理学部	(n= 53)	32.1	52.8	7.5	7.5	—	84.9	7.5
	研究科・計	(n= 240)	36.7	38.3	8.8	10.4	5.8	75.0	16.3
ビジネスデザイン研究科	(n= 76)	42.1	34.2	11.8	10.5	1.3	76.3	11.8	
職業有無別	有職者・計	(n=1,504)	30.9	43.4	12.8	10.8	2.2	74.3	13.0
	有職者以外・計	(n= 151)	25.8	41.1	14.6	14.6	4.0	66.9	18.5
業種別	建設業	(n= 34)	20.6	47.1	23.5	5.9	2.9	67.6	8.8
	製造業	(n= 214)	29.9	43.0	14.0	10.7	2.3	72.9	13.1
	情報通信業	(n= 254)	44.1	40.9	8.7	5.1	1.2	85.0	6.3
	運輸業	(n= 43)	30.2	46.5	9.3	11.6	2.3	76.7	14.0
	卸売・小売業	(n= 98)	29.6	49.0	11.2	8.2	2.0	78.6	10.2
	金融・保険業	(n= 150)	33.3	49.3	8.7	8.0	0.7	82.7	8.7
	不動産業	(n= 33)	33.3	42.4	15.2	6.1	3.0	75.8	9.1
	医療・福祉	(n= 59)	32.2	39.0	15.3	11.9	1.7	71.2	13.6
	教育・学習支援	(n= 167)	23.4	43.1	18.6	11.4	3.6	66.5	15.0
	その他サービス業	(n= 213)	26.3	43.7	11.3	16.0	2.8	70.0	18.8
	官公庁・自治体・公共団体	(n= 107)	22.4	44.9	15.0	15.9	1.9	67.3	17.8
職種別	総務・法務・人事・広報関連	(n= 177)	23.7	52.5	10.7	11.3	1.7	76.3	13.0
	財務・経理関連	(n= 67)	31.3	50.7	11.9	1.5	4.5	82.1	6.0
	企画・マーケティング関連	(n= 215)	34.4	44.2	11.2	8.8	1.4	78.6	10.2
	その他事務系	(n= 277)	22.4	43.0	16.2	16.6	1.8	65.3	18.4
	営業	(n= 275)	34.9	42.5	12.4	8.7	1.5	77.5	10.2
	販売・サービス	(n= 81)	14.8	49.4	12.3	19.8	3.7	64.2	23.5
	技術・研究開発	(n= 187)	43.9	38.5	9.1	5.9	2.7	82.4	8.6
	その他	(n= 225)	33.3	36.9	15.6	11.1	3.1	70.2	14.2
新研究科進学意向別	ぜひ入学したい	(n= 229)	—	87.3	—	12.2	0.4	99.6	—
	入学したい	(n= 164)	50.0	—	47.0	—	1.8	97.0	1.2
	入学検討意向あり	(n= 684)	27.6	60.4	—	9.6	2.0	88.0	2.3
	入学意向なし・計	(n= 578)	5.5	34.1	24.9	28.9	6.6	39.6	35.5

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い

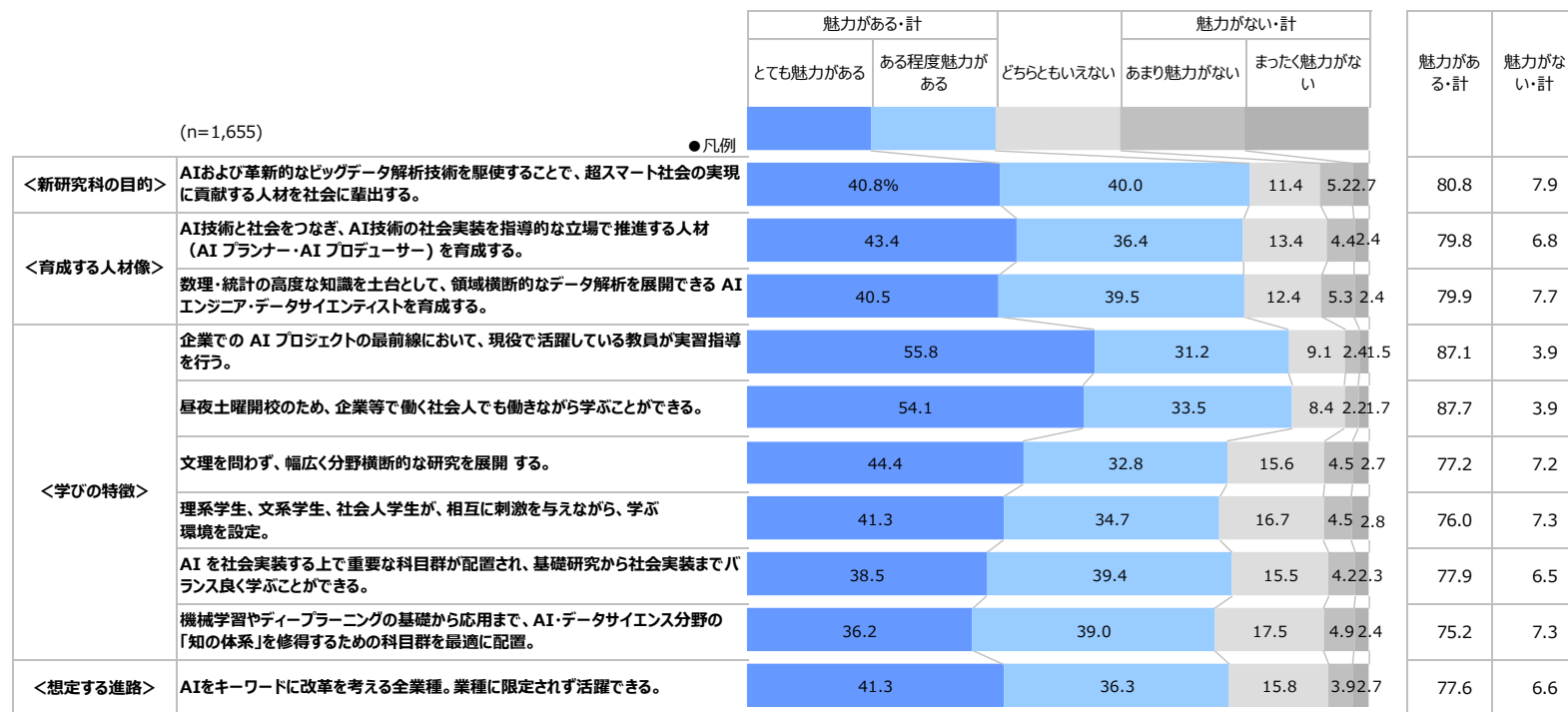
D. 【卒業生】新研究科評価 4. 個別魅力評価

- 個別魅力評価について「とても魅力がある」をみると、次の項目が55%前後のスコアでトップ2。
 『企業での AI プロジェクトの最前線において、現役で活躍している教員が実習指導を行う。』
 『昼夜土曜開校のため、企業等で働く社会人でも働きながら学ぶことができる。』

✓ <新研究科の目的> <育成する人材像> <想定する進路> の項目については、いずれも40%超が「とても魅力がある」と回答。

●個別魅力評価（卒業生全体／各単一回答）

Q6 以下は、先ほどお読みいただいた資料に記載された「新研究科の特徴」です。それぞれについて、どの程度魅力を感じますか。



※カテゴリごとに「とても魅力がある」の降順ソート。

G_Q6_MTS

※個別魅力評価の「とても興味がある」のスコアを属性別にみる。

✓性別にみると、男性は<新研究科の目的> <育成する人材像> の評価が女性に比べて高い。

・性年代別にみると、女性50代は全般に評価が高い。特に文理を問わない研究環境・学ぶ環境が魅力的だと評価している。

✓卒業学部／研究科別にみると、理学部は<新研究科の目的>、“AI エンジニア・データサイエンティストを育成”、および“[知の体系]の習得”に関する項目を評価。経営学部は“現役で活躍している教員の実習指導”、ビジネスデザイン研究科は“理系・文系・社会人学生が相互に刺激を与えながら学ぶ環境”を評価している。

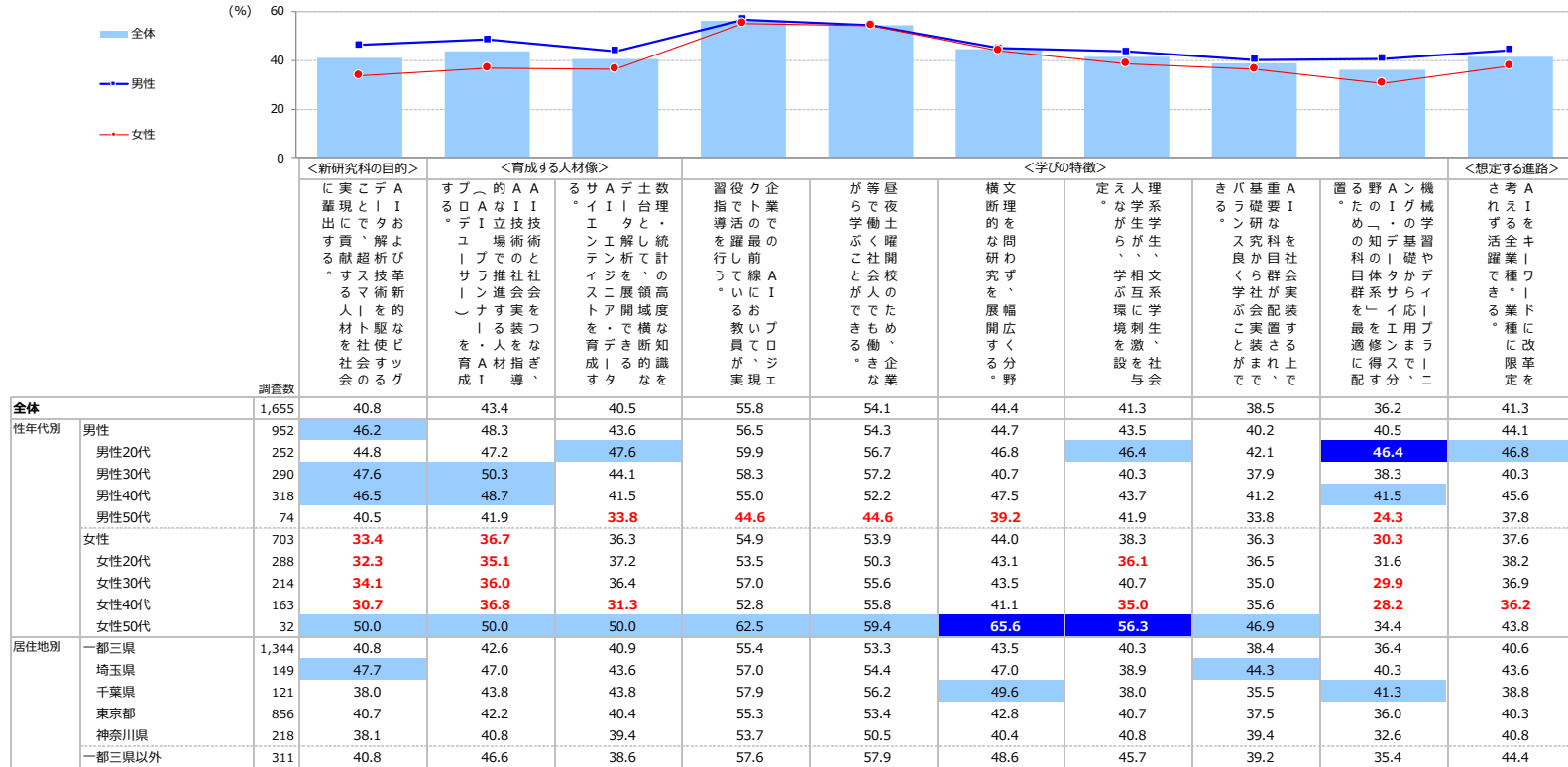
✓職業有無別にみると、有職者は有職者以外に比べて若干だが高い項目が多い。

✓業種別にみると、情報通信業は、“AI エンジニア・データサイエンティストを育成”、“[知の体系]の習得”を評価、金融・保険業は<新研究科の目的>と“AI エンジニア・データサイエンティストを育成”、不動産業は、“AI エンジニア・データサイエンティストを育成”、“幅広く分野横断的な研究”、<想定する進路>の評価がそれぞれ高い。

✓職種別にみると、財務・経理関連は、“AI エンジニア・データサイエンティストを育成”、“幅広く分野横断的な研究”、“基礎研究から社会実装まで学べる”、営業は<新研究科の目的>、技術・研究開発は、“AI エンジニア・データサイエンティストを育成”、“[知の体系]の習得”の評価がそれぞれ高い。

●個別魅力評価「とても魅力がある」一覧 [基本属性別] (卒業生全体/各単一回答)

Q6 以下は、先ほどお読みいただいた資料に記載された「新研究科の特徴」です。それぞれについて、どの程度魅力を感じますか。



※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■5pt以上低い

※カテゴリごとに全体の降順ソート。

●個別魅力評価・「とても魅力がある」一覧 [卒業学部／研究科別・就業状況別] (卒業生全体／各単一回答)

	調査数	<新研究科の目的>			<育成する人材像>			<学びの特徴>				<想定する進路>
		に實こデA 現とI I 出にでタお す貢、解よ 献超析び 。すス技革 るマ術新 人Iを的 材ト服な を社便な を社便な ののグ	すブ、的A A るロAなI I 。デI立技技 ユI解しての ーサランナ す推進社会 ー)の装つ を、人材を 育A材指ぎ 成I導、	るサAデ士数 。I I I台理 エIと、統 テI折ての ィS二展領度 トAで横な 育デき断知 成Iする識 すタなを	習役ク企 指でト業 導活の を確最の 行して前線A う。にI 。教い 員てP が、ジ 実現エ	が等昼 学で夜 らで働 ぶく土 こと曜 が社開 と校の が人た でめ も働、 き企 な業	横文 断理 的を な問 研わ 究を 展幅 開広 すく 分。野	定え人理 な学系 が生学 ラが生、 学相文 ぶ互系 環に学 境刺生 を激、 設を社 と与	きバ基重A るラう礎要I 。研なを ス良から目 く学社社会 ぶ会実 こと実置 と装る上 がま、で	置る野A 。たのI G の知、の 科のI、 目系サから を「一I応I を最を工用 に得入ま 配す分、二	さ考A れるI を活全キ 躍業I で種ワ 。種 。ド に改 限革 を	
全体	1,655	40.8	43.4	40.5	55.8	54.1	44.4	41.3	38.5	36.2	41.3	
卒業学部	1,415	40.9	43.1	40.3	56.5	53.6	43.1	39.7	38.0	35.5	41.1	
研究科別	278	36.7	34.9	34.5	54.7	51.8	47.1	40.6	40.6	36.0	38.5	
経済学部	286	42.7	48.3	46.5	57.7	54.5	43.4	40.9	38.8	40.2	46.5	
理学部	125	52.0	49.6	57.6	64.8	54.4	39.2	44.0	40.0	48.0	45.6	
社会学部	205	40.5	43.9	37.6	54.6	51.7	42.4	38.0	34.1	30.2	39.5	
法学部	241	39.8	43.6	34.0	52.7	57.3	39.8	36.9	35.3	32.8	33.6	
観光学部	82	41.5	48.8	37.8	50.0	47.6	40.2	32.9	32.9	28.0	42.7	
ミニイ福祉学部	60	40.0	38.3	36.7	58.3	53.3	45.0	45.0	43.3	31.7	46.7	
経営学部	65	47.7	47.7	40.0	66.2	50.8	43.1	41.5	36.9	40.0	44.6	
現代心理学部	53	28.3	32.1	47.2	62.3	62.3	50.9	41.5	45.3	24.5	41.5	
研究科・計	240	40.0	45.0	41.7	52.1	57.1	52.1	50.4	42.1	40.0	42.5	
ビジネス研究科	76	42.1	44.3	40.8	57.9	57.9	46.1	59.2	44.7	42.1	47.4	
職業有無別	1,504	41.4	43.4	40.8	56.1	54.7	44.2	40.8	39.2	36.9	41.8	
有職者以外・計	151	35.1	34.4	37.1	53.0	49.0	46.4	45.7	31.8	29.1	36.4	
業種別	34	50.0	47.1	41.2	55.9	52.9	44.1	32.4	38.2	29.4	41.2	
建設業	214	46.3	48.1	43.0	59.8	55.6	38.8	37.4	36.0	39.3	38.3	
製造業	254	48.8	50.8	52.0	59.1	55.5	46.5	44.1	46.9	46.5	44.9	
情報通信業	43	48.8	51.2	41.9	60.5	58.1	48.8	34.9	41.9	34.9	37.2	
運輸業	98	38.8	40.8	35.7	52.0	57.1	46.9	42.9	34.7	36.7	48.0	
卸売・小売業	150	53.3	51.3	52.0	64.0	62.0	46.0	42.7	47.3	42.0	50.7	
金融・保険業	33	48.5	45.5	54.5	63.6	51.5	60.6	45.5	45.5	36.4	54.5	
不動産業	59	30.5	33.9	28.8	55.9	61.0	42.4	39.0	39.0	37.3	37.3	
医療・福祉	167	27.5	35.9	35.9	44.3	50.3	44.9	41.9	32.3	30.5	34.1	
教育・学習支援	213	36.2	39.0	28.6	57.3	49.3	45.5	39.0	38.0	31.9	36.2	
その他サービス業	107	35.5	37.4	35.5	49.5	48.6	35.5	41.1	31.8	24.3	36.4	
官公庁・自治体・公共団体	177	43.5	45.2	41.8	55.4	50.3	41.8	39.0	39.5	39.0	41.2	
職種別	67	47.8	50.7	52.2	53.7	59.7	56.7	41.8	55.2	40.3	41.8	
総務・法務・人事・広報関連	215	43.3	48.4	44.7	62.3	59.1	46.0	41.9	37.7	39.1	43.3	
財務・経理関連	277	29.2	36.1	30.3	52.7	53.4	37.2	40.8	32.1	27.4	35.7	
企画・マーケティング関連	275	51.3	49.8	46.2	57.5	53.8	46.5	40.0	40.7	38.9	46.9	
その他事務系	81	30.9	25.9	21.0	45.7	46.9	38.3	38.3	25.9	23.5	33.3	
営業	187	48.7	46.5	52.4	62.0	57.2	45.5	40.6	44.9	48.1	43.9	
販売・サービス	225	36.4	45.8	36.9	52.9	55.6	47.6	43.1	42.7	36.9	43.6	
技術・研究開発	229	79.0	79.0	72.5	83.0	84.3	74.2	71.6	74.2	72.9	81.7	
その他	164	57.3	64.0	57.9	72.6	65.2	58.5	50.6	52.4	48.2	54.3	
新研究科	684	41.1	42.7	40.1	59.4	57.3	47.2	42.7	39.8	36.5	42.7	
進学意向別	578	20.6	24.2	23.4	36.2	35.3	25.3	24.9	19.0	17.8	20.1	

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■5pt以上低い

※カテゴリごとに全体の階層リスト。

D. 【卒業生】新研究科評価 5. 入学意向の理由（自由回答より）

・ 入学意向者の理由

✓ 今後必要な分野・ニーズがある

- これからの社会はAIが不可欠であり、深く研究したいと思っているが、独学での研究は難しく、基礎から指導してくれる教育機関が必要であると感じていたため。
(男性, 37歳, 経済学部, その他サービス業, 財務・経理関連, 新研究科入学意向: ぜひ入学したい)
- 今世界のトップに君臨する企業はIT企業で、それらの共通している点は膨大なデータを持っており、そのデータをどう活用して社会的貢献を果たしていくかを考え、新たなビジネス展開をしているため、「データの解析」における肝となるAIは今後必須の領域であると思うから。(男性, 27歳, 社会学部, その他業種, 営業, 新研究科入学意向: 入学したい)

✓ 体系的に学べそう

- データサイエンティストとして勤務しているが、体系的に学び直したいため(男性, 44歳, 理学部, その他サービス業, 技術・研究開発, 新研究科入学意向: ぜひ入学したい)
- 現在、ビッグデータを扱う業種のため、AIを活用することでどれ程効率化が図れるのか学んでみたいと考えたため。また、考え方や仕組みを学び実務に活かしたいと考えたため。
(男性, 31歳, 現代心理学部, 医療・福祉, その他事務系, 新研究科入学意向: ぜひ入学したい)
- 今後ますます社会に必須の技術になるであろうai技術を体系的に学べそうだから(男性, 27歳, 法学部, 不動産業, その他職種, 新研究科入学意向: ぜひ入学したい)
- AIを正しく理解し使いこなすには真の教養が必要と思う。また、AIの利用の倫理的な側面を考えれば、宗教的なバックボーンも必要と思う。その意味で、立教が取り組む事は大変意義があると思う。
(男性, 50歳, 21世紀社会デザイン研究科, 教育・学習支援, 総務・法務・人事・広報関連, 新研究科入学意向: ぜひ入学したい)

✓ 人脈が築ける・他分野出身者から刺激がありそう

- 同じビジョンを持つ人達と共に学ぶ事で、社会での横の繋がりを得られるから(男性, 39歳, 経済学部, 情報通信業, 技術・研究開発, 新研究科入学意向: 入学したい)
- 他分野出身の同級生から刺激を受けることも期待するので(女性, 37歳, 理学部, 情報通信業, 技術・研究開発, 新研究科入学意向: 入学したい)

・ 進学検討意向者の理由

✓ 社会人でも通えるシステムが必要

- AIは理系と思い込んでいたが、文系のひとでも学べるのでは、かつ今の時代にあったことを学べるから。ただ2020年にはもっと発達してそうなので、先をいく教育内容と固定休みでない社会人でも通えるシステムが必要だと思います。(女性, 28歳, 文学部, 卸売・小売業, 販売・サービス, 新研究科入学意向: 入学を検討するかもしれない)

✓ 補助制度などあれば通いたい

- 学費がネックにはなりますが、非常に興味があります。補助制度などあれば活用したいです。
(男性, 31歳, 経済学部, 官公庁・自治体・公共団体, その他事務系, 新研究科入学意向: 入学を検討するかもしれない)

D.【卒業生】新研究科評価 6. 新研究科への意見・要望（自由回答より）

・ 要望

✓授業・排出人材などへの要望

- ・机上の空論ではなく、現実のビジネス社会に影響を与える人材教育をお願いします。当分野においては多くの企業でビジネス化に向けた検討が進んでいます。そのような企業と協業していくことも視野に入れると、よりビジネス視点で考えられる人材が育成につながると思います。AIやビッグデータが一時の流行り(バズワード)にならないよう期待しています。(男性, 33歳, 経済学部, 情報通信業, 技術・研究開発, 新研究科入学意向: ぜひ入学したい)
- ・今後必要とされる分野で、体系的な境域の機会を提供することは大切な役割だと思うので共感します。一方で、大学が職業専門学校的に、産業界のニーズに傾倒しすぎることにも危機感を覚えます。幅広い教養を身につけ、深みのある人間の育成に期待します。(男性, 41歳, 文学部, その他サービス業, 企画・マーケティング関連, 新研究科入学意向: 入学したい)
- ・基礎から応用までの幅広い領域は、中途半端な研究となってしまうのではないかと考えている。実際、教授もあまりな修論指導をされているのを見てきたので、高いレベルでの研究ができるかどうか、誇大広告にならないように留意していただきたい。(女性, 51歳, 21世紀社会デザイン研究科, 農林漁業, 財務・経理関連, 新研究科入学意向: 入学したいと思わない)
- ・授業の形式はぜひ、アクティブラーニングを活用してほしい。従来の大学のように「本を読めばわかる」だけの講義ではなく、社会的課題を解決するために、コンセプトualに考える時間・機会を多く設定すると良いと思う。アカデミアだけの授業ではなく、実務家を講師に迎え、様々な自治体や企業の事例について学びたい。社会人になってからのスクーリングは、知識の習得以外に、社外でのネットワーク形成を目的とすることも多いため、グループディスカッションなどの交流時間も豊富にすべきと感じる。(男性, 31歳, 現代心理学研究科, その他業種, その他職種, 新研究科入学意向: ぜひ入学したい)
- ・AIによって社会の様々な分野にどのような問題が発生するのか、その影響はどのようなもので、我々はどう対応すべきか、あるいはどのような理念をもって新しい技術を活用すべきかというような、企業の中で研究開発であっても営業や経営企画であっても将来を踏まえたビジョンを語れるような、人材を育成することが必要であると思います。(男性, 53歳, 理学研究科, 教育・学習支援, その他職種, 新研究科入学意向: まったく入学したいと思わない)

✓産学連携

- ・企業とのタイアップをすることで、より実践的な研究が出来ると思うので、そのような実践的なことを学べる機会を増やしてほしい。(男性, 43歳, 理学部, 運輸業, 技術・研究開発, 新研究科入学意向: ぜひ入学したい)
- ・AIなどの研究は今後急激に成長していくと思います。企業とのコラボレーションなどを視野に入れ、現実的かつ先進的な研究をしてもらいたいです。(女性, 28歳, 文学部, 金融・保険業, その他事務系, 新研究科入学意向: 入学したい)
- ・いくら研究したとしても、どこに進路を選ぶかが重要でその先のキャリアが大きく変わると思います。企業との提携、インターン、そのまま就職も可能であるなど、一流企業との関わりを強化してより多くの人材を育てて欲しいです。

✓公開講座・シンポジウム・Web授業の要望

- ・なかなか通えない人のために、ぜひ公開講座やシンポジウムなどを積極的に企画していただきたい。(男性, 46歳, 21世紀社会デザイン研究科, , , 新研究科入学意向: ぜひ入学したい)
- ・地理的に通学が困難だけど、学びたい人たちのために、インターネット上でも授業を公開するなどしてもらえると嬉しい。(女性, 30歳, 観光学部, 卸売・小売業, その他事務系, 新研究科入学意向: ぜひ入学したい)

✓支援制度

- ・授業料が高いように思うので、もう少し安くなるか、社会人に対しても有用な支援制度があるといいと思います。(男性, 29歳, 理学研究科, 教育・学習支援, その他職種, 新研究科入学意向: ぜひ入学したい)

✓倫理教育など

- ・能力を身につけた人が悪用を考えないように、または、悪用を考える人が入学して能力を育てる場にならないように、リテラシーやモラル等の教育や入試や入学の際の工夫?も大事になるのかなと思いました。(女性, 30歳, 現代心理学研究科, 医療・福祉, その他職種, 新研究科入学意向: まったく入学したいと思わない)

●

データ集（回答者プロフィール詳細）

●

●

データ集 1.【在校生】所属学科

●所属学科（在校生全体／単一回答）

F3 あなたが所属している学科をお知らせください。

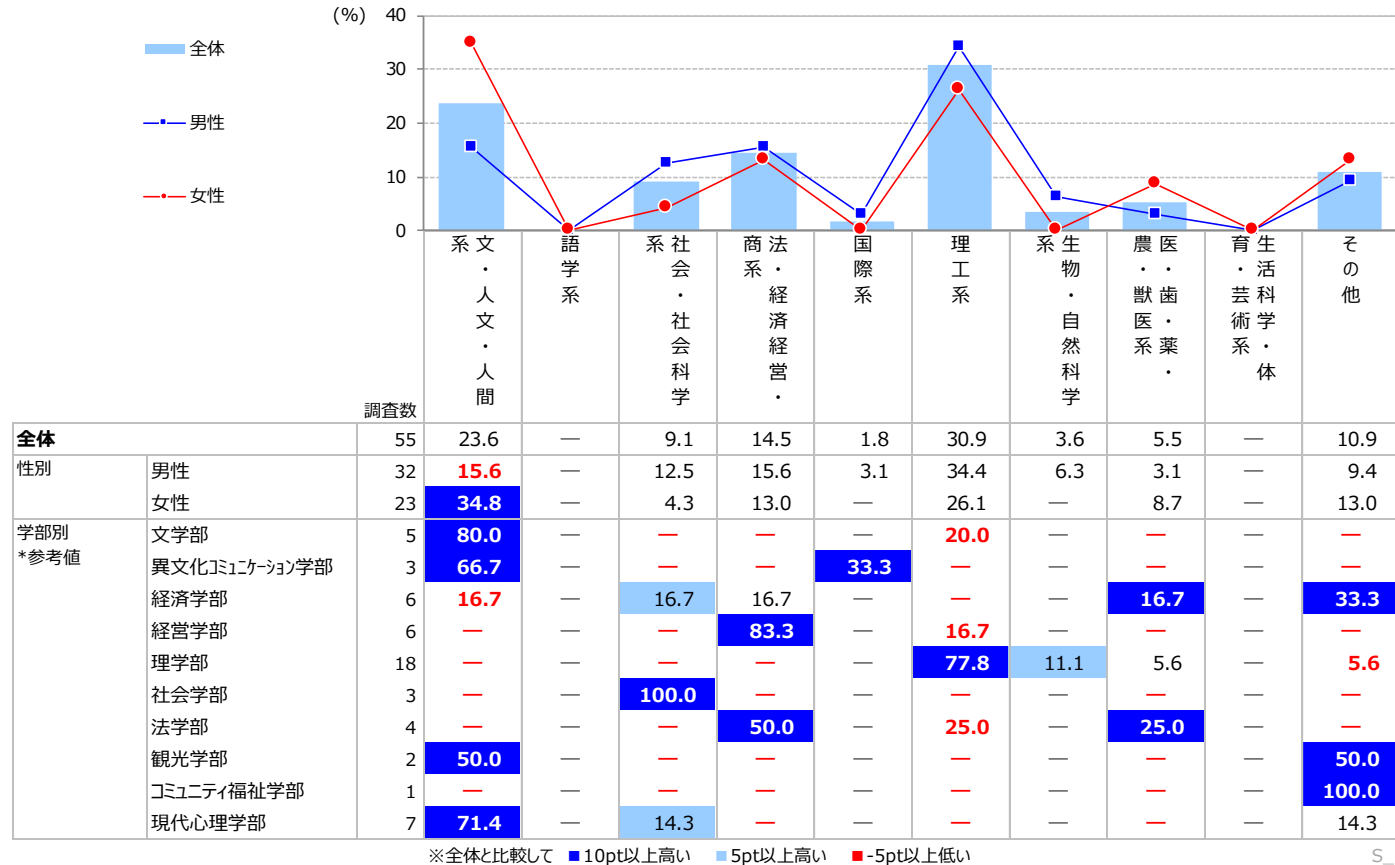
		文学部				異文化コミュニケーション学部	経済学部			経営学部		理学部				社会学部			法学部			観光学部		コミュニティ福祉学部			現代心理学部			
		キリスト教	文学	史学	教育	異文化コミュニケーション	経済	経済政策	会計ファイナン	経営	国際経営	数学	物理	化学	生命	社会学	メディア社会学	現代文化	法学	政治	国際	観光	交流文化	福祉	コミュニティ	スポート	心理学	映像身体		
		学科	科	科	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学			
調査数																														
全体		161	—	7.5	5.0	1.2	1.9	5.6	5.6	7.5	3.1	4.3	1.2	6.2	11.2	1.2	1.9	3.1	1.2	4.3	3.7	3.7	3.7	2.5	1.2	0.6	0.6	8.7	3.1	
性別	男性	73	—	4.1	4.1	2.7	1.4	4.1	9.6	8.2	2.7	6.8	1.4	12.3	13.7	1.4	2.7	1.4	1.4	2.7	2.7	5.5	4.1	—	—	—	1.4	2.7	2.7	
	女性	88	—	10.2	5.7	—	2.3	6.8	2.3	6.8	3.4	2.3	1.1	1.1	9.1	1.1	1.1	4.5	1.1	5.7	4.5	2.3	3.4	4.5	2.3	1.1	—	13.6	3.4	
学部別 *参考値	文学部	22	—	54.5	36.4	9.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	異文化コミュニケーション学部	3	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	経済学部	30	—	—	—	—	—	30.0	30.0	40.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	経営学部	12	—	—	—	—	—	—	—	—	41.7	58.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	理学部	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6.3	31.3	56.3	6.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	社会学部	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30.0	50.0	20.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	法学部	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	36.8	31.6	31.6	—	—	—	—	—	—	—	—
	観光学部	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60.0	40.0	—	—	—	—	—	—
	コミュニティ福祉学部	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	25.0	25.0	—	—	—
	現代心理学部	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	73.7	26.3	—
大学院進学 希望有無別	希望あり	55	—	5.5	3.6	—	5.5	1.8	5.5	3.6	1.8	9.1	—	14.5	16.4	1.8	3.6	1.8	—	1.8	3.6	1.8	1.8	1.8	1.8	—	—	—	10.9	1.8
	希望なし	106	—	8.5	5.7	1.9	—	7.5	5.7	9.4	3.8	1.9	1.9	8.5	0.9	0.9	3.8	1.9	5.7	3.8	4.7	4.7	2.8	0.9	0.9	0.9	0.9	7.5	3.8	

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い

データ集 2.【在校生】大学院進学希望者の希望分野

●大学院進学希望者の希望分野（大学院進学希望あり／単一回答）

F7 大学院への進学を希望している方にお聞きます。あなたが進学したいと考えている分野・領域に最も近いものをお選びください。



データ集 3.【在校生】居住都道府県

●居住都道府県（在校生全体／単一回答）

F4 現在あなたが住んでいる都道府県をお選びください。

		調査数	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
全体		161	0.6	1.9	0.6	28.0	6.8	47.8	14.3
性別	男性	73	—	1.4	—	21.9	9.6	57.5	9.6
	女性	88	1.1	2.3	1.1	33.0	4.5	39.8	18.2
学部別 *参考値	文学部	22	—	—	—	9.1	9.1	63.6	18.2
	異文化コミュニケーション学部	3	—	—	—	33.3	—	66.7	—
	経済学部	30	3.3	6.7	—	26.7	6.7	46.7	10.0
	経営学部	12	—	—	—	8.3	8.3	58.3	25.0
	理学部	32	—	—	—	25.0	6.3	46.9	21.9
	社会学部	10	—	—	—	20.0	—	70.0	10.0
	法学部	19	—	—	5.3	31.6	15.8	36.8	10.5
	観光学部	10	—	10.0	—	40.0	—	30.0	20.0
	コミュニティ福祉学部	4	—	—	—	50.0	—	50.0	—
	現代心理学部	19	—	—	—	57.9	5.3	31.6	5.3
大学院進学 希望有無別	希望あり	55	—	—	—	25.5	9.1	50.9	14.5
	希望なし	106	0.9	2.8	0.9	29.2	5.7	46.2	14.2

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い

※回答があった都道府県のみ表示

データ集 4.【在校生】出身都道府県

●出身都道府県（在校生全体／単一回答）

F5 あなたのご出身都道府県をお選びください。

		調査数	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	
全体		161	2.5	—	—	0.6	—	—	0.6	3.1	3.1	2.5	21.1	7.5	29.8	13.0	1.9	—	—	—	—	0.6	0.6	1.2	1.9	0.6	
性別	男性	73	4.1	—	—	—	—	—	—	—	2.7	1.4	20.5	11.0	35.6	11.0	2.7	—	—	—	—	—	—	1.4	1.4	1.4	
	女性	88	1.1	—	—	1.1	—	—	1.1	5.7	3.4	3.4	21.6	4.5	25.0	14.8	1.1	—	—	—	—	1.1	1.1	1.1	2.3	—	
学部別 *参考値	文学部	22	—	—	—	—	—	—	—	4.5	—	—	13.6	4.5	40.9	18.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	異文化コミュニケーション学部	3	33.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33.3	—	33.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	経済学部	30	3.3	—	—	—	—	—	3.3	3.3	10.0	—	20.0	10.0	20.0	13.3	3.3	—	—	—	—	—	—	—	—	3.3	
	経営学部	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8.3	50.0	25.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8.3	
	理学部	32	3.1	—	—	—	—	—	—	—	3.1	3.1	21.9	6.3	31.3	15.6	—	—	—	—	—	—	3.1	3.1	—	—	3.1
	社会学部	10	10.0	—	—	—	—	—	—	—	—	10.0	20.0	20.0	10.0	20.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	法学部	19	—	—	—	—	—	—	—	5.3	—	10.5	26.3	10.5	21.1	5.3	5.3	—	—	—	—	—	—	—	5.3	5.3	
	観光学部	10	—	—	—	—	—	—	—	10.0	10.0	—	20.0	—	30.0	10.0	—	—	—	—	—	—	—	—	10.0	—	
	コミュニティ福祉学部	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25.0	—	25.0	—	25.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	現代心理学部	19	—	—	—	5.3	—	—	—	5.3	—	—	36.8	5.3	36.8	5.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大学院進学 希望有無別	希望あり	55	3.6	—	—	—	—	—	1.8	1.8	1.8	1.8	16.4	10.9	34.5	10.9	—	—	—	—	—	—	1.8	1.8	—	1.8	1.8
	希望なし	106	1.9	—	—	0.9	—	—	—	3.8	3.8	2.8	23.6	5.7	27.4	14.2	2.8	—	—	—	—	—	—	1.9	1.9	—	

※全体と比較して ■ 10pt以上高い ■ 5pt以上高い ■ -5pt以上低い

●出身都道府県（在校生全体／単一回答）

F5 あなたのご出身都道府県をお選びください。

		調査数	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
全体		161	—	—	1.2	0.6	0.6	—	—	—	0.6	0.6	—	—	—	—	—	1.2	1.9	0.6	0.6	0.6	—	—	0.6
性別	男性	73	—	—	—	—	1.4	—	—	—	1.4	—	—	—	—	—	—	—	1.4	1.4	1.4	—	—	—	—
	女性	88	—	—	2.3	1.1	—	—	—	—	—	1.1	—	—	—	—	—	2.3	2.3	—	—	1.1	—	—	1.1
学部別 *参考値	文学部	22	—	—	—	—	4.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.5	4.5	—	—	—	—	—	4.5
	異文化コミュニケーション学部	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	経済学部	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.3	3.3	—	3.3	—	—	—
	経営学部	12	—	—	8.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	理学部	32	—	—	—	—	—	—	—	—	3.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.1	—	—	—	—
	社会学部	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10.0	—	—	—	—	—	—
	法学部	19	—	—	—	5.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	観光学部	10	—	—	10.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	コミュニティ福祉学部	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	現代心理学部	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5.3	—	—	—	—	—	—	—
大学院進学 希望有無別	希望あり	55	—	—	1.8	—	—	—	—	—	—	1.8	—	—	—	—	—	1.8	—	1.8	1.8	—	—	—	—
	希望なし	106	—	—	0.9	0.9	0.9	—	—	—	0.9	—	—	—	—	—	—	0.9	2.8	—	—	0.9	—	—	0.9

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い

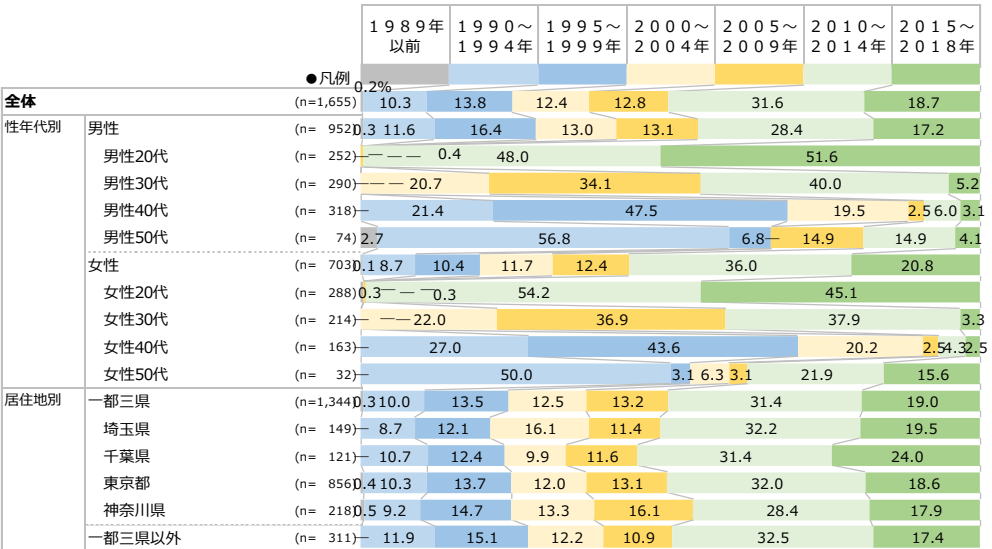
S_F5

データ集 5.【卒業生】卒業・修了年

●卒業・修了年 [基本属性別] (卒業生全体/西暦を回答)

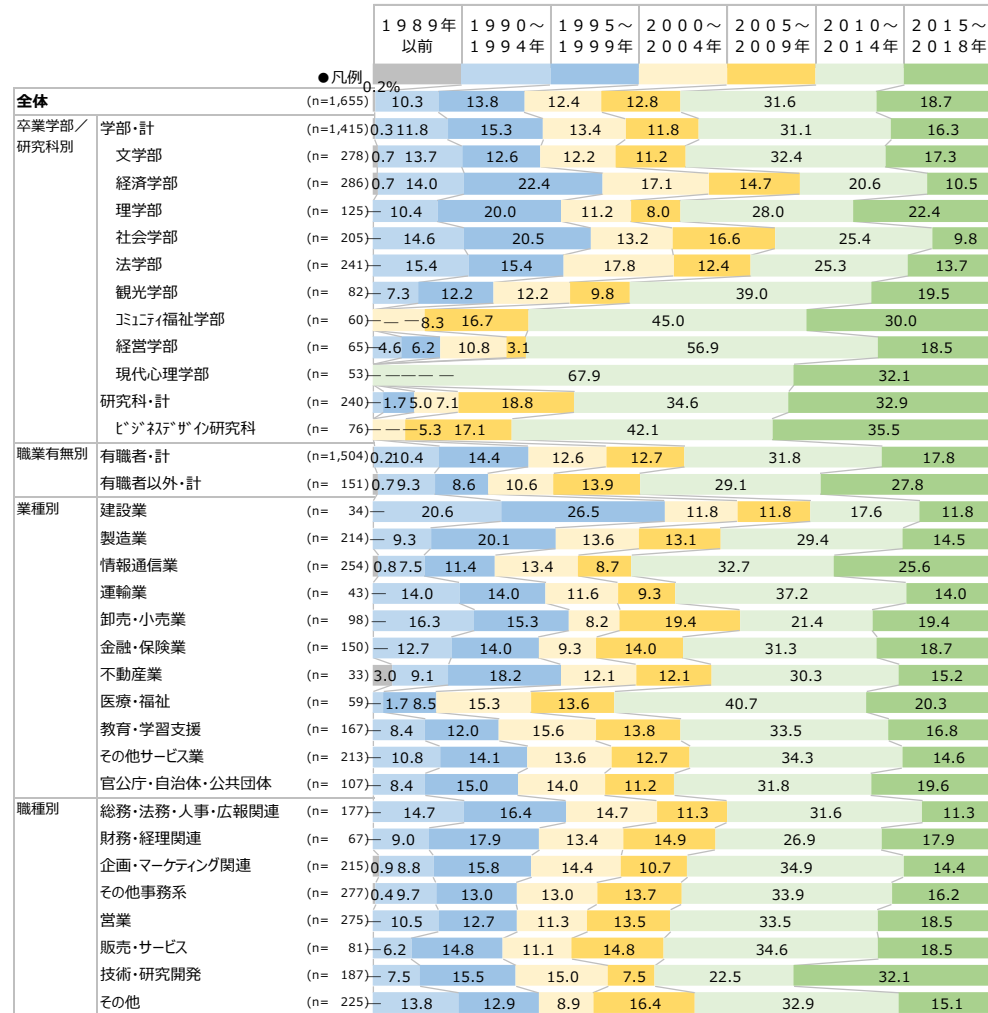
F3 あなたが立教大学・大学院を卒業・修了した年をお知らせください。

※大学と大学院の両方を卒業・修了している場合、大学院についてお答えください。※西暦でお答えください。



G_F3

●卒業・修了年 [卒業学部/研究科別・就業状況別] (卒業生全体/西暦を回答)



G_F3

データ集 6.【卒業生】卒業学科・専攻

●卒業学科・専攻（卒業生全体／単一回答）

あなたが卒業・修了した学科／専攻をお知らせください。

	文学部											経済学部				理学部				社会学部				法学部			観光学部		コミュニティ福祉学部								
	キリスト教 学科	史学 科	教育 学 科	文学 学 科	英米 文 学 科	心理 教 育 学 科	心理 学 科	社会 学 科	日本文 学 科	ドイツ 文 学 科	フランス 文 学 科	経済 学 科	会計 ファイ ナンス 学 科	経済 政策 学 科	経営 学 科	数学 学 科	物理 学 科	化学 学 科	生命 理 学 学 科	社会 学 科	現代 文化 学 科	メディア 社会 学 科	産業 関 係 学 科	観 光 学 科	法 学 科	政治 学 科	国際 ・ 比 較 法 学 科	国際 ビ ジ ネ ス 法 学 科	観 光 学 科	交 流 文 化 学 科	福 祉 学 科	コ ミ ュ ニ テ イ 政 策 学 科	ス ポ ー ツ ワ エル ネ ス 学 科	コ ミ ュ ニ テ イ 福 祉 学 科			
調査数	1,655	1.3	3.1	1.5	3.0	2.7	—	0.9	—	1.6	0.6	2.1	7.9	1.9	1.5	5.9	1.9	2.2	1.9	1.5	4.4	1.8	1.6	4.3	0.4	9.2	2.7	2.0	0.6	3.6	1.3	0.7	1.3	0.5	1.1		
全体	1,655	1.3	3.1	1.5	3.0	2.7	—	0.9	—	1.6	0.6	2.1	7.9	1.9	1.5	5.9	1.9	2.2	1.9	1.5	4.4	1.8	1.6	4.3	0.4	9.2	2.7	2.0	0.6	3.6	1.3	0.7	1.3	0.5	1.1		
性年代別																																					
男性	952	0.6	2.6	0.9	1.4	1.1	—	0.9	—	0.6	0.2	1.1	10.7	1.9	1.9	6.9	2.6	3.3	2.0	1.5	3.9	1.5	1.5	5.3	0.6	10.4	2.6	2.2	0.6	3.0	0.9	0.2	1.4	0.5	0.9		
男性20代	252	0.4	1.6	0.8	4.0	1.2	—	—	—	—	0.8	0.8	7.5	4.0	3.6	—	4.0	4.8	2.8	2.8	3.2	2.8	4.8	—	9.9	5.2	—	2.0	3.6	3.2	0.4	2.8	2.0	0.4			
男性30代	290	1.0	3.8	1.4	1.0	1.0	—	1.0	—	—	—	0.3	9.7	2.8	3.1	6.2	1.4	2.4	1.4	1.4	4.8	2.4	0.3	5.2	—	10.0	3.1	3.1	0.3	3.1	0.3	0.3	2.1	—	2.8		
男性40代	318	0.6	2.5	0.6	—	0.9	—	1.9	—	1.9	—	1.9	15.4	—	—	13.8	2.5	2.8	2.5	0.9	4.1	—	0.3	9.4	1.9	11.0	0.9	3.1	—	3.1	—	—	—	—			
男性50代	74	—	2.7	1.4	—	1.4	—	—	—	—	—	1.4	5.4	—	—	5.4	4.1	4.1	—	2.7	—	—	6.8	—	13.5	—	2.7	—	1.4	—	—	—	—	—			
女性	703	2.3	3.8	2.3	5.3	4.8	—	0.9	—	2.8	1.1	3.4	4.1	2.0	1.0	4.6	1.0	0.9	1.7	1.6	5.1	2.1	1.7	3.0	—	7.7	2.8	1.7	0.6	4.4	1.8	1.4	1.3	0.4	1.3		
女性20代	288	2.4	3.8	1.7	10.1	3.1	—	—	—	0.7	0.7	4.9	3.5	2.4	2.1	—	1.0	0.7	—	2.1	4.5	2.4	2.8	—	6.3	3.1	—	1.4	3.8	4.2	3.1	2.4	1.0	—			
女性30代	214	2.8	3.7	2.3	3.7	5.6	—	1.9	—	2.8	1.4	2.8	3.3	3.3	0.5	6.5	0.9	1.9	1.4	2.3	3.3	3.7	1.9	4.2	—	5.6	4.2	1.9	—	5.6	0.5	0.5	0.9	—	3.3		
女性40代	163	1.2	4.3	3.1	—	8.0	—	1.2	—	6.7	1.2	1.8	5.5	—	—	10.4	1.2	—	—	4.3	—	—	5.5	—	12.3	1.2	4.3	—	4.3	—	—	—	—	0.6			
女性50代	32	3.1	3.1	3.1	—	—	—	—	—	3.1	3.1	3.1	6.3	—	—	3.1	—	—	6.3	—	—	—	9.4	—	9.4	—	9.4	—	3.1	—	3.1	—	—	—	—		
居住地別																																					
全都道府県	1,344	1.4	3.1	1.3	3.2	2.7	—	1.0	—	1.3	0.6	1.9	7.8	1.9	1.4	6.2	2.2	2.2	2.0	1.7	4.3	1.9	1.6	4.6	0.4	9.3	2.5	1.9	0.7	3.3	1.1	0.6	1.3	0.4	1.0		
埼玉県	149	2.0	3.4	1.3	3.4	2.0	—	0.7	—	1.3	1.3	1.3	8.1	2.0	1.3	2.7	2.0	5.4	2.0	0.7	4.0	1.3	1.3	6.7	—	8.7	3.4	0.7	0.7	4.0	1.3	2.0	1.3	—	2.0		
千葉県	121	0.8	5.8	1.7	5.0	3.3	—	1.7	—	—	—	1.7	11.6	1.7	2.5	9.9	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	0.8	1.7	5.0	0.8	10.7	2.5	0.8	0.8	4.1	1.7	—	—	—	—		
東京都	856	1.6	2.7	1.1	2.9	3.0	—	0.8	—	1.3	0.6	2.3	7.8	1.9	1.2	6.1	2.5	1.8	1.9	1.9	4.2	2.0	1.8	3.7	0.5	9.5	2.7	2.5	0.6	2.8	0.9	0.5	1.8	0.4	1.2		
神奈川県	218	0.5	3.2	2.3	3.2	1.4	—	1.8	—	2.3	0.5	0.5	5.5	2.3	1.8	6.9	1.8	2.3	2.8	1.8	6.4	2.3	0.9	6.4	0.5	8.3	1.4	1.4	0.9	4.1	1.4	0.5	0.5	0.9	—		
全都道府県以外	311	1.0	3.2	2.3	2.3	2.6	—	0.3	—	2.6	0.6	2.9	8.4	1.9	1.9	4.8	0.6	2.3	1.3	0.6	4.8	1.3	1.6	2.9	—	9.0	3.5	2.3	0.3	5.1	2.3	1.3	1.3	1.0	1.6		
職業有無別																																					
有職者・計	1,504	0.9	3.1	1.5	2.9	2.8	—	1.0	—	1.6	0.7	1.9	8.2	1.8	1.5	6.3	2.0	2.1	1.9	1.3	4.6	1.8	1.5	4.5	0.4	9.4	3.0	2.1	0.6	3.9	1.4	0.8	1.4	0.5	0.9		
有職者以外・計	151	5.3	4.0	1.3	4.0	1.3	—	—	—	1.3	—	3.3	5.3	3.3	1.3	2.6	1.3	4.0	2.0	3.3	2.6	1.3	2.6	2.6	—	7.3	—	0.7	1.3	0.7	—	0.7	—	0.7	—	2.6	
業種別																																					
建設業	34	2.9	—	—	2.9	2.9	—	—	—	2.9	—	—	14.7	—	—	11.8	—	2.9	—	—	8.8	—	2.9	8.8	—	11.8	2.9	—	—	5.9	—	—	—	—	—		
製造業	214	—	3.3	0.5	1.4	1.9	—	0.9	—	0.9	0.5	1.4	8.4	—	1.9	6.5	0.9	4.2	3.3	3.3	3.7	1.4	0.5	7.9	0.5	12.6	3.3	3.3	—	4.2	1.4	0.5	0.9	1.9	0.5		
情報通信業	254	0.8	3.5	1.2	5.1	1.6	—	1.2	—	1.2	0.8	2.4	9.8	3.1	2.0	4.3	4.3	4.7	2.8	1.6	5.9	2.4	1.6	4.3	0.4	6.7	1.6	1.6	0.4	0.8	1.6	—	2.0	0.4	0.8		
運輸業	43	—	—	—	—	4.7	—	—	—	2.3	—	—	14.0	—	—	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	9.3	2.3	—	2.3	—	7.0	9.3	—	2.3	9.3	2.3	—	—	—	—		
卸売・小売業	98	1.0	4.1	1.0	1.0	7.1	—	1.0	—	2.0	—	3.1	11.2	—	3.1	9.2	1.0	—	—	4.1	2.0	2.0	8.2	—	5.1	2.0	5.1	1.0	5.1	1.0	1.0	1.0	—	1.0			
金融・保険業	150	2.0	1.3	1.3	1.3	1.3	—	0.7	—	1.3	1.3	6.7	13.3	5.3	2.7	12.0	2.0	2.0	0.7	2.0	4.0	1.3	0.7	4.0	—	10.0	3.3	2.0	0.7	3.3	0.7	1.3	2.7	—	0.7		
不動産業	33	—	3.0	—	3.0	3.0	—	—	—	3.0	—	—	12.1	3.0	—	9.1	—	—	3.0	—	6.1	—	—	6.1	—	9.1	6.1	—	3.0	—	—	—	3.0	—	—		
医療・福祉	59	—	—	1.7	1.7	1.7	—	3.4	—	—	—	1.7	—	—	—	6.8	1.7	1.7	3.4	1.7	1.7	1.7	1.7	—	6.8	3.4	—	—	3.4	1.7	8.5	—	—	6.8			
教育・学習支援	167	1.2	5.4	3.6	3.6	5.4	—	1.2	—	1.8	0.6	1.8	6.0	0.6	0.6	3.0	1.8	—	1.2	0.6	1.2	2.4	—	1.8	1.2	4.2	1.8	0.6	—	1.8	1.8	0.6	0.6	0.6	1.2		
その他サービス業	213	1.4	2.8	3.3	3.8	2.8	—	0.9	—	1.4	0.9	0.5	3.8	0.9	0.9	6.1	1.9	0.5	1.9	0.5	3.8	1.4	2.8	3.3	0.5	13.1	3.8	1.9	1.4	5.6	1.4	—	1.9	0.5	1.4		
官公庁・自治体・公共団体	107	—	3.7	—	6.5	1.9	—	0.9	—	1.9	—	1.9	6.5	3.7	1.9	3.7	1.9	0.9	1.9	—	6.5	2.8	0.9	2.8	—	14.0	4.7	4.7	0.9	5.6	2.8	1.9	1.9	—	—		
職種別																																					
総務・法務・人事・広報関連	177	1.7	2.3	0.6	3.4	4.0	—	2.3	—	—	0.6	1.7	8.5	1.7	2.3	7.3	0.6	1.1	—	—	4.5	1.7	2.3	7.3	—	16.4	1.7	4.0	0.6	4.0	1.1	0.6	1.7	—	—		
財務・経理関連	67	1.5	—	—	1.5	3.0	—	—	—	—	1.5	—	11.9	4.5	1.5	7.5	1.5	—	—	1.5	1.5	7.5	—	—	4.5	—	14.9	6.0	4.5	1.5	1.5	1.5	—	—	—	—	
企画・マーケティング関連	215	—	2.3	1.9	2.8	1.4	—	0.5	—	0.9	1.4	3.3	9.3	0.5	1.9	6.0	—	0.9	3.7	1.4	6.0	1.9	2.3	7.0	0.9	7.4	4.7	2.3	0.5	1.9	1.4	—	2.3	—	0.5		
その他事務系	277	0.4	3.6	1.4	4.0	3.6	—	1.1	—	3.2	—	0.7	7.2	1.1	0.4	5.8	0.4	1.1	0.7	1.8	4.3	3.2	1.4	3.2	0.7	12.6	3.2	1.4	0.4	6.9	1.8	2.5	1.4	—	0.7		
営業	275	1.1	3.3	2.2	2.2	2.2	—	0.7	—	1.8	0.7	2.5	12.4	2.5	2.2	8.0	0.7	1.1	0.7	0.4	4.0	2.2	1.8	5.8	—	11.6	2.9	2.2	0.7	3.3	2.2	0.4	0.7	1.1	1.1		
販売・サービス	81	—	3.7	2.5	2.5	4.9	—	—	—	—	—	3.7	2.5	1.2	6.2	2.5	1.2	1.2	—	6.2	1.2	2.5	3.7	—	3.7	2.5	2.5	—	8.6	1.2	1.2	3.7	1.2	2.5			
技術・研究開発	187	1.1	3.2	0.5	2.7	1.1	—	1.6	—	2.1	—	2.7	7.0	1.6	2.1	5.3	9.1	8.0	5.3	4.3	2.7	1.6	—	—	3.2	0.5	0.5	—	1.1	1.1	—	1.1	1.6	0.5			

●卒業学科・専攻（卒業生全体／単一回答）

		経済学研究科					理学研究科							社会学研究科					法学研究科					観光学研究科		コミュニティ福祉学研究科														
		（経済学専攻） （博士前期課程）	（経済学専攻） （博士後期課程）	（経済政策専攻） （博士後期課程）	（経営学専攻） （博士前期課程）	（経営学専攻） （博士後期課程）	（物理学専攻） （博士前期課程）	（物理学専攻） （博士後期課程）	（物理学専攻） （博士前期課程）	（化学専攻） （博士後期課程）	（数学専攻） （博士前期課程）	（数学専攻） （博士後期課程）	（生命理学専攻） （博士前期課程）	（生命理学専攻） （博士後期課程）	（原子物理学専攻） （博士前期課程）	（原子物理学専攻） （博士後期課程）	（社会学専攻） （博士前期課程）	（社会学専攻） （博士後期課程）	（応用社会学専攻） （博士前期課程）	（応用社会学専攻） （博士後期課程）	（法学政治学専攻） （博士前期課程）	（法学政治学専攻） （博士後期課程）	（政治学専攻） （博士前期課程）	（政治学専攻） （博士後期課程）	（比較法専攻） （博士前期課程）	（比較法専攻） （博士後期課程）	（民刑事法専攻） （博士前期課程）	（民刑事法専攻） （博士後期課程）	（観光学専攻） （博士前期課程）	（観光学専攻） （博士後期課程）	（コミュニティ福祉学専攻） （博士前期課程）	（コミュニティ福祉学専攻） （博士後期課程）	（社会福祉学専攻） （修士課程）	（人間関係学専攻） （修士課程）						
調査数		1,655	0.6	0.1	—	0.2	—	0.5	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.4	—	0.1	—	0.5	0.2	0.1	—	—	0.1	0.1	—	—	0.1	—	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	—	—					
性年代別	男性	952	0.7	0.2	—	0.3	—	0.9	0.3	0.3	0.3	0.1	0.1	0.4	—	0.1	—	0.7	0.1	0.1	—	—	0.1	0.1	—	—	0.1	—	0.2	—	—	0.1	0.1	—	—					
	男性20代	252	—	—	—	—	—	2.4	—	0.4	—	—	—	0.4	—	—	—	0.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.4	—	—	—	0.1	0.1	—	—					
	男性30代	290	0.7	0.3	—	—	—	—	0.7	0.3	0.3	0.3	—	0.7	—	—	—	1.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.3	0.3	—	—					
	男性40代	318	0.6	—	—	0.9	—	0.3	0.3	0.3	0.3	—	—	0.3	—	—	—	0.3	0.3	—	—	—	—	—	—	—	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—					
	男性50代	74	2.7	1.4	—	—	—	2.7	—	—	—	1.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
	女性	703	0.4	—	—	—	—	—	0.1	0.1	—	—	—	0.3	—	—	—	0.3	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—	0.1	0.1	0.3	—	—	—	—	—					
	女性20代	288	—	—	—	—	—	—	0.3	0.3	—	—	—	0.3	—	—	—	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.3	—	—	0.3	—	—	—	—	—				
	女性30代	214	0.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5	—	—	—	0.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5	—	—	—	—	—				
	女性40代	163	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	女性50代	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
居住地別	一都三県	1,344	0.7	0.1	—	0.2	—	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.4	—	0.1	—	0.6	0.1	0.1	—	—	0.1	0.1	—	—	0.1	—	0.1	—	0.1	0.1	—	—	—	—	—			
	埼玉県	149	0.7	—	—	—	—	—	—	0.7	—	—	—	0.7	—	—	—	2.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	千葉県	121	—	—	—	—	—	—	—	0.8	—	—	0.8	0.8	—	—	—	1.7	—	0.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	東京都	856	0.7	0.1	—	0.4	—	0.5	0.2	0.2	—	0.1	—	0.2	—	0.1	—	0.4	—	—	—	—	0.1	—	—	—	0.1	—	0.1	—	0.2	0.1	—	—	—	—	—	—		
	神奈川県	218	0.9	—	—	—	—	1.4	—	0.5	—	—	—	0.9	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	一都三県以外	311	0.3	0.3	—	—	—	0.6	0.6	0.3	0.3	—	—	—	—	—	—	0.3	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	0.3	0.3	—	—	—	—	0.3	—	—	—	—		
職業有無別	有職者・計	1,504	0.6	0.1	—	0.1	—	0.5	0.2	0.3	0.2	0.1	0.1	0.4	—	0.1	—	0.6	0.3	0.1	—	—	0.1	0.1	—	—	0.1	—	0.1	—	0.1	0.1	0.1	—	—	—	—			
	有職者以外・計	151	0.7	—	—	0.7	—	0.7	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.7	—	—	—	—	0.7	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
業種別	建設業	34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	製造業	214	—	—	—	—	—	0.5	—	0.9	—	—	—	0.9	—	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	情報通信業	254	0.4	—	—	—	—	0.8	0.4	0.4	—	—	0.4	0.4	—	—	—	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	運輸業	43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	卸売・小売業	98	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	金融・保険業	150	0.7	—	—	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	不動産業	33	3.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	医療・福祉	59	1.7	—	—	—	—	—	—	—	1.7	—	—	1.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	教育・学習支援	167	1.2	1.2	—	0.6	—	1.8	0.6	—	0.6	—	—	1.2	—	—	—	0.6	1.8	0.6	—	—	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	0.6	0.6	—	—	—	—	—	—	
	その他サービス業	213	0.9	—	—	—	—	—	0.5	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	官公庁・自治体・公共団体	107	—	—	—	—	—	0.9	—	—	0.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	職種別	総務・法務・人事・広報関連	177	1.1	—	—	—	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.6	—	—
		財務・経理関連	67	6.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		企画・マーケティング関連	215	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5	—	—	0.5	—	—	—	—	—	—	—
その他事務系		277	—	—	—	—	—	—	—	0.4	—	—	—	—	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.4	—	—	—	—	—	—	
営業		275	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
販売・サービス		81	—	—	—	1.2	—	—	—	1.2	—	—	—	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
技術・研究開発		187	0.5	—	—	—	—	1.6	1.6	1.6	0.5	0.5	0.5	2.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
その他		225	0.9	0.9	—	0.4	—	1.8	—	—	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

●卒業学科・専攻（卒業生全体／単一回答）

		ビジネスデザイン研究科				21世紀社会デザイン研究科			異文化コミュニケーション研究科				経営学研究科			現代心理学研究科						キリスト教学研究科		法務研究科						
		（ビジネスデザイン専攻）	（ビジネスデザイン専攻）	（ビジネスデザイン専攻）	（修士課程）	（博士前期課程）	（比較組織ネットワーク専攻）	（比較組織ネットワーク専攻）	（修士課程）	（博士前期課程）	（異文化コミュニケーション専攻）	（異文化コミュニケーション専攻）	（修士課程）	（異文化コミュニケーション専攻）	（博士前期課程）	（博士後期課程）	（国際経営学専攻）	（博士前期課程）	（心理学専攻）	（心理学専攻）	（臨床心理学専攻）	（博士前期課程）	（臨床心理学専攻）	（博士後期課程）	（映像身体学専攻）	（映像身体学専攻）	（修士課程）	（博士前期課程）	（博士後期課程）	（法務専攻学位課程）
		調査数																												
全体		1,655	2.7	0.1	1.6	0.2	1.1	—	0.7	0.6	0.1	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.3	—	—	—	0.1	0.2	0.1	0.3			
性年代別	男性	952	3.4	0.2	2.1	0.3	1.3	—	0.8	0.4	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	—	—	0.2	0.1	0.1	—	—	—	0.1	0.2	0.1	0.5			
	男性20代	252	—	—	0.4	—	0.8	—	—	0.4	—	—	—	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	男性30代	290	2.4	0.3	2.4	—	0.3	—	1.0	0.3	—	—	—	—	—	—	—	0.3	0.3	0.3	—	—	—	0.3	—	—	—	0.7		
	男性40代	318	4.4	—	2.2	—	0.6	—	0.9	0.3	0.3	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.3	0.3	0.3		
	男性50代	74	12.2	—	2.7	2.7	4.1	—	1.4	1.4	—	—	—	—	1.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.4	—	2.7		
	女性	703	1.7	—	1.0	—	0.9	—	0.4	0.9	—	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	—	0.6	—	—	—	—	0.1	0.1	—	—	—	
	女性20代	288	—	—	—	—	0.3	—	0.3	0.3	—	0.7	0.3	—	—	0.3	—	—	—	—	0.3	—	—	—	—	—	0.3	—	—	
	女性30代	214	1.4	—	0.5	—	—	—	0.5	1.9	—	—	—	—	0.5	—	—	0.5	—	—	0.9	—	—	—	0.5	—	—	—	—	
	女性40代	163	2.5	—	3.1	—	1.2	—	—	—	—	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	
	女性50代	32	15.6	—	3.1	—	3.1	—	3.1	3.1	—	3.1	—	—	3.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
居住地別	一都三県	1,344	3.1	0.1	1.8	0.1	1.3	—	0.6	0.6	—	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	—	—	—	0.1	0.1	0.1	0.4			
	埼玉県	149	2.7	—	0.7	0.7	1.3	—	0.7	—	—	0.7	—	—	—	—	—	—	0.7	—	—	—	—	—	—	—	0.7	—		
	千葉県	121	1.7	—	0.8	—	—	—	—	0.8	—	0.8	—	—	—	—	—	—	—	—	0.8	—	—	—	—	0.8	—	0.8		
	東京都	856	3.2	0.1	2.2	—	1.3	—	0.5	0.7	—	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	—	0.4	—	—	—	0.1	0.1	—	0.4			
	神奈川県	218	3.7	—	1.4	0.5	1.8	—	1.4	0.5	—	0.9	—	—	—	—	—	—	—	0.5	—	—	—	—	0.5	—	0.5			
	一都三県以外	311	1.0	0.3	1.0	0.3	0.3	—	1.0	0.6	0.3	—	—	—	0.3	—	—	0.3	—	—	—	—	—	—	—	0.3	—	—		
職業有無別	有職者・計	1,504	2.8	0.1	1.5	0.1	0.7	—	0.7	0.3	0.1	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	—	—	—	0.1	0.2	0.1	0.2			
	有職者以外・計	151	1.3	—	3.3	0.7	4.6	—	0.7	3.3	—	—	—	—	0.7	—	—	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	1.3			
業種別	建設業	34	—	—	2.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	製造業	214	3.7	—	1.9	—	0.5	—	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	情報通信業	254	2.0	0.4	2.0	—	0.8	—	—	—	—	—	—	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	運輸業	43	—	2.3	2.3	2.3	2.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	卸売・小売業	98	1.0	—	1.0	—	—	—	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	金融・保険業	150	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	不動産業	33	6.1	—	3.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.0	—	—	—		
	医療・福祉	59	3.4	—	3.4	—	—	—	—	—	3.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	教育・学習支援	167	5.4	—	—	—	1.8	—	1.8	1.8	0.6	0.6	1.2	—	0.6	—	—	—	0.6	—	1.2	—	—	—	0.6	1.2	—	—		
	その他サービス業	213	3.8	—	3.3	—	1.4	—	—	—	—	1.4	—	—	—	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5	0.5		
	官公庁・自治体・公共団体	107	—	—	—	0.9	—	—	2.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	職種別	総務・法務・人事・広報関連	177	2.3	—	0.6	—	0.6	—	1.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
財務・経理関連		67	1.5	—	—	—	—	—	3.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
企画・マーケティング関連		215	5.1	—	2.3	—	0.9	—	—	0.5	—	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5	—			
その他事務系		277	2.2	—	1.1	0.7	1.4	—	0.7	0.7	—	0.4	—	—	—	0.4	0.4	—	—	—	—	—	—	0.4	—	—	0.7			
営業		275	1.5	—	1.1	—	0.4	—	—	—	—	—	—	—	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—	0.4	—	0.4	—			
販売・サービス		81	2.5	—	—	—	—	—	—	1.2	1.2	—	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
技術・研究開発		187	2.7	0.5	2.1	—	0.5	—	—	—	—	—	—	0.5	0.5	—	—	0.5	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5		
その他		225	4.0	0.4	2.7	—	0.9	—	1.3	0.4	0.4	1.3	0.4	—	0.4	—	—	—	—	—	1.8	—	—	—	—	0.9	—	—		

データ集 7.【卒業生】居住都道府県

●居住都道府県（卒業生全体／単一回答）

現在あなたが住んでいる都道府県をお選びください。

		北海道・東北							北関東			一部三県				中部							近畿											
		北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県			
調査数		1,655	1.2	0.2	0.1	0.4	0.2	0.1	0.4	1.1	0.7	0.8	9.0	7.3	51.7	13.2	0.5	0.1	0.1	0.1	0.4	0.9	0.2	1.3	1.6	0.2	0.1	0.5	1.5	1.5	0.1	0.1		
全体	性年代別	男性	952	1.3	0.4	0.1	0.3	0.2	0.1	0.7	1.1	0.6	1.2	10.0	7.7	49.5	13.1	0.6	0.2	0.1	—	0.3	0.5	0.2	1.2	1.8	0.1	0.1	0.5	2.1	1.4	0.1	0.1	
		男性20代	252	1.2	0.4	—	0.4	0.8	—	1.2	—	0.8	0.8	11.1	8.7	49.6	11.9	0.4	0.4	—	0.4	0.8	—	0.8	1.2	—	—	0.4	2.8	2.8	0.4	—	—	
		男性30代	290	1.0	0.3	0.3	0.3	—	0.3	1.0	1.7	0.7	1.4	10.3	7.2	49.7	13.4	—	—	—	—	—	0.3	1.7	1.4	0.3	0.3	0.7	1.4	1.0	—	—	—	
		男性40代	318	1.6	—	—	0.3	—	—	0.3	0.9	0.3	1.3	9.1	7.5	48.1	14.2	1.6	0.3	—	—	0.3	0.6	0.3	1.3	3.1	—	—	0.6	2.2	0.9	—	0.3	
		男性50代	74	1.4	2.7	—	—	—	—	1.4	—	1.4	10.8	5.4	52.7	12.2	—	—	1.4	—	1.4	1.4	—	—	—	—	—	—	1.4	—	—	—	—	
		女性	703	1.1	—	—	0.6	0.3	—	—	1.1	0.7	0.4	7.7	6.8	54.8	13.2	0.4	—	—	0.3	0.4	1.4	0.1	1.4	1.3	0.4	0.1	0.6	0.6	1.7	—	—	
		女性20代	288	2.1	—	—	1.0	0.3	—	—	1.4	1.0	0.3	6.9	8.7	51.7	11.8	0.7	—	—	0.3	0.3	2.1	—	1.4	1.4	0.7	—	1.0	1.0	1.0	—	—	
		女性30代	214	0.9	—	—	—	0.5	—	—	1.4	0.9	0.5	11.7	5.6	55.1	15.9	—	—	—	0.5	0.9	—	0.9	1.4	0.5	—	—	—	0.9	—	—	—	
		女性40代	163	—	—	—	0.6	—	—	—	0.6	—	—	5.5	4.9	61.3	11.7	0.6	—	—	0.6	1.2	0.6	1.8	0.6	—	—	0.6	—	3.1	—	—	—	
		女性50代	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.4	4.8	43.8	18.8	—	—	—	—	—	—	3.1	3.1	—	3.1	—	3.1	6.3	—	—	—	
卒業学部／研究科別	学部・計	1,415	1.2	0.2	0.1	0.5	0.2	0.1	0.4	0.9	0.6	1.0	9.2	7.6	51.5	12.8	0.6	0.1	0.1	0.1	0.3	1.0	0.2	1.5	1.7	0.2	0.1	0.5	1.4	1.6	0.1	0.1		
	文学部	278	0.7	0.4	—	0.4	0.7	—	0.4	0.7	0.7	0.7	9.0	8.6	50.4	12.2	0.7	—	—	0.4	0.7	1.1	0.4	2.5	1.8	0.4	—	0.7	0.7	1.1	—	0.4		
	経済学部	286	2.1	—	—	0.3	—	—	0.3	0.3	1.0	1.7	7.3	10.8	50.7	12.6	0.3	—	0.3	0.3	—	0.7	1.7	—	—	—	—	—	1.4	1.4	0.3	—	—	
	理学部	125	0.8	—	—	—	—	—	—	2.4	0.8	—	12.0	6.4	54.4	15.2	—	—	—	—	0.8	—	1.6	0.8	—	0.8	—	1.6	0.8	1.6	—	—	—	
	社会学部	205	0.5	—	—	0.5	—	—	—	0.5	—	0.5	9.8	5.9	50.7	17.6	0.5	0.5	—	—	0.5	1.0	—	1.5	1.5	0.5	—	0.5	2.0	2.0	—	—	—	
	法学部	241	0.4	0.8	0.4	—	0.4	0.4	1.7	0.8	0.8	8.3	7.5	53.9	10.8	0.8	—	—	—	—	1.7	0.4	0.8	1.7	0.4	—	0.4	1.2	0.8	—	—	—	—	
	観光学部	82	2.4	—	—	—	—	—	—	2.4	9.8	8.5	39.0	14.6	—	—	1.2	—	—	—	—	3.7	1.2	3.7	2.4	—	—	1.2	1.2	—	—	—	—	
	メディア福祉学部	60	—	—	—	3.3	—	—	3.3	1.7	—	1.7	13.3	—	53.3	6.7	—	—	—	1.7	—	—	1.7	1.7	—	—	1.7	3.3	3.3	—	—	—	—	
	経営学部	65	3.1	—	—	1.5	—	—	—	1.5	—	—	9.2	3.1	55.4	9.2	1.5	—	—	—	—	—	—	4.6	—	—	—	1.5	6.2	—	—	—	—	
	現代心理学部	53	3.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11.3	5.7	58.5	11.3	—	—	—	—	—	—	1.9	—	—	—	—	—	3.8	—	—	—	—	—
	研究科・計	240	1.3	0.4	—	—	0.4	—	0.8	2.1	1.3	—	7.9	5.8	52.9	15.4	0.4	—	—	—	0.8	0.4	—	—	0.8	0.4	0.4	0.8	1.7	1.3	—	—	—	
	ビジネスサイエンス研究科	76	—	—	—	—	—	—	1.3	—	3.9	—	7.9	3.9	61.8	15.8	—	—	—	—	—	1.3	—	—	—	—	—	2.6	—	—	—	—	—	
	職業有無別	有職者・計	1,504	1.1	0.3	0.1	0.3	0.3	0.1	0.5	1.1	0.6	0.8	9.1	7.1	52.0	13.5	0.6	0.1	0.1	0.1	0.3	0.8	0.2	1.3	1.7	0.3	0.1	0.4	1.5	1.5	0.1	0.1	
有職者以外・計		151	2.0	—	—	1.3	—	—	—	0.7	1.3	1.3	7.9	9.3	49.0	9.9	—	—	—	—	0.7	2.0	—	0.7	—	—	—	2.0	0.7	1.3	—	—	—	
業種別	建設業	34	2.9	—	—	—	—	—	2.9	2.9	—	—	11.8	11.8	32.4	17.6	2.9	—	—	—	2.9	2.9	—	—	—	—	—	—	5.9	—	—	—	—	
	製造業	214	1.9	0.5	0.5	0.5	0.5	—	0.5	0.9	1.4	0.5	8.9	7.0	43.0	14.0	0.5	—	—	—	0.5	0.9	—	2.3	1.4	0.5	0.5	0.9	3.3	4.2	—	—	—	
	情報通信業	254	—	—	—	0.4	0.4	—	—	0.8	0.4	—	8.3	6.3	65.7	14.2	0.8	—	—	0.4	—	0.4	—	0.4	0.8	—	—	0.4	—	—	—	—	—	
	運輸業	43	2.3	—	—	—	—	—	—	2.3	—	—	11.6	9.3	48.8	7.0	—	—	—	—	—	—	2.3	2.3	2.3	—	—	2.3	2.3	—	—	2.3	—	
	卸売・小売業	98	—	—	—	—	—	—	—	1.0	—	—	8.2	9.2	55.1	12.2	—	—	—	—	—	—	—	5.1	—	—	—	2.0	2.0	—	—	—	—	
	金融・保険業	150	1.3	—	—	0.7	0.7	—	0.7	1.3	0.7	—	8.7	8.0	50.0	12.7	0.7	0.7	—	—	—	2.0	—	2.7	3.3	—	—	0.7	0.7	0.7	—	0.7	—	
	不動産業	33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.1	—	66.7	18.2	3.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	医療・福祉	59	1.7	—	—	—	—	—	3.4	1.7	—	1.7	18.6	6.8	32.2	10.2	—	—	—	—	3.4	—	3.4	3.4	1.7	—	—	1.7	3.4	—	—	—	—	
	教育・学習支援	167	1.2	0.6	—	0.6	—	—	—	1.2	1.2	2.4	10.8	8.4	47.9	11.4	0.6	—	—	—	0.6	—	0.6	1.8	1.2	0.6	0.6	0.6	1.8	1.8	—	—	—	—
	その他サービス業	213	0.5	—	—	0.5	0.5	—	0.5	0.9	0.9	—	6.6	6.6	61.0	16.0	0.5	—	—	—	0.5	—	—	0.5	1.4	—	—	0.5	0.9	—	—	—	—	
	官公庁・自治体・公共団体	107	4.7	1.9	—	—	—	0.9	0.9	2.8	—	2.8	7.5	8.4	33.6	16.8	—	0.9	—	0.9	0.9	1.9	—	0.9	0.9	—	—	0.9	0.9	2.8	—	—	—	—
	職種別	総務・法務・人事・広報関連	177	1.1	—	—	—	—	—	0.6	1.7	—	1.1	6.2	6.2	54.2	17.5	—	0.6	—	—	0.6	0.6	—	1.1	1.7	0.6	—	1.1	—	1.7	—	—	—
		財務・経理関連	67	3.0	—	—	—	—	—	1.5	1.5	—	—	6.0	4.5	49.3	11.9	3.0	—	—	—	1.5	—	—	3.0	1.5	—	—	3.0	1.5	—	—	—	—
企画・マーケティング関連		215	0.5	—	—	—	0.5	—	0.5	0.5	—	—	5.6	6.0	64.2	13.5	—	—	0.5	—	0.9	0.5	0.5	0.9	—	—	0.5	0.9	1.9	—	—	—	—	
その他事務系		277	2.5	0.4	—	0.4	—	0.4	0.7	0.7	1.8	1.3	7.6	7.6	46.6	13.7	0.4	—	—	—	0.4	1.4	0.4	1.4	1.8	1.1	—	—	0.7	1.1	—	—	—	
営業		275	1.1	0.4	0.4	0.7	0.7	—	0.4	0.7	0.7	0.4	11.3	8.7	46.9	9.5	1.1	0.4	—	—	—	0.7	—	0.7	3.6	—	—	0.4	2.5	2.2	0.4	0.4	—	
販売・サービス		81	—	—	—	—	—	—	—	1.2	1.2	—	9.9	7.4	51.9	11.1	—	—	—	—	1.2	—	1.2	4.9	—	—	—	2.5	1.2	—	—	—	—	
技術・研究開発		187	—	—	—	—	0.5	—	—	2.7	0.5	0.5	10.7	7.																				

●居住都道府県（卒業生全体／単一回答）

		中国・四国											九州・沖縄						その他								
		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	その他	北海道・東北	北関東	一部三県	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	
調査数		1,655	0.1	0.1	0.5	0.7	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	1.0	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	2.7	2.6	81.2	5.4	3.7	2.1	1.9	
全体		952	—	—	0.5	0.6	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	1.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.3	0.3	3.2	2.8	80.3	5.0	4.3	2.0	2.1	
性年代別	男性	252	—	—	—	0.4	0.4	—	0.4	—	0.4	0.4	—	—	0.4	—	—	0.4	—	4.0	1.6	81.3	4.0	6.3	1.2	1.6	
	男性20代	290	—	—	1.0	0.3	—	—	—	0.3	—	1.7	—	0.3	—	—	—	0.3	0.3	3.4	3.8	80.7	3.8	3.4	1.7	2.8	
	男性30代	318	—	—	0.6	0.9	0.3	0.3	—	0.3	0.9	—	—	—	0.3	0.3	—	0.3	—	2.2	2.5	78.9	7.5	4.1	2.8	1.9	
	男性40代	74	—	—	—	—	—	1.4	—	—	1.4	—	1.4	—	—	—	—	—	2.7	4.1	2.7	81.1	4.1	1.4	1.4	2.7	
	男性50代	703	0.1	0.1	0.4	0.7	0.3	0.1	0.1	—	0.3	0.9	—	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	2.0	2.3	82.5	5.8	3.0	2.3	1.7	
	女性	288	—	—	0.7	1.4	0.3	—	0.3	—	0.3	0.3	—	0.3	—	—	0.3	—	0.3	3.5	2.8	79.2	6.9	3.1	3.1	1.0	
	女性20代	214	—	—	0.5	—	—	0.5	—	—	0.5	0.5	—	—	—	0.5	—	—	—	1.4	2.8	88.3	4.2	0.9	1.4	0.9	
	女性30代	163	0.6	0.6	—	—	0.6	—	—	—	1.8	—	0.6	0.6	—	—	—	—	0.6	0.6	0.6	83.4	6.1	3.7	1.8	3.1	
	女性40代	32	—	—	—	—	—	—	—	—	3.1	—	—	—	3.1	—	—	—	3.1	—	—	71.9	6.3	12.5	—	6.3	
	女性50代	1,415	0.1	0.1	0.6	0.6	0.3	0.2	0.1	0.1	0.2	0.9	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	2.6	2.5	81.1	5.8	3.7	2.2	1.9
卒業学部／研究科別	学部・計	278	0.4	—	1.4	1.1	—	—	—	0.4	0.7	—	—	—	0.4	—	—	—	—	2.5	2.2	80.2	7.9	2.9	3.2	1.1	
	文学部	286	—	0.3	0.3	0.7	0.7	0.3	—	—	1.4	—	0.3	0.3	0.7	—	—	0.3	—	2.8	3.1	81.5	3.8	3.1	2.4	3.1	
	経済学部	125	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.8	3.2	88.0	3.2	4.8	—	—	
	理学部	205	—	—	0.5	—	0.5	0.5	—	—	0.5	—	0.5	0.5	—	0.5	—	0.5	—	1.0	1.0	83.9	5.9	4.4	2.0	2.0	
	社会学部	241	—	—	0.4	0.8	—	0.4	0.4	0.4	—	1.2	—	—	—	—	—	—	1.2	2.9	3.3	80.5	5.8	2.5	2.5	1.2	
	法学部	82	—	—	—	1.2	1.2	—	—	—	1.2	1.2	1.2	—	—	—	1.2	1.2	—	2.4	2.4	72.0	12.2	2.4	3.7	4.9	
	観光学部	60	—	—	—	—	—	—	—	—	1.7	—	1.7	—	—	—	—	—	—	6.7	3.3	73.3	5.0	8.3	—	3.3	
	コミュニケーション福祉学部	65	—	—	1.5	—	—	—	—	—	1.5	—	—	—	—	—	—	—	—	4.6	1.5	76.9	6.2	7.7	1.5	1.5	
	経営学部	53	—	—	—	—	—	—	—	—	1.9	—	—	—	—	—	—	—	—	3.8	—	86.8	1.9	3.8	—	1.9	
	現代心理学部	240	—	—	—	1.3	—	—	0.4	—	1.3	—	0.4	—	0.4	—	—	—	0.8	2.9	3.3	82.1	2.9	4.2	1.7	2.1	
	研究科・計	76	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.3	—	—	—	—	—	—	1.3	3.9	89.5	1.3	2.6	—	1.3	
	ヒューマンケア研究科	1,504	0.1	—	0.3	0.6	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.9	0.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	2.6	2.5	81.7	5.6	3.7	1.7	1.8
	職業有無別	有職者・計	151	—	0.7	2.6	1.3	—	—	0.7	—	2.0	—	—	—	0.7	0.7	—	—	0.7	3.3	3.3	76.2	3.3	4.0	6.0	3.3
有職者以外・計		34	—	—	2.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5.9	2.9	73.5	8.8	5.9	2.9	—	
業種別	建設業	214	—	—	0.5	1.4	1.4	—	—	—	0.5	—	0.5	—	—	—	—	—	0.9	4.2	2.8	72.9	6.1	8.9	3.3	0.9	
	製造業	254	—	—	—	—	—	—	—	—	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—	0.8	1.2	94.5	2.8	0.4	—	0.4	
	情報通信業	43	—	—	—	—	—	—	—	2.3	—	2.3	—	—	—	—	—	—	—	2.3	2.3	76.7	7.0	7.0	2.3	2.3	
	運輸業	98	1.0	—	—	—	—	1.0	—	—	2.0	—	—	1.0	—	—	—	—	—	—	1.0	84.7	5.1	4.1	2.0	3.1	
	卸売・小売業	150	—	—	—	0.7	0.7	0.7	—	—	—	0.7	0.7	—	0.7	—	—	—	—	3.3	2.0	79.3	9.3	2.0	2.0	2.0	
	金融・保険業	33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.0	93.9	3.0	—	—	—	
	不動産業	59	—	—	—	—	—	—	—	—	3.4	—	1.7	—	—	—	1.7	—	—	5.1	3.4	67.8	11.9	5.1	—	6.8	
	医療・福祉	167	—	—	—	—	—	—	—	0.6	1.8	—	—	—	—	0.6	—	—	1.2	2.4	4.8	78.4	5.4	4.8	0.6	2.4	
	教育・学習支援	213	—	—	0.5	—	—	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.9	—	1.9	1.9	90.1	2.8	1.4	0.9	0.9	
	その他サービス業	107	—	—	0.9	2.8	—	—	0.9	—	—	—	0.9	0.9	—	—	—	0.9	0.9	8.4	5.6	66.4	6.5	4.7	4.7	2.8	
	官公庁・自治体・公共団体	177	—	—	—	0.6	0.6	—	—	—	0.6	—	—	—	—	—	—	1.1	0.6	1.7	2.8	84.2	5.1	2.8	1.1	1.7	
	職種別	総務・法務・人事・広報関連	67	—	—	1.5	—	1.5	1.5	—	—	1.5	—	—	—	1.5	—	—	—	1.5	3.0	3.0	71.6	9.0	4.5	4.5	3.0
		財務・経理関連	215	—	—	0.9	—	—	—	—	—	0.9	—	—	—	—	—	—	—	—	1.4	0.5	89.3	3.7	3.3	0.9	0.9
		企画・マーケティング関連	277	—	—	—	0.4	0.4	—	0.4	—	0.4	—	0.4	0.4	—	0.4	0.4	—	—	4.3	3.2	80.9	6.9	1.8	1.1	1.8
その他事務系		275	—	—	—	0.7	0.4	0.4	—	0.4	0.4	1.5	0.4	0.7	0.4	0.4	—	—	0.4	3.6	1.8	76.4	6.5	5.8	2.2	3.3	
営業		81	1.2	—	—	2.5	—	—	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	1.2	—	—	2.5	80.2	7.4	3.7	4.9	1.2	
販売・サービス		187	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5	0.5	3.7	86.6	4.8	3.7	—	—	
技術・研究開発		225	—	—	0.4	1.3	—	0.4	—	—	0.4	1.8	—	0.4	—	—	—	—	0.4	3.6	3.1	79.6	4.0	4.4	2.7	2.2	
その他																											

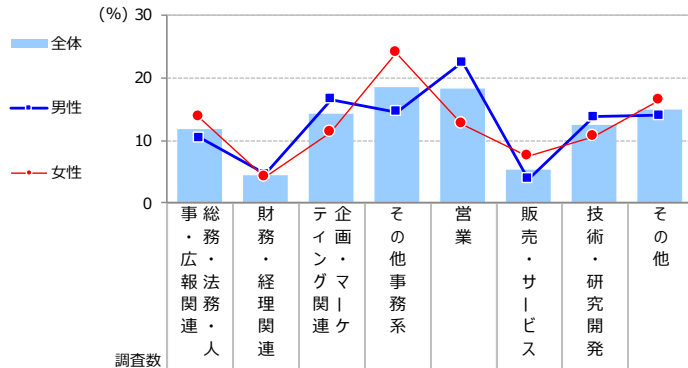
※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い

G_F6

データ集 8.【卒業生】現在の職業：職種

●現在の職業：職種 [基本属性別] (卒業生・有職者/単一回答)

F9 現在のお勤め先での職種をお選びください。



属性	調査数	事務・総務・広報法関連・人	財務・経理関連	ティン・企画・関係	その他事務系	営業	販売・サービス	技術・研究開発	その他
全体	1,504	11.8	4.5	14.3	18.4	18.3	5.4	12.4	15.0
性年代別									
男性	881	10.4	4.7	16.5	14.5	22.4	3.9	13.7	14.0
男性20代	219	6.8	4.6	14.2	14.2	25.6	4.1	18.3	12.3
男性30代	282	11.7	5.0	16.3	15.2	23.8	4.3	10.6	13.1
男性40代	300	12.7	5.0	17.0	13.7	21.3	4.0	13.7	12.7
男性50代	69	7.2	2.9	21.7	17.4	14.5	1.4	11.6	23.2
女性	623	13.6	4.2	11.2	23.9	12.5	7.5	10.6	16.4
女性20代	263	13.7	3.0	9.9	22.4	17.5	8.4	11.0	14.1
女性30代	186	10.8	5.4	12.4	29.6	11.8	6.5	10.8	12.9
女性40代	143	17.5	3.5	11.9	24.5	5.6	7.7	11.2	18.2
女性50代	27	14.8	11.1	11.1	—	7.4	3.7	3.7	48.1
居住地別									
一都三県	1,229	12.1	3.9	15.6	18.2	17.1	5.3	13.2	14.6
埼玉県	137	8.0	2.9	8.8	26.3	22.6	5.8	14.6	10.9
千葉県	107	10.3	2.8	12.1	19.6	22.4	5.6	12.1	15.0
東京都	782	12.3	4.2	17.6	16.5	16.5	5.4	12.3	15.2
神奈川県	203	15.3	3.9	14.3	18.7	12.8	4.4	16.3	14.3
一都三県以外	275	10.2	6.9	8.4	19.3	23.6	5.8	9.1	16.7

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い G_F9

●現在の職業：職種 [卒業学部/研究科別・就業状況別] (卒業生・有職者/単一回答)

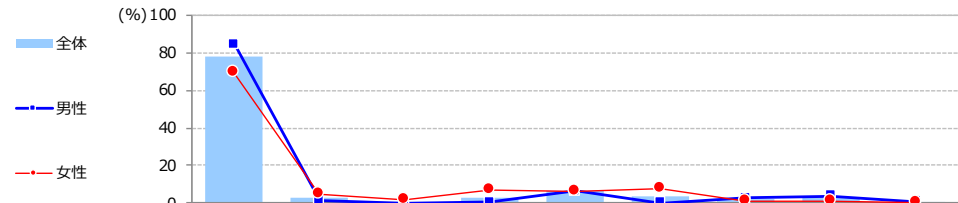
業種別	調査数	事務・総務・広報法関連・人	財務・経理関連	ティン・企画・関係	その他事務系	営業	販売・サービス	技術・研究開発	その他
全体	1,504	11.8	4.5	14.3	18.4	18.3	5.4	12.4	15.0
卒業学部/研究科別									
学部・計	1,300	12.5	4.4	14.5	18.6	19.9	5.5	11.5	13.2
文学部	247	11.7	2.0	12.6	20.2	18.6	5.7	11.3	17.8
経済学部	267	13.1	6.4	14.2	15.0	25.8	3.7	11.2	10.5
理学部	109	2.8	2.8	11.9	10.1	7.3	3.7	45.9	15.6
社会学部	191	14.7	4.2	20.4	18.8	19.9	5.8	6.3	9.9
法学部	228	17.5	7.9	14.0	21.5	21.1	3.1	3.5	11.4
観光学部	79	11.4	2.5	8.9	30.4	19.0	10.1	5.1	12.7
コミュニティ福祉学部	55	7.3	—	10.9	23.6	16.4	12.7	10.9	18.2
経営学部	61	13.1	6.6	19.7	9.8	23.0	9.8	6.6	11.5
現代心理学部	48	10.4	—	16.7	18.8	16.7	8.3	10.4	18.8
研究科・計	204	7.4	4.9	13.2	17.2	7.8	4.9	18.6	26.0
ビジネスデザイン研究科	68	7.4	1.5	23.5	16.2	10.3	2.9	14.7	23.5
業種別									
建設業	34	23.5	26.5	5.9	17.6	5.9	—	8.8	11.8
製造業	214	15.0	4.2	22.9	7.9	27.1	1.9	14.5	6.5
情報通信業	254	8.3	2.8	16.5	9.1	16.5	0.4	40.6	5.9
運輸業	43	16.3	4.7	11.6	18.6	20.9	2.3	9.3	16.3
卸売・小売業	98	16.3	4.1	6.1	14.3	30.6	20.4	5.1	3.1
金融・保険業	150	8.0	4.7	12.7	24.0	40.7	2.7	3.3	4.0
不動産業	33	9.1	9.1	24.2	18.2	15.2	3.0	3.0	18.2
医療・福祉	59	6.8	1.7	6.8	25.4	13.6	8.5	8.5	28.8
教育・学習支援	167	7.2	1.8	10.2	31.1	4.8	3.0	6.6	35.3
その他サービス業	213	14.1	5.2	16.0	15.0	14.6	13.1	4.7	17.4
官公庁・自治体・公共団体	107	20.6	5.6	8.4	43.0	1.9	2.8	4.7	13.1

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い G_F9

データ集 9.【卒業生】現在の職業：雇用形態

●現在の職業：雇用形態【基本属性別】（卒業生全体／単一回答）

F7 現在のあなたのご職業（雇用形態）をお選びください。



		調査数	員 正 社 員 ・ 正 規 職	契 約 社 員 ・ 嘱 託	派 遣 社 員	イ バ ト ー ト ・ ア ル バ	員 主 ・ 業 務 委 託 （ 自 営 業 ）	自 営 業 （ 自 営 業 主 婦 ／ 主 夫 ）	専 業 主 婦 ／ 主 夫	学 生	そ の 他	く ／ 主 夫 （ 無 職 専 業 主 婦 、 学 生 主 婦 ）	有 職 者 ・ 計	有 職 者 以 外 ・ 計
全体		1,655	77.7	2.6	1.0	3.3	6.3	3.5	2.1	2.8	0.8		90.9	9.1
性年代別	男性	952	84.1	1.2	0.1	0.5	6.6	0.2	2.6	3.8	0.8		92.5	7.5
	男性20代	252	81.7	1.6	—	1.6	2.0	—	9.1	2.8	1.2		86.9	13.1
	男性30代	290	89.7	1.4	0.3	—	5.9	—	0.3	2.1	0.3		97.2	2.8
	男性40代	318	84.0	—	—	0.3	10.1	0.3	0.3	4.7	0.3		94.3	5.7
	男性50代	74	85.1	2.7	—	—	5.4	—	—	6.8	—		93.2	6.8
	女性	703	69.0	4.6	2.1	7.0	6.0	8.0	1.3	1.4	0.7		88.6	11.4
	女性20代	288	80.6	4.5	1.7	2.8	1.7	4.2	3.1	0.7	0.7		91.3	8.7
	女性30代	214	68.7	4.2	2.8	6.5	4.7	11.7	—	0.9	0.5		86.9	13.1
女性40代	163	52.8	6.1	2.5	14.1	12.3	9.8	—	1.8	0.6		87.7	12.3	
女性50代	32	62.5	—	—	6.3	15.6	9.4	—	3.1	3.1		84.4	15.6	
居住地別	一都三県	1,344	78.4	2.5	0.8	3.3	6.3	3.0	2.2	2.5	0.9		91.4	8.6
	埼玉県	149	80.5	1.3	0.7	4.0	5.4	4.7	1.3	1.3	0.7		91.9	8.1
	千葉県	121	76.0	3.3	—	5.8	3.3	5.0	1.7	2.5	2.5		88.4	11.6
	東京都	856	78.0	2.8	0.7	3.0	6.8	2.5	2.2	3.0	0.9		91.4	8.6
	神奈川県	218	79.8	1.8	1.8	2.8	6.9	2.8	2.8	1.4	—		93.1	6.9
	一都三県以外	311	74.6	2.9	1.6	2.9	6.4	5.8	1.6	3.9	0.3		88.4	11.6

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い

●現在の職業：雇用形態 [卒業学部／研究科別・就業状況別] (卒業生全体／単一回答)

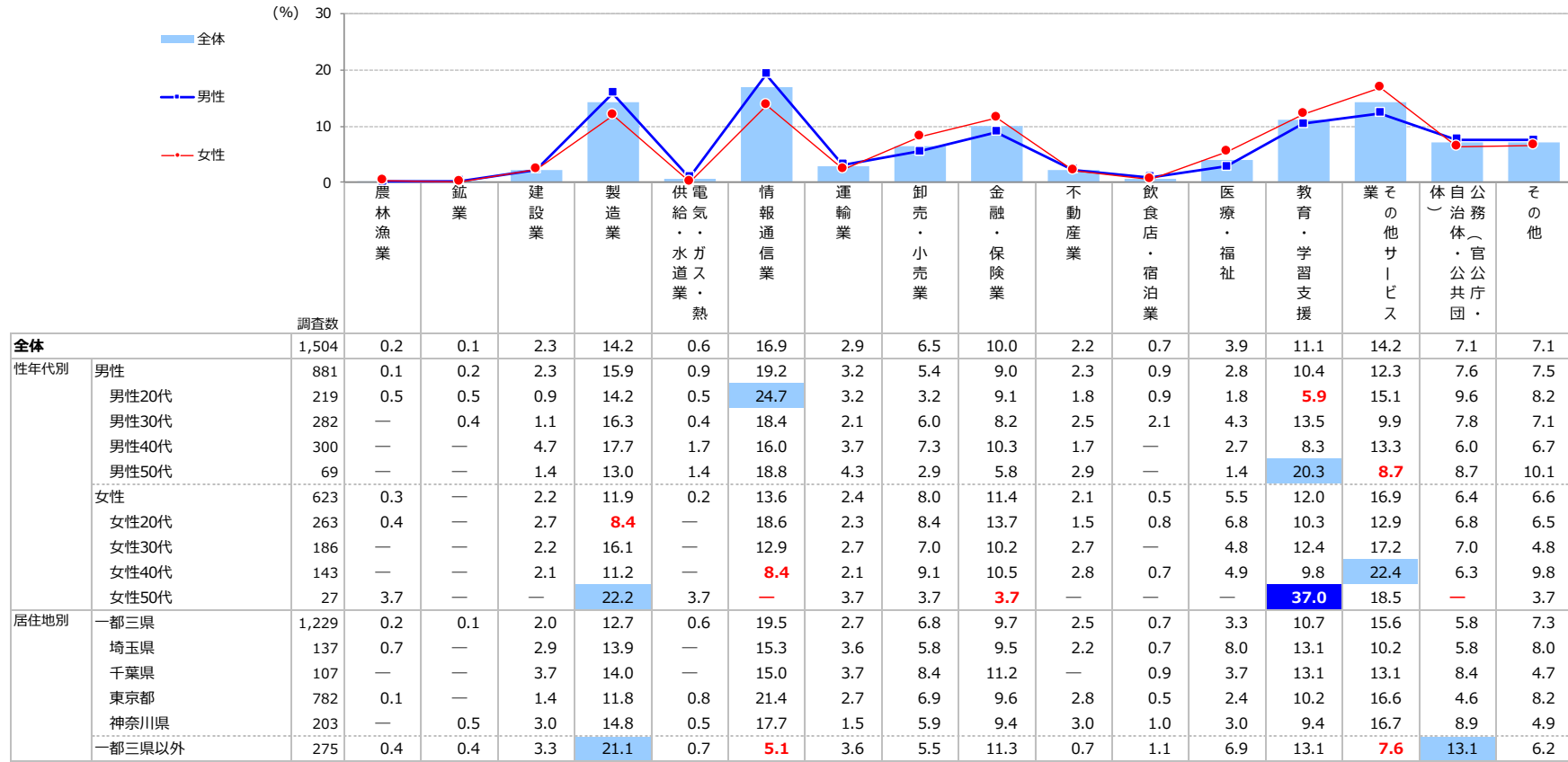
	調査数	有職者・計					有職者以外・計					有職者・計	有職者以外・計
		員正社員・正規職	契約社員・嘱託	派遣社員	アルバイト・アルバイト	員主自・業主・家族・業務委託(自営業)	専業主婦／主夫	学生	その他	く／無職(専業主婦、学生除)			
全体	1,655	77.7	2.6	1.0	3.3	6.3	3.5	2.1	2.8	0.8	90.9	9.1	
卒業学部／研究科別	学部・計	1,415	79.6	2.1	1.0	3.5	5.7	3.7	1.9	1.9	0.6	91.9	8.1
	文学部	278	72.3	2.5	1.8	4.7	7.6	6.8	1.8	2.5	—	88.8	11.2
	経済学部	286	83.6	0.7	—	2.4	6.6	3.5	0.3	2.1	0.7	93.4	6.6
	理学部	125	77.6	2.4	—	4.8	2.4	2.4	7.2	2.4	0.8	87.2	12.8
	社会学部	205	80.0	2.9	2.0	4.9	3.4	4.4	1.0	1.5	—	93.2	6.8
	法学部	241	81.7	1.2	0.8	2.9	7.9	2.1	0.8	1.7	0.8	94.6	5.4
	観光学部	82	84.1	3.7	2.4	3.7	2.4	2.4	1.2	—	—	96.3	3.7
	コミュニケーション福祉学部	60	78.3	5.0	—	—	8.3	1.7	—	5.0	1.7	91.7	8.3
	経営学部	65	86.2	1.5	—	1.5	4.6	3.1	3.1	—	—	93.8	6.2
	現代心理学部	53	81.1	1.9	—	5.7	1.9	—	9.4	—	—	90.6	9.4
	研究科・計	240	66.7	5.4	0.8	1.7	10.4	2.5	2.9	7.9	1.7	85.0	15.0
	ビジネスデザイン研究科	76	72.4	1.3	1.3	—	14.5	5.3	—	3.9	1.3	89.5	10.5
職業有無別	有職者・計	1,504	85.5	2.9	1.1	3.6	7.0	—	—	—	—	100.0	—
	有職者以外・計	151	—	—	—	—	—	38.4	22.5	30.5	8.6	—	100.0
業種別	建設業	34	88.2	—	2.9	5.9	2.9	—	—	—	—	100.0	—
	製造業	214	93.5	0.9	1.4	0.9	3.3	—	—	—	—	100.0	—
	情報通信業	254	94.5	0.4	0.4	0.8	3.9	—	—	—	—	100.0	—
	運輸業	43	97.7	—	—	—	2.3	—	—	—	—	100.0	—
	卸売・小売業	98	87.8	1.0	—	8.2	3.1	—	—	—	—	100.0	—
	金融・保険業	150	94.0	2.0	1.3	1.3	1.3	—	—	—	—	100.0	—
	不動産業	33	78.8	3.0	—	3.0	15.2	—	—	—	—	100.0	—
	医療・福祉	59	74.6	3.4	1.7	10.2	10.2	—	—	—	—	100.0	—
	教育・学習支援	167	78.4	9.0	1.2	7.2	4.2	—	—	—	—	100.0	—
	その他サービス業	213	68.5	2.3	2.3	6.1	20.7	—	—	—	—	100.0	—
	官公庁・自治体・公共団体	107	87.9	9.3	—	1.9	0.9	—	—	—	—	100.0	—
職種別	総務・法務・人事・広報関連	177	91.0	2.8	0.6	1.7	4.0	—	—	—	—	100.0	—
	財務・経理関連	67	83.6	1.5	—	1.5	13.4	—	—	—	—	100.0	—
	企画・マーケティング関連	215	90.2	0.5	0.5	0.5	8.4	—	—	—	—	100.0	—
	その他事務系	277	80.5	5.8	2.5	5.8	5.4	—	—	—	—	100.0	—
	営業	275	96.7	0.7	—	0.4	2.2	—	—	—	—	100.0	—
	販売・サービス	81	69.1	2.5	3.7	16.0	8.6	—	—	—	—	100.0	—
	技術・研究開発	187	90.4	3.2	1.6	1.6	3.2	—	—	—	—	100.0	—
	その他	225	71.6	4.4	0.4	7.1	16.4	—	—	—	—	100.0	—

※全体と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■-5pt以上低い

データ集 10.【卒業生】現在の職業：勤め先の主業種

●現在の職業：勤め先の主業種 [基本属性別] (卒業生・有職者/単一回答)

F8 現在のお勤め先の主業種をお選びください。



※全体と比較して ■ 10pt以上高い ■ 5pt以上高い ■ -5pt以上低い

●現在の職業：勤め先の主業種 [卒業学部／研究科別・就業状況別] (卒業生・有職者／単一回答)

		農 林 漁 業	鉱 業	建 設 業	製 造 業	供 電 給 ・ 水 道 業 ・ ガ ス 業 ・ 熱	情 報 通 信 業	運 輸 業	卸 売 ・ 小 売 業	金 融 ・ 保 険 業	不 動 産 業	飲 食 店 ・ 宿 泊 業	医 療 ・ 福 祉	教 育 ・ 学 習 支 援	業 そ の 他 サ ー ビ ス	自 治 体 ・ 官 公 共 団 ・ 公 務 員 ・ 官 公 庁	そ の 他	
調査数																		
全体	1,504	0.2	0.1	2.3	14.2	0.6	16.9	2.9	6.5	10.0	2.2	0.7	3.9	11.1	14.2	7.1	7.1	
卒業学部／ 研究科別	1,300	0.2	0.1	2.4	14.9	0.5	17.5	2.9	7.1	11.2	2.1	0.7	3.5	8.5	13.9	7.4	7.2	
文学部	247	—	—	1.6	9.3	0.4	18.2	1.2	8.1	10.5	1.6	0.8	2.4	16.6	15.4	7.3	6.5	
経済学部	267	—	—	3.4	13.5	0.7	18.4	2.6	8.6	18.7	3.0	—	1.9	6.4	9.4	6.4	7.1	
理学部	109	0.9	—	0.9	22.9	0.9	31.2	3.7	0.9	9.2	0.9	—	4.6	5.5	9.2	4.6	4.6	
社会学部	191	—	—	3.7	15.7	0.5	19.4	3.1	8.4	7.9	2.1	1.0	2.1	5.8	13.1	7.3	9.9	
法学部	228	0.4	0.4	2.2	18.0	—	11.4	3.5	5.7	10.5	2.2	0.4	2.6	4.8	18.9	11.4	7.5	
観光学部	79	—	—	2.5	15.2	—	7.6	6.3	7.6	7.6	1.3	2.5	3.8	7.6	19.0	11.4	7.6	
コミュニティ福祉学部	55	—	—	—	14.5	—	14.5	—	5.5	12.7	1.8	—	16.4	9.1	14.5	7.3	3.6	
経営学部	61	—	—	3.3	18.0	3.3	18.0	6.6	9.8	8.2	1.6	—	—	6.6	14.8	1.6	8.2	
現代心理学部	48	—	—	2.1	10.4	—	16.7	2.1	8.3	4.2	4.2	2.1	16.7	10.4	12.5	2.1	8.3	
研究科・計	204	0.5	0.5	1.5	9.8	1.0	12.7	2.5	2.9	2.5	2.9	1.0	6.4	27.9	15.7	5.4	6.9	
ビジネスデザイン研究科	68	—	—	1.5	17.6	1.5	16.2	4.4	2.9	1.5	4.4	1.5	5.9	13.2	22.1	1.5	5.9	
職種別	177	—	—	4.5	18.1	1.1	11.9	4.0	9.0	6.8	1.7	0.6	2.3	6.8	16.9	12.4	4.0	
総務・法務・人事・広報関連	67	1.5	1.5	13.4	13.4	—	10.4	3.0	6.0	10.4	4.5	—	1.5	4.5	16.4	9.0	4.5	
財務・経理関連	215	0.5	—	0.9	22.8	0.9	19.5	2.3	2.8	8.8	3.7	0.9	1.9	7.9	15.8	4.2	7.0	
企画・マーケティング関連	277	0.4	—	2.2	6.1	0.4	8.3	2.9	5.1	13.0	2.2	0.4	5.4	18.8	11.6	16.6	6.9	
その他事務系	275	—	0.4	0.7	21.1	1.5	15.3	3.3	10.9	22.2	1.8	—	2.9	2.9	11.3	0.7	5.1	
営業	81	—	—	—	4.9	—	1.2	1.2	24.7	4.9	1.2	6.2	6.2	2.9	34.6	3.7	4.9	
販売・サービス	187	—	—	1.6	16.6	—	55.1	2.1	2.7	2.7	0.5	—	2.7	5.9	5.3	2.7	2.1	
技術・研究開発	225	—	—	1.8	6.2	—	6.7	3.1	1.3	2.7	2.7	0.9	7.6	26.2	16.4	6.2	18.2	
その他																		

※全体と比較して ■ 10pt以上高い ■ 5pt以上高い ■ -5pt以上低い



立教大学大学院受容性調査



調査結果報告書



株式会社アンド・デイ

企画 高石純子
分析 伊藤清春

RK18-023/20181207～20190115



報道関係各位

2019年1月21日

日本初！ AI に特化した大学院 人工知能科学研究科を2020年4月に開設

立教大学（東京都豊島区、総長：郭 洋春）は、国内初となるAI（人工知能）に特化した大学院「人工知能科学研究科」（修士課程）を2020年4月に開設します。

アメリカや中国がAI研究開発において世界的な拠点となりつつある一方で、日本国内では人工知能・データサイエンスに携わる人材が大きく不足しています。特にAI人材育成の国内の教育機関による取り組みを俯瞰すると、数ヵ月間の短期的な講座や、研究室単位での部分的な取り組みに留まっているのが現状です。本学が開設する人工知能科学研究科は、機械学習やディープラーニング（深層学習）を中心としたAI領域について学習・研究できるカリキュラムの設置や文理融合型プロジェクトを推進し、各界を代表する企業等との産学連携による社会実装にも積極的に取り組む環境を設けます。

今後は、全学部学生にもAIを学ぶことができる環境を整え、研究者養成のため博士課程を設置することも目指します。

◆目的

人工知能および革新的なビッグデータ解析技術を駆使することで、自然科学・人文社会科学分野に新しい知を創出することを目指します。そして、人工知能・データサイエンスの深奥を極めた人材を社会に輩出することで、超スマート社会の実現に積極的に貢献することを目的とします。

◆4つの特長

機械学習・ディープラーニングの
本格的な学習

「社会科学×AI」による革新的な研究と
人材育成

産学連携による「社会実装」プログラムの
充実

昼夜開講形式で、
社会人も学びやすい環境

【研究科データ】

- ◆設置時期：2020年4月
- ◆所属キャンパス：池袋キャンパス
- ◆教員数：9名
- ◆開講形式：昼夜開講 <平日6時限（18:30～）+土曜日>を中心
- ◆選考方法：4月下旬以降に公表予定
- ◆募集定員：63名
- ◆学位：修士（人工知能科学）
- ◆HP：<https://ai.rikkyo.ac.jp/>

※2019年4月下旬に文部科学省へ設置届出を予定しています。また、記載されている内容は予定であり、変更の可能性があります。

この報道発表資料は、文部科学記者会、経済産業記者会で配布しております

<本件に関するお問い合わせ>

立教大学 広報課 担当：小嶋

TEL：03-3985-4418 FAX：03-3985-2827 Email：koho@rikkyo.ac.jp



参考資料

【人工知能と倫理】

AI の活用にあたっては、「ELSI」（“ Ethical, Legal, and Social Implications” = 倫理的、法的、社会的諸問題）に十分な配慮が求められます。本研究科では AI にかかわる ELSI を重点分野と捉え、人工知能の倫理を専門とする教員を配置し、AI ELSI を学ぶ科目を 1 年次必修とします。

【輩出する人材のモデル】

- AI サイエнтиスト** 機械学習の数理モデルを深く理解し、高度な情報科学や統計学の知識を持ち、論文から最新の AI 技術を実装できる力を育成。先端的な機械学習モデルを主導できる人材を目指します。
- AI エンジニア** エンジニアやプログラマー経験のある社会人が、AI 関連技術と既存技術と合わせて発展的に生かす力を育成。既存の AI 技術をソフトウェアで実装でき、実データに対して機械学習の応用ができる人材を目指します。
- AI プランナー** 基礎的な AI 関連知識を有し、業務活用を企画できる力を育成。ソフトウェア実装を経験し、エンジニアやプログラマーとコミュニケーションできる人材を目指します。
- AI プロデューサー** ビジネス経験の豊富な社会人が、幅広く、そして深い AI 関連の知識や技術を身に付けます。それらを生かして製品開発やサービスの企画立案を主導できる人材を目指します。

【設置科目（予定）】

機械学習やディープラーニング（深層学習）など、人工知能・データサイエンス分野の「知の体系」を修得する科目を設置します。企業の先端的な AI 開発・事業開拓を授業内容に取り込み、社会での実践的な力を養成する科目（プロジェクトチーム実習）を充実させます。

基幹科目

データサイエンス概論／機械学習／人工知能概論／深層学習／先端科学技術の倫理／統計モデリング I／複雑ネットワーク科学

基礎科目

情報科学概論／数理科学概論／社会情報科学概論／意思決定の科学／計算機科学概論／人工知能の哲学

応用科目

AI ビジネス特論／自然言語処理特論／人工知能社会実装／認識技術特論／脳神経科学特論／統計モデリング II／量子情報特論

演習・実習科目

Python プログラミング／機械学習演習 I／機械学習演習 II／深層学習演習 I／深層学習演習 II／社会モデリング演習／輪講 I／輪講 II／データサイエンス実習

研究指導科目

プロジェクトチーム実習 I／プロジェクトチーム実習 II／特別研究 I／特別研究 II／特別研究 III／修士論文指導演習

【研究科開設の背景補足：日本の AI・データサイエンス教育の問題】

米国の有力大学では経済学とコンピュータサイエンスのダブルメジャーのように文理を区別せずに学ぶことができます。一方で、日本国内ではデータを分析的に扱うことを学ぶ学部生は極めて少ないのが現状です。本研究科は、多様な学部を卒業した学生が、第 2 の専門分野として大学院で AI・データサイエンスを修得する新しいタイプの大学院です。

この報道発表資料は、文部科学記者会、経済産業記者会で配布しております

＜本件に関するお問い合わせ＞

立教大学 広報課 担当：小嶋

TEL : 03-3985-4418 FAX : 03-3985-2827 Email:koho@rikkyo.ac.jp

○資料4 各種報道

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料4

2 出典

- ①日経BP
- ②日本経済新聞

3 引用範囲

- ①平成31年1月22日付記事

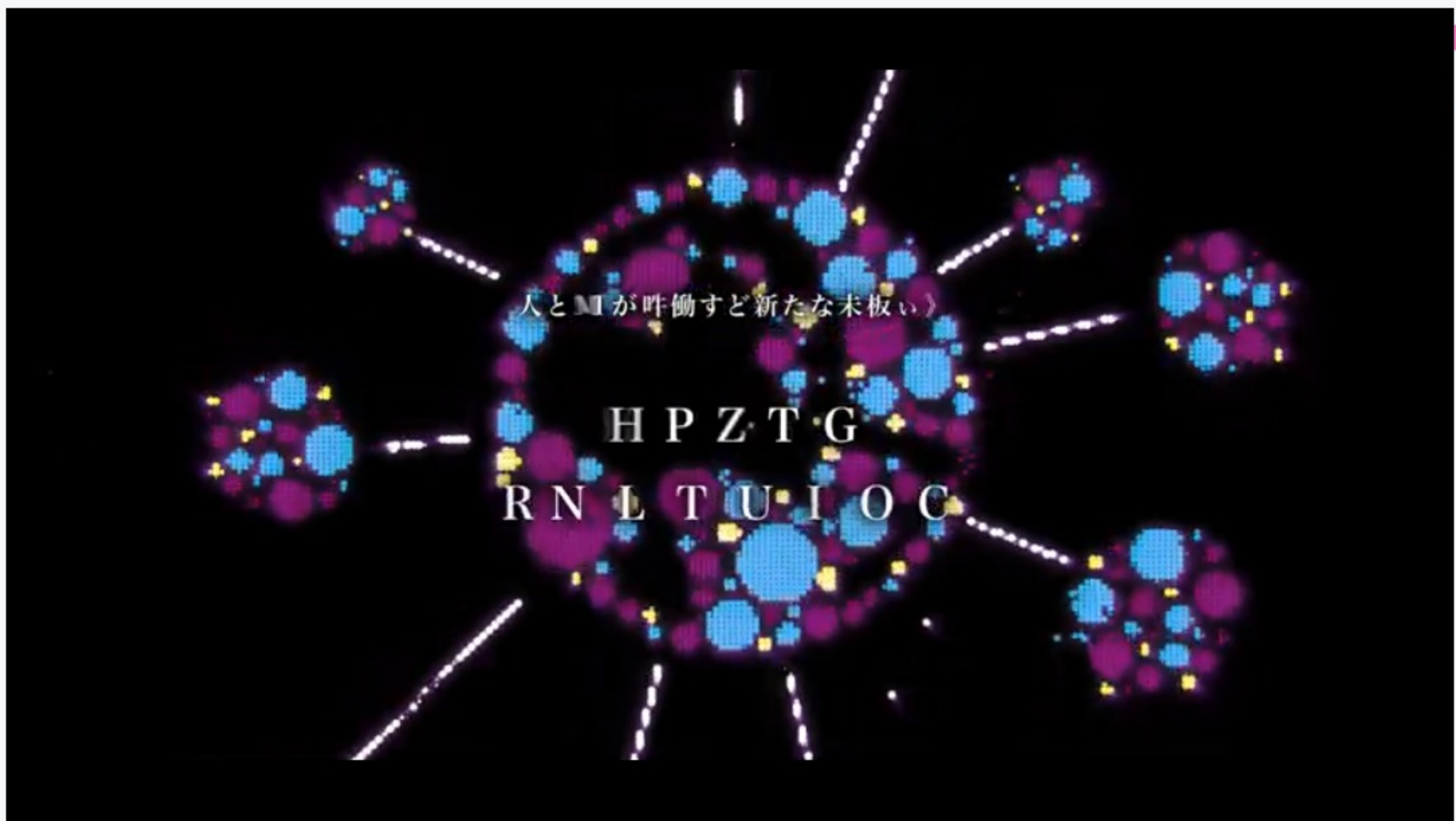
<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/18/03904/>

- ②平成31年2月27日付記事

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO41496590Q9A220C1000000/>

4 その他の説明

本研究科設置に係るプレスリリース後、反響があったことを示す根拠として、上記資料を引用した。



NEWS

2019.2.27 毎日新聞ニュースサイトに設置準備室長のインタビュー記事が掲載されました。→

2019.2.12 日経×TECHに設置準備室長のインタビュー記

EVENT

イベント情報は決まり次第公開します。

日本初となるAIに特化した 人工知能科学研究科が 2020年4月に開設。

超スマート社会ではロボットや人工知能、ビッグデータ、IoTなどの先端技術を駆使し、社会のさまざまなニーズにきめ細かく対応できるようになります。その中核をなすのが人工知能です。2020年、立教大学に日本で初めて人工知能に特化して学術の新展開をはかる大学院「人工知能科学研究科」が誕生します。人工知能・データサイエンスの知識や技術だけでなく、先端技術を活用してさまざまな社会課題の解決を実現するための実践力を育成します。

学びについて
もっと詳しくみる

4つの特長

○資料6 未来投資戦略2018（抜粋）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料6

2 出典

内閣官房内閣広報室

3 引用範囲

未来投資戦略2018 P101～P106

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/miraitousi2018_zentai.pdf

4 その他の説明

本研究科の教育研究上の目的が、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものあることを示す根拠資料として、上記資料を引用した。

○資料7 統合イノベーション戦略（抜粋）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料7

2 出典

内閣官房内閣広報室

3 引用範囲

統合イノベーション戦略 P55～P61

https://www8.cao.go.jp/cstp/togo_honbun.pdf

4 その他の説明

本研究科の教育研究上の目的が、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものあることを示す根拠資料として、上記資料を引用した。

○資料 8 「今後のわが国の大学改革のあり方に関する提言－概要版－」（2018年6月19日）

1 書類等の題名

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料 8

2 出典

一般社団法人日本経済団体連合会

https://www.keidanren.or.jp/policy/2018/051_gaiyo.pdf

3 引用範囲

「今後のわが国の大学改革のあり方に関する提言－概要版－」の P3

4 その他の説明

本研究科の教育研究上の目的が、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものあることを示す根拠資料として、上記資料を引用した。

○資料9 「Society5.0ーともに創造する未来」(概要版)(2018年11月13日)

1 書類等の題名

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料9

2 出典

一般社団法人日本経済団体連合会

https://www.keidanren.or.jp/policy/2018/095_gaiyo.pdf

3 引用範囲

「Society5.0ーともに創造する未来」(概要)のP1及びスライド34

4 その他の説明

本研究科の教育研究上の目的が、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものあることを示す根拠資料として、上記資料を引用した。